

新潟県刈羽郡西山町

宮ノ前遺跡発掘調査報告書

—県営は場整備事業北野地区に伴う発掘調査—

2003年3月

西山町教育委員会

新潟県刈羽郡西山町

宮ノ前遺跡発掘調査報告書

—県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査—

2003年3月

西山町教育委員会



例　　言

1. 本書は、新潟県刈羽郡西山町大字北野字宮ノ前に所在する宮ノ前遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県営ほ場整備事業北野地区に伴い西山町が柏崎農地事務所と費用負担契約を交わして実施した。
3. 調査主体は西山町教育委員会であり、分布調査は新潟県教育庁文化行政課職員の派遣を受けて実施した。発掘調査は平成11年4月19日から同年10月8日までの延べ86日間を行い、引き続き平成15年3月14日まで報告書作成を行った。
4. 調査費用は90%を農政部局が、残りの10%を文化財保護部局が負担した。平成11年度保護部局負担のうち50%は国庫補助金、25%は県費補助金を受けた。
5. 遺物の注記には遺跡の略称として「ミヤ」を用い、調査年度である99を付した。出土資料及び記録は西山町教育委員会で保管している。
6. 本報告書の作成は中島義人の指示のもと整理作業員が行い、本文の執筆及び編集は中島が行った。
7. 本文・図版中の北は真北を指す。磁北は真北より西偏約7度34分である。遺構表記中の方位は真北に対するものである。
8. 遺物実測図の縮尺は1:3を基本とし、大型の甕や木製品などは適宜縮尺を変更した。
9. 遺構番号は掘立柱建物を除き、通し番号とした。遺構の表記には以下の略号を用いた。
掘立柱建物…S B 井戸…S E 土坑…S K 柱穴・ピット…S P 溝…S D
10. 遺構平面図の作成及び諸測量、空中写真の撮影は（株）朝日航洋に委託して行った。
11. 現場の土色観察及び土器の色調観察には『新版標準土色帖』（小山・竹原1967）を用いた。
12. 発掘調査においては北野集落の皆様の多大な御理解・御協力をいただきました。また、北野・大坪・妙法寺・内方・五日市・新保・坂田集落の皆様からは、調査作業員として御協力を賜りました。ここに厚くお礼を申し上げます。
13. 発掘調査から報告書作成に至るまで以下の方々及び機関から御教示・協力を頂いた。記して感謝申しあげます。

宇野隆夫 尾崎高宏 春日真実 川村 尚 北野博司 北村 亮 田中 亨
並沢正史 高橋 勉 田辺早苗 前川 要 望月精司 新潟県柏崎農地事務所
新潟県教育委員会文化行政課 刈羽村教育委員会

凡　　例

	土師器・青磁		須恵器・珠州焼		灰釉陶器
	土器・木製品漆塗り		黒漆塗り		朱漆塗り
	黒色処理		煤		

目 次

第Ⅰ章 調査経緯	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査体制	1
第Ⅱ章 遺跡の環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
第Ⅲ章 遺構と遺物	6
1. 遺構の概観	6
2. 遺物の概観	6
a. 土器・陶磁器	6
i. 古墳時代	6
ii. 奈良・平安時代	6
iii. 中世以降	7
b. 漆器・木器・木製品	7
3. 調査の方法	7
4. 遺構・遺物	8
第Ⅳ章 まとめ	39
1. 古墳時代の遺物	39
2. 平安時代の遺物	40
3. 中世の土器・陶磁器	42
4. 平安時代の宮ノ前遺跡	43
《要 約》	44
《引用・参考文献》	45

表 目 次

掘建柱建物計測表	47
遺構一覧表	48
遺物観察表	50

挿図目次

第1図 宮ノ前遺跡と周辺の遺跡 (s = 1 : 50,000)	3
第2図 発掘調査範囲図 (s = 1 : 5,000)	4
第3図 グリッド設定図 (s = 1 : 750)	8
第4図 宮ノ前遺跡・畠田遺跡出土の古墳時代の須恵器	40
第5図 土師器無台碗法量散布図	41
第6図 古代土器の編年案	42

図版目次

図面図版

図版1 遺構全体実測図1 1 : 100	
図版2 遺構全体実測図2 1 : 100	
図版3 遺構全体実測図3 1 : 100	
図版4 遺構全体実測図4 1 : 100	
図版5 遺構全体実測図5 1 : 100	
図版6 遺構全体実測図6 1 : 100	
図版7 遺構全体実測図7 1 : 100	
図版8 遺構全体実測図8 1 : 100	
図版9 掘建柱建物実測図1 (SB-1) 1 : 80	
図版10 掘建柱建物実測図2 (SB-2) 1 : 80	
図版11 掘建柱建物実測図3 (SB-3) 1 : 80	
図版12 掘建柱建物実測図4 (SB-4, SK-608, SB-5) 1 : 80	
図版13 掘建柱建物実測図5 (SB-6, SB-7) 1 : 80	
図版14 掘建柱建物実測図6 (SB-8, SB-9, SB-10) 1 : 80	
図版15 掘建柱建物実測図7 (SB-11, SB-12, SB-13) 1 : 80	
図版16 掘建柱建物実測図8 (SB-14, SB-15, SB-16, SB-17) 1 : 80	
図版17 掘建柱建物実測図9 (SB-18, SB-19) 1 : 80	

- 図版18 挖建柱建物実測図10 (S B-20, S B-21) 1:80
- 図版19 挖建柱建物実測図11 (S B-22, S B-23) 1:80
- 図版20 遺構個別実測図1 (S K15, S E33, S P50, S K51, S E56, S K66, S E67)
- 図版21 遺構個別実測図2 (S K70, S E78, S P119, S K178, S K181, S E199, S P203, S P221, S E236)
- 図版22 遺構個別実測図3 (S K255, S K470, S K498, S D515)
- 図版23 遺構個別実測図4 (S K101, S P102, S K325)
- 図版24 遺構個別実測図5 (S K504)
- 図版25 遺構個別実測図6 (S K505, S D507, S P508)
- 図版26 遺構個別実測図7 (S E516, S P519, S K524, S P539, S E604, S E605, S E606)
- 図版27 遺構個別実測図8 (S E609, S E1092, S P632, S K614, S K722, S D812)
- 図版28 遺構個別実測図9 (S E873, S E875, S K896, S P966, S P979, S E1028, S E1052)
- 図版29 遺構個別実測図10 (S K1070, S E1071, S E1074, S E1075, S E1076)
- 図版30 遺構個別実測図11 (S I1073)
- 図版31 遺構個別実測図12 (S E1077, S K1081, S E1089, S E1090, S K1091, S E1096, S K1120)
- 図版32 遺構個別実測図13 (S E1097A, S K1097B)
- 図版33 遺構個別実測図14 (S K1130, S E1149, S K1324, S K1332, S E1501)
- 図版34 遺構個別実測図15 (S K1502, S K1503, S E2258)
- 図版35 遺構個別実測図16 (S K1533, S K1532, S K1561, S K1557, S E1569, S E1564, S E1576, S K1595, S E1603)
- 図版36 遺構個別実測図17 (S E1618, S K1628, S K1623, S K1638, S K1639)
- 図版37 遺構個別実測図18 (S K1647, S K1709, S K1677, S E1711)
- 図版38 遺構個別実測図19 (S K1678, S K1679, S K2255)
- 図版39 遺構個別実測図20 (S K1729, S K1772, S E1801, S K2163, S K2167, S K2172, S K1844, S K2109)
- 図版40 遺構個別実測図21 (S K2222, S K2237, S K2238, S D1321, S D1083)
- 図版41 遺物実測図1 (S B1, S B3出土遺物)
- 図版42 遺物実測図2 (S B4, S B6, S B7, S B8, S B9, S B10, S B14, S B15, S B17, S B23, S K15出土遺物)
- 図版43 遺物実測図3 (S E33, S P50, S K51出土遺物)
- 図版44 遺物実測図4 (S K51出土遺物)
- 図版45 遺物実測図5 (S K51出土遺物)
- 図版46 遺物実測図6 (S E56, S K66, S E67出土遺物)
- 図版47 遺物実測図7 (S K70, S E78, S P119, S K178, S K181, S E199, S P203, S P221, S E236出土遺物)
- 図版48 遺物実測図8 (S K255, S K325出土遺物)

- 図版49 遺物実測図9 (S K470, S K498, S K504出土遺物)
- 図版50 遺物実測図10 (S K504, S K505出土遺物)
- 図版51 遺物実測図11 (S K505, S D507, S P508, S P519, S E516, S K524, S P539出土遺物)
- 図版52 遺物実測図12 (S D515, S E604, S E605出土遺物)
- 図版53 遺物実測図13 (S E606, S K608, S E609, S K614, S P632, S K722, S D812出土遺物)
- 図版54 遺物実測図14 (S E873, S E875, S K896出土遺物)
- 図版55 遺物実測図15 (S P966, S P979, S E1028, S E1052, S K1070出土遺物)
- 図版56 遺物実測図16 (S K1070, S E1071, S I1073出土遺物)
- 図版57 遺物実測図17 (S I1073, S K1074, S E1075出土遺物)
- 図版58 遺物実測図18 (S E1075出土遺物)
- 図版59 遺物実測図19 (S E1076, S E1077, S K1081出土遺物)
- 図版60 遺物実測図20 (S D1083, S E1089, S E1090出土遺物)
- 図版61 遺物実測図21 (S E1092, S K1091出土遺物)
- 図版62 遺物実測図22 (S E1096, S E1097A, S K1097B出土遺物)
- 図版63 遺物実測図23 (S K1097B, S K1120, S K1130, S E1149, S D1321, S K1324, S K1332出土遺物)
- 図版64 遺物実測図24 (S E1501出土遺物)
- 図版65 遺物実測図25 (S K1503, S E2258, S K1532, S K1533出土遺物)
- 図版66 遺物実測図26 (S K1557, S K1561, S E1564, S E1569出土遺物)
- 図版67 遺物実測図27 (S E1576, S K1595, S E1603出土遺物)
- 図版68 遺物実測図28 (S E1618, S K1623, S K1628, S K1638, S K1639, S K1647出土遺物)
- 図版69 遺物実測図29 (S K1677, S K1678, S K1679出土遺物)
- 図版70 遺物実測図30 (S K2255, S K1709, S E1711, S K1729, S K1772出土遺物)
- 図版71 遺物実測図31 (S E1801, S K1844, S K2109, S K2163, S K2167出土遺物)
- 図版72 遺物実測図32 (S K2172, S K2222, S K2237, S K2238, S P2239, 試掘, 包含層出土遺物)
- 図版73 遺物実測図33 (包含層出土遺物)

写真図版

- 図版74 遺跡全景
- 図版75 遺跡遠景 1・2
- 図版76 掘立柱建物群
- 図版77 遺構個別写真1 (S B15～S B19, S B21, S B22, S B21-P1, S B1-P3, S B1-P4, S B1-P6, S B1周溝)
- 図版78 遺構個別写真2 (S B5-P10, S B7-P7, S B8-P1, S E33, S K51, S E56, S E67)
- 図版79 遺構個別写真3 (S K70, S E78, S K178, S E199, S K255, S K325, S K470)

- 図版80 遺構個別写真4 (S K504, S K505, S P508, S E605)
- 図版81 遺構個別写真5 (S E606, S K608, S K614, S E1092, S E873, S E875)
- 図版82 遺構個別写真6 (S K896, S E1028, S K1070, S E1071, S I1073, S K1074, S E1075)
- 図版83 遺構個別写真7 (S E1075, S E1076, S E1077, S D1083)
- 図版84 遺構個別写真8 (S E1089, S E1090, S K1091, S E1096, S E1097A)
- 図版85 遺構個別写真9 (S E1097A, S K1097B, S D1321, S E1501, S K1502, S K1503)
- 図版86 遺構個別写真10 (S K1561, S E1576, S E1603, S E1618, S K1628, S K1638, S K1647)
- 図版87 遺構個別写真11 (S K1677, S K1678, S K1679, S K2255, S K1709, S E1711, S K1729, S K1772, S K1844)
- 図版88 遺構個別写真12 (S K1844, S K2109, S K2163, S K2167)
- 図版89 遺物写真1 (S B1, S B3, S B4, S B6, S B7)
- 図版90 遺物写真2 (S B8, S B9, S B14, S B15, S B17, S E33, S K51)
- 図版91 遺物写真3 (S K51, S E56, S K66, S E67)
- 図版92 遺物写真4 (S E78, S P119, S K178, S K181, S E199, S P203, S E236, S P221, S K255, S K325, S K470)
- 図版93 遺物写真5 (S K498, S K504)
- 図版94 遺物写真6 (S K505, S D507, S P508, S P519, S D515, S E516)
- 図版95 遺物写真7 (S K524, S P539, S E604, S E605, S E606, S K608, S E609, S K614, S P632, S K325, S D812)
- 図版96 遺物写真8 (S E873, S E875, S K896, S P966, S P979, S E1028, S E1052, S K1074)
- 図版97 遺物写真9 (S K1070, S I1073)
- 図版98 遺物写真10 (S I1073, S E1075, S E1076)
- 図版99 遺物写真11 (S E1076, S E1077, S D1083, S E1089, S E1090, S E1092)
- 図版100 遺物写真12 (S K1091, S E1096, S E1097A, S K1097B)
- 図版101 遺物写真13 (S E1097A, S K1097B, S K1120, S K1130, S D1321)
- 図版102 遺物写真14 (S E1501, S K1503, S K1532, S K1533)
- 図版103 遺物写真15 (S K1561, S E1564, S E1576, S K1595, S E1603, S K1623, S K1628, S K1638, S K1639, S K6147)
- 図版104 遺物写真16 (S K1628, S K1677, S K1678, S K1679)
- 図版105 遺物写真17 (S K2255, S K1709, S K1729, S K1772, S E1081, S K1844, S K2172, S K2222, S K2237, S K2238, S P2239)
- 図版106 遺物写真18 (包含層出土遺物)
- 図版107 遺物写真19
- 図版108 遺物写真20
- 図版109 遺物写真21
- 図版110 遺物写真22

第Ⅰ章 調査経緯

1. 調査に至る経緯

西山町では農業の効率化と担い手の育成・確保と生活環境整備を目的に、北野地区において県営は場整備事業が計画され、新潟県柏崎農地事務所から西山町教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財に関する照会があった。これをうけて町教育委員会は新潟県教育庁文化行政課と協議し、工事範囲内に周知の遺跡はないが工事対象範囲が広大であることから、遺跡の有無を確認するため分布調査を行うこととした。町教育委員会は文化行政課に職員の派遣を要請し、職員の指導のもと事業計画地内の分布調査を平成10年3月に実施したところ、字畠田・宮ノ前・五十刈において古墳時代・古代の遺物が採集された。この結果をもとに町教育委員会と柏崎農地事務所で協議し、事業年度ごとに試掘調査を行い、当該工事範囲に遺跡が存在した場合、工事に先立って発掘調査を行うこととした。平成10年度は畠田遺跡が発見され、工事着工前に用排水路・揚水機場予定地で発掘調査を行った（西山町教育委員会2001）。平成11年度の工事地区は宮ノ前地区で、平成10年の稻刈りが終了してから試掘調査を行った。その結果、北野八幡社前の水田でピット・土坑などの遺構が見つかり、須恵器・土師器・灰釉陶器・珠洲焼などの遺物が出土した。この地区は過去のは場整備により地形が変更されており、田面の低いところは遺構面まで削られている。遺構が残存する範囲でも遺構面の直上に耕作土が堆積するという状況であった。町教育委員会は遺構・遺物が確認された範囲を新発見の宮ノ前遺跡として新潟県教育長へ報告し、試掘調査の結果をもとに柏崎農地事務所と工事計画などについて協議した。その結果、工事において遺跡範囲での掘削は避けられないということとなり、記録保存のための発掘調査を工事に先立って行うこととなった。発掘調査面積は3,850m²である。

柏崎農地事務所長は平成11年1月14日付け柏農地第3410号で文化庁長官へ文化財保護法第57条の3第1項の規定による通知を提出し、新潟県教育長は平成11年2月8日付け教文第1084号で柏崎農地事務所長へ発掘調査が必要である旨通知した。平成11年4月12日付けで、柏崎農地事務所と西山町が発掘調査の費用負担契約を交わし、西山町教育委員会が主体となって発掘調査を実施した。文化財保護法第98条の2による通知は、平成11年4月19日付け西教第111号によって西山町教育長から文化庁長官へ提出し、発掘調査に着手した。

2. 調査体制

分布調査（平成10年3月12日～13日）

調査主体 西山町教育委員会（教育長 三嶋千穎）

総括 伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）

庶務 力間久代（ 主査）

調査員 村木 弘（新潟県教育庁文化行政課 主任調査員）

畠田昌幸（ 文化財調査員）

試掘調査（平成10年10月5日、10日）

発掘調査（平成11年4月19日～10月8日）

調査主体 西山町教育委員会（教育長 三嶋千穂）

総括 伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）

庶務 力間久代（
　　タマシマヒロヲル
副参事）

調査担当 中島義人（
　　タカシマヨシヒト
主事）

第Ⅱ章 遺跡の環境

1. 地理的環境

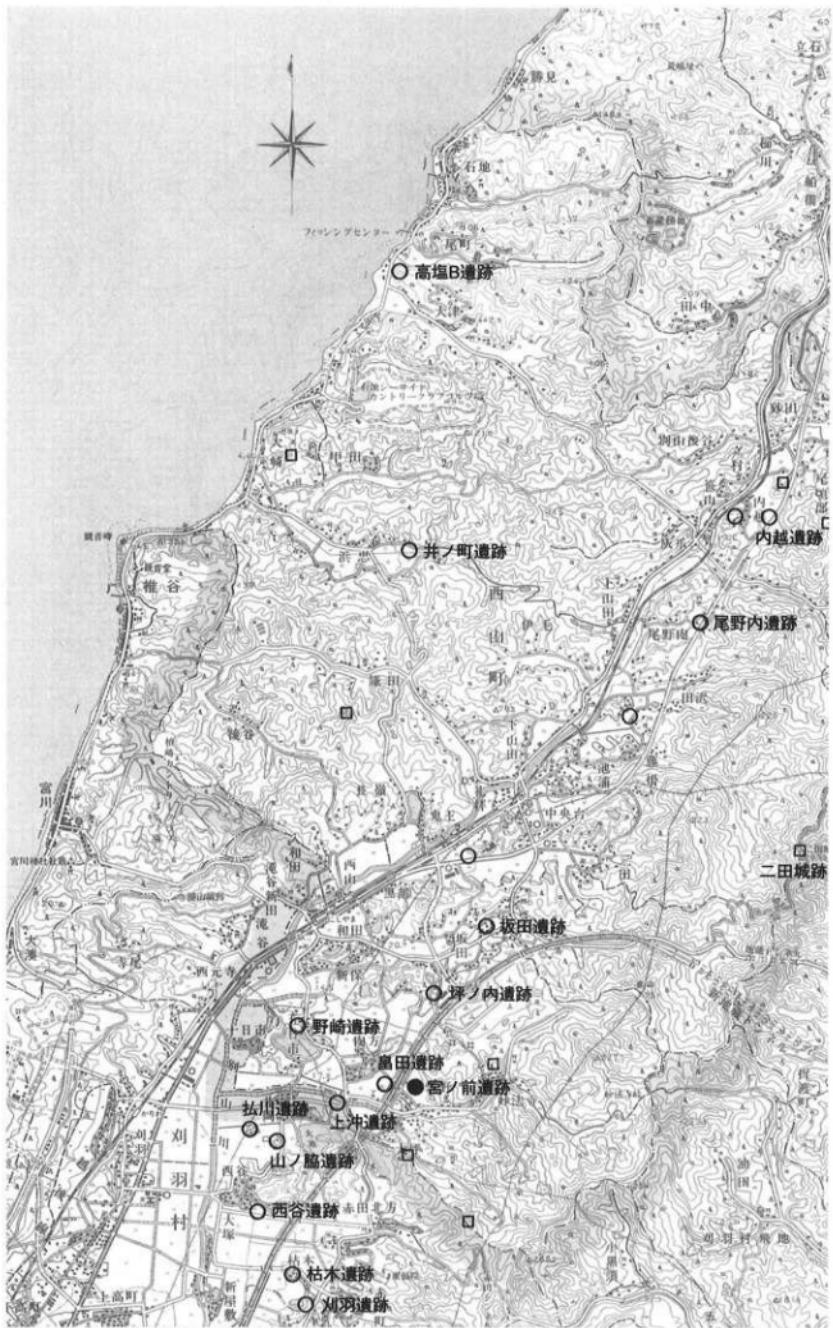
西山町は新潟県の海岸線の中央やや南よりの柏崎平野の北端に位置する中山間地域である。行政区画は東西15.47km、南北13.75km、面積56.63km²である。出雲崎町・長岡市・刈羽村・柏崎市に囲まれ、西は日本海に面す。海岸沿いを走る西山丘陵は柏崎平野の海岸部の荒浜砂丘に端を発し、国上・角田・弥彦山へ海岸部を走る。この丘陵が海岸部を走ることから海岸線に砂浜は部分的にしか見られず、岩が露頭するところが多い。東頸城丘陵の北部に当たる曾地丘陵は標高300m～350m前後で北へ伸びる。西山・曾地丘陵は褶曲構造が発達し、この背斜軸に沿って形成された吉井・西山・関原などの油田・ガス田を古くから活用した形跡があり、近代石油産業の発祥の地のひとつに上げられる。

西山丘陵と曾地丘陵の間を別山川が南流する。西山町と出雲崎町の境を源流にするこの川は西山町・刈羽村を貫流して鯖石川に合流して日本海に流れ込む。町内の平野はこの別山川流域と、二つの丘陵に直行する支尾根の間に広がる。別山川の延長線上には新潟平野へ北流する島崎川があり、この両河川沿いは柏崎平野から新潟平野への重要な交通路として利用されたみられ、旧北陸道もこの河川沿いを通過すると考えられる。別山川の両岸には所々に小規模な独立した段丘が形成され、この段丘上、もしくは周辺に多くの遺跡が存在する。

宮ノ前遺跡の所在する北野地区は西山町の南部地区で刈羽村との境界に近い。曾地丘陵から別山川に流れ込む妙法寺川の北岸、妙法寺峠越えで大積（現長岡市）に通じる道沿いに位置する。集落の西側には曾地丘陵の支尾根が迫り、遺跡の南方約250mには妙法寺川が流れる。遺跡の標高は約22mである。

2. 歴史的環境

西山町は現在刈羽郡に属しているが、この名称は14世紀頃から私的に使われ始め、江戸時代から公式に用いられたとされる。それ以前は古志郡、9世紀初頭頃に分立して三嶋郡に属したとされる。古墳時代には越国、天武・持統朝の頃（680～690年頃）に越前・越中・越後に三分割された。分割当初の古志郡は越中国に属しており、8世紀初頭に頸城・魚沼・蒲原郡とともに越後国に編入された。三嶋郡には三嶋・高家・多岐の3郷の名が見られ、そのうち多岐郷が別山川流域



第1図 宮ノ前遺跡と周辺の遺跡（古墳時代・平安時代・中世） ($S = 1 : 50,000$)



第2図 発掘調査範囲図 (S=1:5,000)

に比定されている。その他の地名では長橋庄・野崎保が町内に比定される。延喜式内社は二田物部神社・御島石部神社・石井神社・多岐神社の名が西山町に残る。

西山町で確認されている埋蔵文化財宝蔵地は173件あるがその多くは塚で、塚が盛んに築かれる中越地方の特徴が表れている。遺物包含地・集落跡は18件、城館跡は11件である。縄文時代の遺跡には海岸部の高塩A遺跡・仁位殿遺跡・大津遺跡と内陸部の多岐の脇遺跡・野崎遺跡・砂田遺跡・坪之内遺跡があり、前期から晩期までのものが確認される。弥生時代の遺跡には内越遺跡、坪之内遺跡、坂田遺跡、野崎遺跡がある。

古墳時代の遺跡の中で発掘調査が行われているものは高塩B遺跡・畠田遺跡である。高塩B遺跡は海岸部の砂丘上に立地する。住居跡などの遺構は確認されず、包含層から古墳時代前期及び後期の遺物が出土した。両時期の遺物はそれぞれ時期的なまとまりが認められる。古墳時代前期の遺物は小型丸底壺・小型器台・S字状口縁壺・鉢などがあり、畿内や東海などの影響がみられ

る（西山町教委1983）。畠田遺跡は宮ノ前遺跡に隣接する遺跡で堅穴住居3棟が検出された。ここでは、古墳時代の須恵器の出土量がやや多いのが目立つ。器種には蓋杯・高杯・甕・壺があり、時期は5世紀末葉から6世紀前半とみられる（西山町教委2001）。

奈良・平安時代遺構の遺跡で発掘調査が行われたものに尾野内遺跡・井ノ町遺跡・坪之内遺跡などがある。尾野内遺跡は平安時代・中世の複合遺跡で、平安時代の堅穴住居、中世の土塙墓などが見つかった（新潟県教委1982）。井ノ町遺跡は奈良・平安時代の遺跡で、大型の柱穴を持つ掘立柱建物と河川跡が見つかった。また、包含層からは製鉄関連の遺物が多量に出土し、周辺の丘陵における製鉄が想定される（西山町教委2001）。坪之内遺跡は掘立柱跡1棟が検出され、須恵器・土師器などとともに縁軸陶器の皿が1点出土した。このほか奈良・平安時代以降の未調査の遺跡に坂田遺跡・野崎遺跡などがある。

中世以降の遺跡の調査例は少なく、尾野内遺跡で中世末期から近世初頭の土塙墓が検出されている。山城は町内各所にあり、海岸線沿いの鎌田城・大崎城・甲田城、別山川沿いの二田城・高内城が大きなもので、他に小規模な山城が各所に築かれる。尾頭部の館跡は土留めと段切りが見られる館跡で高内城との関連が想定される。

第Ⅲ章 遺構と遺物

1. 遺構の概観

検出された遺構はすべて通し番号を付して調査を行った。掘立柱建物跡は別に通し番号を付けた。遺構の種別の標記には以下の略号を用いた。

掘立柱建物（S B） 建物内柱穴に通し番号を付け、P 1、P 2…と表す。建物軸は両梁の中央を結ぶ線の真北からの偏りで表す。

井戸（S E） 当遺跡で検出された井戸では、井戸櫛などの構造物が残存しているものはない。大型で深いもの、平面規模に対して深いものを井戸とした。

土坑（S K） 円形、楕円形、不定形、方形のものがある。浅いものが多い。

ピット（S P） その多くは掘立柱建物などの柱穴であろうが、建物構成が確認できないものである。

竪穴状遺構（S I） 一基検出している。柱穴は検出されていない。

溝（S D） 雨落ち溝、遺跡を分断する区画溝などがある。

2. 遺物の概観

a. 土器・陶磁器

i. 古墳時代

古墳時代の遺物には土師器・須恵器がある。遺構出土品もあるが、平安時代など後世の遺構に混入しているものが多い。

当期の遺物の出土量はそれほど多くないため、細分は行わない。須恵器には蓋杯・甌が、土師器では高杯、甌がみられる。土師器高杯には黒色処理を施すものがある。

ii. 奈良・平安時代

奈良時代の遺物は少量が出土している。平安時代の遺物は当遺跡で量が最も多い。須恵器・土師器・灰釉陶器・木製品などがある。実測図の掲載は遺構出土の遺物を中心に行った。

須恵器

器種は杯蓋・有台杯・無台杯・有台碗・鉢・瓶・広口瓶・横瓶・甌がある。

土師器

器種は無台碗・有台皿・甌・甌・鍋がある。当期の土師器はロクロ成形によるものがほとんどであるため、特に断らない場合はロクロ土師器を指す。器種の細分は出土量の多い無台碗を行った。

無台碗

出土遺物の中でもっとも量が多い。底部の切り離し技法は回転糸切り無調整のものがほとんどである。口縁部形態でA 1, A 2, B 1, B 2の4種に、法量ではI（口径15cm以上）、II（口径14cm前後）、III（11cm～13.5cm）、IV（11cm以下）の4種に分類した。

- A 1類…体部が丸く張り口縁部が内湾気味に収まる。
- A 2類…体部が丸味を帯びて張り、口縁部もしくは口縁端部が外反する。
- B 1類…体部が直線的に開き、口縁部はやや内湾気味に収まる。
- B 2類…体部が直線的に開き、口縁部が外反する。

黒色碗

内面に黒色処理を施す碗である。無台碗のみが認められる。形態・法量分類は無台碗に倣つた。

有台皿

長い高台を持ち黒色処理を行う。

壺

出土量はやや多いものの、全形を捉えられるものはない。

灰釉陶器

須恵器・土師器に比べると出土量は少ないが、定量出土している。有台碗・有台皿・耳皿・壺・瓶が出土している。器種ごとの細分は行っていない。

ii. 中世以降

中世以降には、珠洲焼・古瀬戸・青磁・カワラケ（土師器皿）などがある。

珠洲焼き

擂鉢・壺・壺がある。中世以降の陶磁器では最も多い。

古瀬戸

袴腰形香炉と小壺が各1点出土している。

青磁

碗・皿が出土した。皿には稜花皿が1点含まれる。

カワラケ

中世土師器皿である。煩雜となるためカワラケと称する。カワラケは手捏ね成形（T類）と口クロ成形（R類）に分ける。

b. 漆器・木器・木製品

土器類と共に伴するものについては時代を限定できるが、単独で出土したものに時代が不明なものが多いため。漆器には椀・皿、木器には曲物・箱物・折敷があり、その他の箸、杓子、匙、俎板、矢板、鉢、下駄、陽物等、用途不明の部材などを木製品とした。

3. 調査の方法

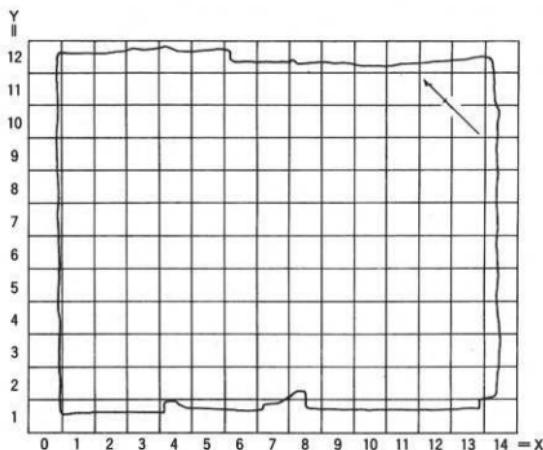
発掘調査はほ場整備事業により掘削が行われ遺跡が破壊される、約55m×70mの長方形の範囲に対して行った。グリッド設定は調査区の形状に合わせ、調査区の長辺をX軸、短辺をY軸とし

て5m毎に杭を打ち、それぞれ番号を付した（第3図）。X軸は真北から西偏約46度である。

遺跡は過去のほ場整備による掘削で包含層はほとんど残っておらず、表土・耕作土の直下に遺構面が検出された。耕作土の除去は調査員が立ち会いのもと、遺物の出土を確認しながらバックホウで行い、その後人力で遺構面の検出及び精査を行った。

包含層は削られており、残っているところでも厚さ数cm程度であることから、包含層と表土・耕作土中から出土した遺物の区別はほとんど出来なかった。遺構以外から出土した遺物はグリッド毎に取り上げを行った。

基準点測量・水準測量・遺構平面図作成・空中写真撮影は（株）朝日航洋に委託して行った。



第3図 グリッド設定図 (S=1:750)

4. 遺構・遺物

S B 1 (図版9)

梁間2間(6.20m)、桁行6間(13.56m)で、面積は84.07m²、主軸は西偏56度である。北・東・南面に雨落ち溝を持つ。柱穴のプランは方形に近く、径0.6~1.0mである。P2、P6、P9で柱根が遺存し、その他の柱穴では柱痕が確認された。P4からほぼ完形の灯明皿に転用された土師器無台碗が出土した。

S B 1 出土遺物 (図版41)

23は須恵器杯蓋で、端部は粗縁で直線的に取まる。1・4・6・15は須恵器無台杯で、底部はいずれも回転ヘラ切り後ナデを行う。1の口縁端部は内湾気味に取まる。2・3・7~10・12~14・18~22が土師器無台碗である。8・9・18がA1類、7がA2類、12がB1類、14・21がB2類である。8は口縁部に煤が付着し、ほぼ完形に遺存する。16は灰釉陶器の皿で口縁端部は短く外反する。胎土は精良緻密で、外面のロクロ痕が顕著である。施釉は内面と外面体部上半に認め

られる。5・17は須恵器壺もしくは横瓶の体部破片である。5は外面擬格子叩き後にカキメを施す。24は土師器壺の口縁部で口縁部が短く外反し端部をつまみ上げる。11は灰釉陶器で、長頸瓶のミニチュア土器である。体部に白色もしくは無色の釉がかかる。底部回転糸切り痕が残る。25～27は柱根でP 6、P 9、P 2から出土している。

S B 2 (図版10)

梁間2間(5.48m)、桁行6間(14.74m)で、面積80.78m²、主軸は西偏54度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後で深度は0.1～0.2mと浅いものが多い。柱間はほぼ等間隔である。

S B 3 (図版11)

梁間4間(7.76m)、桁行7間(15.64m)で、面積121.37m²、主軸は西偏58度である。柱穴平面形は円形に近く、直径0.4～0.7mである。柱穴深度は0.2～0.3mと浅い。

S B 3 出土遺物 (図版41)

32は須恵器無台杯で、底部は回転ヘラ切り、体部外面はロクロナデによる段が明瞭である。28～30・33は土師器無台碗である。28・29はA 1 III類である。31は須恵器壺の体部破片で外面は擬格子叩き、内面の當て具痕は平行と同心円である。

S B 4 (図版12)

梁間2間(4.36m)、桁行4間(7.32m)で、面積31.92m²、主軸は東偏35度である。柱穴平面形は隅丸方形に近く、直径0.7～0.9mである。P 7がS K608を切る。

S B 4 出土遺物 (図版42)

37は須恵器無台杯で底部と体部の境にロクロケズリを行う。34・38は土師器無台碗で、34はA 1 III類である。36は須恵器壺の体部、35は土師器壺である。35の口縁部は内側に折れて収まる。

S B 5 (図版12)

梁間2間(4.36m)、桁行5間(9.32m)で、面積40.64m²、主軸は西偏53度である。柱穴平面形は円形で直径0.5m前後である。S E255、S E607に切られる。

S B 6 (図版13)

梁間1間(4.04m)、桁行3間(6.72m)で、面積27.15m²、主軸は西偏52度である。北東面に廂を持つ柱穴平面形は円形で直径0.5m前後である。柱間は桁行が平均2.24mに対し、梁間が4.04mと長い。廂の奥行きは1.2mである。

S B 6 出土遺物 (図版42)

39は須恵器壺の体部破片で外面に平行叩き、内面に同心円當て具痕がある。

S B 7 (図版13)

梁間1間 (2.16m)、桁行4間 (7.72m)で、面積16.68m²、主軸は西偏51度である。柱穴平面形は隅丸方形で、直径は0.5~0.8mである。P 7・P 8・P 9で柱痕を確認した。

S B 7出土遺物 (図版42)

40は須恵器杯蓋で口径13.0cmである。端部は素縁で面を持つ。41は須恵器無台杯である。口縁部は大きく開き、端部は内側に屈曲する。42・44・46・48は土師器無台碗である。44はA 1 III類である。43は灰釉陶器碗である。口径15.0cm、口縁端部はやや長めに外反する。やや暗い緑灰色の釉が内外面にかかる。47・49は須恵器壺の体部である。外面に平行叩き痕、内面同心円当具痕が残る。45は板状部材である。

S B 8 (図版14)

梁間1間 (2.166m)、桁行3間 (5.56m)で、面積12.01m²、主軸は西偏54度である。柱穴平面形は円形で直径は0.4~0.6mである。

S B 8出土遺物 (図版42)

50は土師器黒色碗である。口径15cm、底径5.0cm、器高5.8cmで、A 1 I類である。

S B 9 (図版14)

梁間1間 (1.84m)、桁行4間 (7.76m)で、面積14.28m²、主軸は西偏56度である。柱穴平面形は隅丸方形に近く直径は0.7m前後である。S E 199に切られる。

S B 9出土遺物 (図版42)

51は土師器壺である。口径15cm、頸部で屈曲して口縁部が開き、口縁端部は上へ折れる。

S B 10 (図版14)

梁間2間 (3.92m)、桁行4間 (7.24m)で、面積28.38m²、主軸は西偏58度である。柱穴平面形は円形で直径0.3~0.4mである。

S B 10出土遺物 (図版42)

52は土師器壺で、口径15cmである口縁部は緩く外反して開き、口縁端部を丸く收める。

S B 11 (図版15)

梁間2間 (1.56m)、桁行3間 (4.52m)で、面積7.05m²、主軸は西偏59度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m以下である。

S B 12 (図版15)

梁間1間 (2.12m)、桁行3間 (4.92m)で、面積10.43m²、主軸は西偏53度である。柱穴平面形は円形で、直径0.6~0.4mである。

S B13 (図版15)

梁間2間（3.36m）、桁行4間（6.96m）で、面積23.39m²、主軸は西偏59度である。柱穴平面形は円形で、直径0.3m前後である。

S B14 (図版16)

梁間2間（2.80m）、桁行3間（4.48m）で、面積12.54m²、主軸は西偏51度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4～0.3mである。

S B14出土遺物 (図版42)

53はカワラケR類で、口径7.0cm、底径4.8cm、器高1.7cm、外底面に回転糸切り痕が残る。ほぼ完形に遺存する。口縁部内面に煤が、外面体部下半に漆が付着する。

S B15 (図版16)

梁間2間（3.72m）、桁行3間（6.72m）で、面積25.00m²、主軸は西偏46度である。柱穴平面形は円形で、直径0.5m前後である。P1から柱根が出土した。

S B15出土遺物 (図版42)

54は柱根である。下端はやや傾くが、平坦に仕上げる。55は須恵器壺蓋である。口径11.0cmである。口縁端部を丸く取める。

S B16 (図版16)

梁間1間（2.12m）、桁行3間（4.24m）で、面積8.99m²、主軸は西偏43度である。柱穴平面形は円形で直径0.4m前後である。

S B17 (図版16)

梁間1間（2.36m）、桁行3間（4.32m）で、面積10.20m²、主軸は西偏65度である。柱穴平面形は円形で直径0.4m前後である。P3から柱根が出土した。

S B17出土遺物 (図版42)

56は柱根である。太さ18cm前後、残存長61.0cmである。底面はやや尖り気味に成形する。

S B18 (図版17)

梁間2間（4.48m）、桁行3間（4.80m）で、面積21.50m²、主軸は西偏44度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後である。

S B19 (図版17)

梁間3間（5.00m）、桁行3間（5.00m）で、面積25.00m²、主軸は東偏32度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後である。

S B20 (図版18)

梁間1間（1.08m）以上、桁行4間（3.72m）で、面積4.02m²、主軸は西偏43度である。柱穴平面形は円形で、直径0.3m前後である。

S B21 (図版18)

梁間2間（3.52m）、桁行6間（11.20m）で、面積39.42m²、主軸は東偏33度である。柱穴平面形は円形で、直径0.2m前後である。間仕切りが3カ所ある。

S B22 (図版19)

梁間2間（2.04m）、桁行3間（3.48m）以上で、面積7.10m²、主軸は東偏57度である。柱穴平面形は円形で、直径0.7~0.6mである。

S B23 (図版19)

梁間1間（1.76m）、桁行2間（3.76m）で、面積6.62m²、主軸は西偏55度である。柱穴平面形は隅丸方形で、直径0.8~0.7mである。

S B23出土遺物 (図版42)

57・58は須恵器杯蓋である。口径はいずれも13.0cm、口縁端部の断面形は丸である。59・60は土師器無台碗である。61は土師器黑色碗A 1 III類である。62は土師器甕で、口径12.0cmである。口縁部は頸部で折れて開き、口縁端部は短く上へ折れる。

S K15 (図版20)

長径3.0m、短径2.4m、深さ0.2mの隅丸長方形の浅い土坑である。底部は細かい凹凸が多い。

S K15出土遺物 (図版42)

63は灰釉陶器碗である。口径14.0cm、口縁端部は外側へ引き出すようにやや強く屈曲する。釉は内面淡緑色、外面青緑色でやや厚くかかる。薬灰釉と見られる。

S E33 (図版20)

長径1.4m、短径1.2m、深さ1.2mの素掘りの井戸である。井戸側などの構造物は確認されなかった。

S E33出土遺物 (図版43)

64~78は箸である。最長のものは64で、長さ21.9cmである。4~6面の面取りを行い、断面形は長方形や多角形で、扁平のものが多い。両端を細く尖らせる。

S P50 (図版20)

直径0.4m、深さ0.4mのピットである。構成する建物跡は確認できなかった。

S P 50出土遺物（図版43）

79はカワラケR類で、口径9.4cm、底径7.2cm、器高2.0cmである。外底面に回転糸切り痕が残る。口縁端部は厚く、丸く收める。80は珠洲焼き擂鉢の底部ある。残存部に鉗目は見られない。底部切り離しは静止糸切りによる。外面が二次焼成により黒化する。

S K 51（図版20）

長径2.2m、短径2.0m、深さ1.4mのほぼ円形の井戸である。底部はやや平らな面を持ち、徐々に広がりながら、確認面に達する。

S K 51出土遺物（図版43）

81は土師器無台碗B 1 IV類である。焼成は良好で、調整痕が明瞭に残る。82は灰釉陶器皿である。口径13cm、口縁端部は弱く外反し、灰白色の釉が内外面とも体部上位から口縁部にかけて刷毛塗りされる。83は曲物底板で直径約18cmである。片面に漆が塗られる。84は曲物の底板である。直径40cm、径2~3mmの穴が不規則に多数開くが、人為的に開けたものか、根などにより、後に開いたものは判断できない。側面には側板を固定するための木釘の穴をほぼ等間隔に設ける。85は蒸籠の底板である。残存部の形状から隅丸方形のものとみられる。細かい穴が不規則に開けられ、側板と結束するための穴と樹皮が一ヶ所残存する。86・87は厚手の板状部材である。88~91は箱物の部材である。底板・側板とともに細かい刃物傷が付く。92~103は矢板である。井戸底部に投げ込まれたように折り重なって出土した。最長のもので103の61.9cm、幅は10cm前後のが多く、厚さ1cm前後である。先端はやや鋭角にとがる。

S E 56（図版20）

長径1.7m、短径1.0m、深さ1.0mの卵形の井戸である。S B 1 - P 16を切る。西側の中位にテラスがある。埋土は西から流れ込むように堆積し、8層に分層される。

S E 56出土遺物（図版46）

104はカワラケR類である。底部の糸切り痕は丁寧にナデ消す。胎土には大粒の礫を含む。焼成は良好で堅緻である。105は曲物の底板である。側板との結束のための穴などは確認できない。106~108は板状部材である。109・110は矢板である。先端はやや鋭角に尖らせる。

S K 66（図版20）

長径2.4m、短径2.0m、深さ0.2mの土坑である。西側をS E 67に切られる。東側は徐々に浅くなり途切れる。底部はほぼ平坦である。埋土は単層で粘質の黒色シルトである。

S K 66出土遺物（図版46）

111・112は板状部材である。111は厚さ1.3cm、長さ25.0cm、一端を丸く成形する。112は細かい刃物傷が多く付く。

S E 67 (図版20)

直径1.7m、深さ1.3mの不正円形の井戸である。S K 67を切る。埋土はほぼ水平に堆積する。中位よりやや上で珠洲焼き・蝶などが出土した。

S E 67出土遺物 (図版46)

113は珠洲焼き壺の口縁部、114は珠洲焼き擂鉢の底部である。114の底部は静止糸切りで、内底面には幅9mm 4条の卸目がほぼ隙間無く施される。115は刀子である。刃部は欠損しており、茎と柄が残る。柄は長さ14.2cm、幅1.8cm、厚さ0.6cmの2枚の板で茎をはさむ。柄は刃部から約1cmの所に溝状の彫り込みを巡る。出土時には植物性の紐が緩く巻き付いていた。目釘は無い。116は曲物底部である。117は羽子板形の木製品である。身幅6.5cm、柄幅4.5cmである。

S K 70 (図版21)

直径0.8m、深さ0.3m、円形の土坑である。埋土下層は炭化物を含む。第4層上面から青磁碗が出土した。

S K 70出土遺物 (図版47)

118は青磁碗の底部である。高台径7.0cm、釉調は淡緑色である。外面の施釉は高台底面より施される。体部外面に連弁紋が、内底面に草花様模様が施される。高台内側に墨痕が付く。

S E 78 (図版21)

直径1.4m、深さ0.9m、不正円形の井戸である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。下層は腐植した植物質を多く含む黒色シルト層が堆積し、その上の壁面には地山の崩落土が入り込む。

S E 78出土遺物 (図版47)

119・120は箸である。119は全形が残り、長さ19.5cmである。断面形は扁平な方形である。121～123は板状部材で、用途は不明である。

S P 119 (図版21)

直径0.3m、深さ0.4mのピットである。構成する建物などは確認できなかった。

S P 119出土遺物 (図版47)

124は須恵器碗である。口径15.0cm、口縁部は内湾して大きく開く。125は板状部材で、根板とみられる。

S K 181 (図版21)

長径0.7m、短径0.6m、深さ0.3mの長方形の土坑である。底部はほぼ平坦である。

S K 181出土遺物 (図版47)

130は須恵器無台杯で、口径12.0cm、底径7.6cm、器高3.5cmである。底部ヘラ切り痕を丁寧にナ

デ消す。底部は厚く、体部との境に棱をもつ。胎土に海面骨針を含む。

S P 203 (図版21)

長径0.5m、短径0.3m、深さ0.6mのピットである。

S P 203出土遺物 (図版47)

136は須恵器長頸瓶である。頸部と肩部の接合部は内面に頸部の下端が出る。肩部は丸味をもつ。

S P 221 (図版21)

直径0.2m、深さ0.2mのピットである。

S P 221出土遺物 (図版47)

137は土師器無台碗B 2 III類である。口縁部の一部に煤が付着する。

S K 178 (図版21)

長径1.2m、短径1.0m、深さ0.1mの土坑である。ほぼ中央を直径0.4mのピットが切る。テラス状部分から遺物が出土した。

S K 178出土遺物 (図版47)

126～128は須恵器無台杯である。いずれも口径13cm前後、器高3cm前後、形態・胎土も類似する。126・128は底部のヘラ切り痕をナデ消し、126は内底面に仕上げナデを行なう。129は土師器甕である。口径22.4cm、底径10.2cm、器高17.4cmである。口縁部は直線的に開き、端部に面をもつ。体部外面は縦方向のヘラケズリを、体部内面には横方向のヘラナデを行う。体部外面下半に煤が付着する。胎土に礫・海面骨針を含む。

S E 199 (図版21)

直径1.1m、深さ0.9mの円形の井戸である。確認面から0.3mまでは徐々に狭くなり、そこから垂直に掘り込まれる。底面は平坦である。第1層から礫及び土器類が、第3層から木製陽物が出土した。

S E 199出土遺物 (図版47)

131は土師器無台碗A 1 III類で、口縁端部内側に面を持つ。132は須恵器甕の体部で外面に擬格子叩き、内面に同心円当具痕が残る。133は灰釉陶器皿で、口径19.0cm、口縁端部は玉縁状で、灰白色の釉が内外面に刷毛塗りされる。134は折敷底部である。角を丸く仕上げる。135は木製の陽物もしくは形代で、長さ41.9cmである。先端部はえぐりを入れて頭部を成形し、基部には側面から貫通する穴が開く。断面は先端部が扁平で、軸は円形である。

S E 236 (図版21)

長径1.3m、短径1.0m、深さ0.9mの井戸である。壁面は緩く傾斜して立ち上がる。

S E 236出土遺物（図版47）

138は珠洲焼き壺である。口径18.0cm、口縁部は外反し、口縁端部は面をもつ。139は箸で、長さ18.9cmである。

S K 255（図版22）

長径2.6m、短径1.8m、深さ1.1m、不正長方形の土坑である。底部は狭く平坦で、壁面はやや開き気味に立ち上がる。埋土はほぼ水平に堆積し、地山土がブロック状に混入する。

S K 255出土遺物（図版48）

140はカワラケT類で、口径12.6cm、底径9.0cm、器高3.0cm、口縁部に横ナデ、内面にナデを施す。底部外面に指頭圧痕が残る。141は珠洲焼き擂鉢で口径33.0cm、内面に幅17mm 8条の釦目を施す。142は珠洲焼き壺で外面に平行叩きを行う。胎土に黒色吹出が多い。143は木製鋏先である。長さ23.9cm、幅14.0cm、最大厚2.4cmで、刃先は薄くなる。中央やや基部寄りに柄を取り付けるための方形の穴が開く。鉄製の刃先を取り付けた痕跡は確認できなかった。144は折敷底部である。表面に径5mm程度の焦げ痕が隨所に付く。145・146は板状部材である。

S K 325（図版23）

長径3.4m、短径2.6m、深さ0.4mの楕円形の土坑である。上面ほぼ中央ににぶい黄褐色の地山土に似た層が堆積することから倒木痕とも考えられる。底面には細かい凹凸が多い。下層の埋土は地山土ブロックを含む黒褐色シルトである。埋土中から珠洲焼きや木製品が出土した。

S K 325出土遺物（図版48）

147はカワラケT類で口径12.0cm、底径8.0cm、器高2.6cmである。ヨコナデによる段は認められない。148は珠洲焼き擂鉢で、口縁端部の面は外傾する。幅23mm14条の釦目を施す。149は珠洲焼き壺で、口縁部は外反し、肩部に径1.4cmで9葉の押圧による花紋を3個一組で施し、体部外面下半にロクロケズリを行う。底部の切り離しは静止糸切りで、内面の体部から底部にロクロナデによる段が明瞭に残る。150・151は棒状部材で太さ4cm前後である。152は削物椀の未製品で、一部欠損しているが、断面台形、体部は放射状に面をとって、碗の外形を成形する。

S K 470（図版22）

直径1.2m、深さ0.8mの円形の土坑である。底部は細く尖り気味である。埋土はほぼ水平に堆積する。

S K 470出土遺物（図版49）

153は須恵器杯蓋である。口縁端部は内側に面を持ち、先端は尖る。外面の天井部と口縁部の境ににぶい稜と凹線が巡る。口縁部から天井部にかけて丸味を帯びる。

S K 498 (図版22)

長径1.7m、短径1.4m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦である。

S K 498出土遺物 (図版49)

154は須恵器有台碗で、口径12.6cm、底径5.8cm、器高4.8cmである。口縁部はやや内湾気味に開く。高台は断面三角形で、底部と体部の境近くに貼り付ける。155はカワラケT類で、口径12.4cm、底径5.6cm、器高3.2cmである。底部外面中央は窪み、口縁部は短く直線的に開く。

S K 504 (図版24)

長径4.4m以上、短径3.2m、深さ0.3mの長円形の土坑である。埋土はほぼ水平堆積で、炭化物を多量に含む。確認面から緩やかに深くなり、底面には細かい凹凸がある。遺構確認面から中位に及ぶまで多量の遺物を包含する。遺物は細片が多く、完形に復元できる物は少ない。器種は土師器碗が多数を占めるが、須恵器鉢・甕、土師器鍋など多岐にわたる。

S K 504出土遺物 (図版49, 50)

156・157は須恵器杯蓋で、156は口径12.0cm、端部は断面形丸である。157は口径13.0cm、口縁端部は素縁である。158は須恵器有台杯で口径12.0cmである。159・160は須恵器無台杯で、口径はいずれも12.0cmである。161は須恵器有台碗で、口径13.0cm、口縁部は大きく開く。162~180、182~184は土師器無台碗である。162~172、175、177、184がA 1類、176・179・180・182・183がA 2類、173・174がB 1類、178がB 2類である。法量は162がIV類、184がI類、他はIII類である。168・169・178は口縁部に煤が付着する。181は土師器黒色碗である。A 2 III類である。内外面にヘラミガキを行う。185・186は土師器有台皿である。185は口径12.4cm、底径5.4cm、器高4.2cmで、口縁部は直線的に大きく開き、黒色処理を行う。186は底径7.6cm、高台はやや太く、直線的に開く。黒色処理を行う。187は灰釉陶器皿で、口径13.8cmで、口縁端部が強く屈曲する。無色の釉が口縁部内面に刷毛塗りされる。外面体部下半にロクロケズリを行う。胎土に黒色吹出を多く含む。188は須恵器有台鉢で、口径27.0cm、底径14.0cm、器高14.1cmである。口縁部は外へ折り曲げ、端部に面を持つ。高台は太く断面方形の両端接地である。体部外面下半にヘラケズリを行う。189・192は須恵器甕、190・191は長頸瓶の口縁部である。189の口縁端部の面に沈線が巡る。192は口径64.4cm、外面に2条の波状紋とそれぞれの下端に1条ずつの沈線が巡る。193は土師器甕の底部で、底部に回転糸切り痕が残る。体部外面に煤が付き、内面は黒化する。194は土師器鍋で、口径32.0cmである。口縁部は頸部で折れて外側へ開き、口縁端部は内側へ曲げる。体部外面に平行叩き痕、内面に平行當具痕が残る。注口が付く。195・196は鉄滓で、重量はそれぞれ110g、120gである。197は炭化した棒で、長さ71.8cm、太さ6.0cm前後である。一端を尖らせる。198は磨製石斧の基部で、石材は砂岩である。

S K 505 (図版25)

長径2.9m、短径2.3m、深さ1.2mの土坑である。S D507に切られる。上面は長楕円形を呈し、

深さ0.7~0.8mにテラスをもち、東側に横穴状に広がる。覆土には地山土ブロックが多量に含まれる。

S K505出土遺物（図版50, 51）

199~211は須恵器無台杯である。口径は11.0cm~13.0cm、器高は2.9cm~3.6cmである。202・203・206~209は底部ヘラ切り痕をナデ消す。212・213は土師器無台碗である。212はA 1 IV類、213はA 1 III類である。214は土師器黒色碗で、外底面・体部外面下半にロクロケズリを行う。215は須恵器甕の体部破片で、外面は平行叩き後にカキメを施す。216~222は土師器甕である。216・220~222は口縁部が緩く外反し、217・218の口縁部は外反して、端部を内側に折る。調整痕が見られる216・219・220・221・222の外面は縦方向のハケメを施す。223・224は土製品支脚である。224は長さ10.7cm、太さ7cm弱になる。両端が太くなる。

S D507（図版25）

S B 1 雨落ち溝であるが、浅い土坑と切り合っており、上部が削弊されているため識別ができない。

S D507出土遺物（図版51）

225~227は須恵器有台杯である。225は口径13.0cm、226は口径14.0cmである。226の体部に2条の沈線が巡る。227の高台は断面方形で外端で接地する。228~231は須恵器無台杯である。口径は12.0~13.0cmである。230・231の底部外縁にロクロナデを施す。232は土師器甕の底部で外面に縦方向のヘラケズリを行う。

S P508（図版25）

長径1.3m、短径1.0m、深さ0.1mのビットである。S K505に切られる。上面から須恵器杯が出土した。

S P508出土遺物（図版51）

233は須恵器無台杯である。口径11.6cm、底径6.4cm、器高4.3cm、底部は丸味を持ち、外面体部下端にロクロケズリを、内底面に仕上げナデを行う。7世紀代の杯Gの流れをくむ器種とみられる。

S D515（図版22）

幅2.1m、深さ0.1mの溝である。東西は徐々に浅くなり途切れしており、確認した長さは3.5m程度である。

S D515出土遺物（図版52）

239~242は土師器甕である。239は口径14.8cm、底径4.2cm、器高19.4cmである。口縁部は短く外反し、横ナデを施す。体部はややふくらみを持ち、体部最大径はほぼ中位である。外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のヘラナデを施す。外面下半は二次焼成により橙色に変色・劣化し、

中位から上位に煤が付着する。240は口径17.0cm、頸部は緩く湾曲し、口縁端部を丸く收める。241は口径15.0cm、体部から頸部は屈曲し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境の内面に稜ができる。242は口径17.0cm、口縁部は外反する。体部は大きく膨らむ球形を呈する。

S E 516 (図版26)

直径2.0m、深さ0.9m、円形の井戸である。壁面は徐々に開きながら立ち上がる。

S E 516出土遺物 (図版51)

234は須恵器無台杯で口径12.0cmである。口縁部は緩く内湾する。

S P 519 (図版26)

直径0.6m、深さ0.3mのピットである。

S P 519出土遺物 (図版51)

235は土師器高杯で、口径15.0cm、内湾する体部に外反する口縁部が付く。内面の口縁部と体部の境に稜ができる。内外面にヘラミガキを行い、黒色処理を施す。口縁部内面に横位のハケメが薄く残る。

S K 524 (図版26)

長辺1.6m、短辺1.2m、深さ0.3m、長方形の土坑である。東側を井戸に切られる。

S K 524出土遺物 (図版51)

236は須恵器壺の口縁部で、口径は約60cmである。口縁端部は上下に広がり、外側に稜を持つ。

S P 539 (図版26)

直径0.8m、深さ0.5mのピットである。

S P 539出土遺物 (図版52)

237は土師器碗A 1 III類で、口径12.0cm、底径5.6cm、器高3.7cmである。238は灰釉陶器碗である。口径15.0cmで、口縁端部は弱く外反する。灰白色の釉を刷毛塗りする。

S E 604 (図版26)

直径0.7m、深さ0.9m、円形の井戸である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

S E 604出土遺物 (図版52)

243は漆器椀の底部である。総黒漆で内底面に朱漆で模様を描く。244は板状部材で、幅1.5cm、深さ0.4cmの切れ込みを持つ。245は箸で両端を欠損する。246は板状部材で幅3.5cm、厚さ1.3cm、表面は丸味を持ち、裏面は平坦である。径0.4mmの穴が2ヶ所確認できる。

S E 605 (図版26)

直径1.2m、深さ0.8mの井戸である。底面は西側がやや高い段になる。埋土はほぼ水平に堆積する。第3層壁面から完形のカワラケが、底面から曲物底部が、その他、埋土中から刀子などが出土した。

S E 605出土遺物 (図版52)

247・248はカワラケT類である。247は口径8.2cm、底径6.3cm、器高1.7cmの完形品である。248は口径14.0cmである。249は土師器壺で口縁端部が外側に垂下する。250・251は棒状部材である。側面を削り断面方形である。先端を細く削る。252は曲物底部で直径約24cmである。253は刀子で、残存長14.2cm、幅4.6cmである。

S E 606 (図版26)

直径1.1m、深さ1.0m、円形の井戸である。底部は丸味をもつ。埋土は水平堆積で4層に分けられる。第4層上面から完形のカワラケ、珠洲焼きの壺、碟が出土した。

S E 606出土遺物 (図版53)

254はカワラケR類で、口径7.7cm、底径4.2cm、器高2.5cmである。口縁部は外反気味に伸び、底部に回転糸切り痕が残る。外底面に焼成時のひびが入る。255は珠洲焼き壺の底部である。底径18.6cm、内底面に不定方向のナデを行う。

S K 608 (図版12)

長径1.7m、短径1.1m、深さ0.3mの長楕円形の土坑である。S B 4柱穴を切る。埋土は水平堆積で5層に分けられる。第1・2層から土師器・須恵器の細片が出土した。

S K 608出土遺物 (図版53)

256～258は土師器碗である。256・258がA 1類、257がA 2類、法量は256・257がⅢ類、258がI類である。258の外面底部下端にロクロケズリを行う。259は灰釉陶器碗である。口径14.0cmで、口縁端部はやや強く外反し、内外面に淡緑色の釉がかかる。

S E 609 (図版27)

長径2.3m、短径2.0m、深さ0.8mの井戸である。堆積はレンズ状で、東側から流れ込む。

S E 609出土遺物 (図版53)

260は須恵器有台碗である。底径9.0cm、高台は太く、断面方形で外に開き両端接地である。261・262は土師器無台碗である。いずれもA 2 Ⅲ類である。263は灰釉陶器碗である。口径15.0cmで、口縁端部は弱く外反し、内外面に淡緑色の釉がかかる。264は曲物底部である。直径16.0cm、厚さ0.6cmである。

S K 614 (図版27)

長径3.7m、短径1.9m、深さ0.2mの土坑である。床面はほぼ平坦である。東側の底部は炭化物が広がる。この炭化物の上面から多量の遺物が出土した。

S K 614出土遺物 (図版53)

265・266は須恵器有台杯で、いずれも高台は外へ開き外端接地である。267は須恵器有台碗で高台は外反して開き内端接地である。268は須恵器無台杯である。口径13.0cmで、口縁部は直線的に開く。269～276は土師器無台碗である。272がA 2類、270がB 2類、他はA 1類である。法量はいずれもⅢ類である。276は底部回転糸切り後にナデを行う。277は古墳時代の土師器高杯で口縁部が外反する。内面にヘラミガキ、外面口縁部にハケメ、黒色処理を行う。

S P 632 (図版27)

直径0.5m、短径0.3mのビットである。

S P 632出土遺物 (図版53)

278はカワラケT類である。口径11.0cm、口縁部と体部の境にヨコナデによる太く浅い凹線が巡る。

S K 722 (図版27)

長径1.6m、短径1.0m、深さ0.4mの土坑である。

S K 722出土遺物 (図版53)

279は須恵器無台杯の口縁部である。口径13.0cm、ロクロナデ痕が明瞭である。

S D 812 (図版53)

幅0.2m、長さ3.6m、深さ0.2mの溝である。

S D 812出土遺物 (図版53)

280は土師器鍋である。口径33.0cmである。口縁端部が上下に広がる。

S E 873・S E 875 (図版28)

S E 873がS E 875を切る。S E 873は直径1.0m、深さ0.9mの井戸である。埋土はレンズ状に堆積する。底部付近から折敷底部が出土した。

S E 875は直径0.9m、深さ0.7mの井戸である。埋土は北側から流れ込むように堆積する。底部からカワラケが出土した。

S E 873出土遺物 (図版54)

281・282は折敷である。281は底板で、破損しているが一辺26.0cm前後、厚さ0.4cmである。縁から約1.0cmの所に6ヶ所の穴が確認できる。282は折敷側板で、長さ27.5cm、幅5.2cm、厚さ0.6cmである。

S E 875出土遺物 (図版54)

283はカワラケ T類である。口径13.0cm、底径8.0cm、器高3.8cm、口縁部にヨコナデ、内外底面には指頭圧痕が明瞭に残る。

S K 896 (図版28)

直径1.0m、深さ0.8m、円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積し、9層に分けられる。埋土中に地山土がブロック状に混入する。第8・9層から木製品が出土した。

S K 896出土遺物 (図版54)

284は珠洲焼き擂鉢である。口径30.0cmで、幅24mm12条の鉤目を入れる。285~289は板状部材である。いずれも用途は不明である。288はほぼ中央に径2mmほどの穴が開く。290は炭化した棒である。

S P 966 (図版28)

直径0.4m、深さ0.3mのピットである。

S P 966出土遺物 (図版55)

291は土師器黒色碗である。底径5.0cm、内面にヘラミガキ、外底面と外面体部下端にロクロケズリを行う。黒色処理を行い、焼成は良好で堅緻である。

S P 979 (図版28)

直径0.5m、深さ0.6mのピットである。

S P 979出土遺物 (図版55)

292・293は土師器無台碗である。いずれもA 2 III類である。

S E 1028 (図版28)

直径1.3m、深さ0.7m、円形の井戸である。底面は平坦である。埋土はほぼ水平に堆積する。埋土中に地山土がブロック状に混入する。

S E 1028出土遺物 (図版55)

294は須恵器甕の口縁部で、口径17.0cmである。口縁端部は外傾する面をもつ。295は漆器椀である。口径14.0cm、底径8.6cm、器高3.1cmである。296は板状部材、297は棒状部材である。298は刀子である。全長27.2cm、刃部長18.1cm、刃部幅2.1cm、茎長9.1cm、茎幅1.6cm、厚さ0.4cmである。刃部先端は欠損する。茎の中央からやや刃部寄りに目釘孔が開く。

S E 1052 (図版28)

長径1.1m、深さ0.8m、円形の井戸である。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。埋土は水平に堆積する。

S E 1052出土遺物（図版55）

299は漆器皿である。口径9.2cm、底径6.6cm、器高2.3cmである。300は棒状部材で用途は不明である。側面は面取りを行っており、先端は太くなる。

S K 1070（図版29）

長径1.8m、短径0.9m深さ0.8m、不正長楕円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積する。

S K 1070出土遺物（55, 56）

301・302は箸である。断面は隅丸長方形で両端を尖り気味に仕上げる。303は曲物底部である。直径約16cm、厚さ1.2cmである。片面に漆が塗られる。304・305は棒状部材である。いずれも用途は不明である。306～308は折敷部材である。306・307は径2mmほどの結節のための穴が開く。

S E 1071（図版29）

直径1.5m、深さ1.3mの井戸である。底部は平坦である。下半の壁面は垂直に立ち上がり、上半はやや広がり気味である。埋土はレンズ状に堆積する。

S E 1071出土遺物（図版56）

309・310は棒状の木製品である。309は全長29.4cmで、側面を削り、先端を尖らせる。310は全長30.5cm、側面を削り断面はやや扁平である。311・312は碗形津である。311は330g、312は555gである。313は板状部材である。厚さは一定ではなく、一方に向かい徐々に薄くなる。314・315は箸である。断面は正方形に近い。316・317は棒状部材である。316の側面は細かく削られる。317の側面は四面に面取りをしており、断面長方形である。両端は丸味を帯びる。

S I 1073（図版30）

長径5.5m、短径2.8m以上、深さ0.4mの豊穴状遺構である。北側は一段高くなる。床面には細かい凸凹がある。北側に長径2.7m、短径1.2m、深さ0.2m程の窪みがあり、炭化物を多く含む層により埋まる。柱穴などは確認できない。

S I 1073出土遺物（図版56, 57）

318は須恵器有台杯で、底径8.0cmである。高台はやや内湾して端部は丸味を帯び、外端接地である。319～324は須恵器無台杯である。口径はいずれも12cm前後である。321・323・324は底部ヘラ切り後ナデを行う。325～327・329～341は土師器無台碗である。325・326・333・338・340がA1類、他はA2類である。325は法量IV類で、底部の糸切り痕をナデ消す。326～336は法量III類である。326は底部糸切り後にロクロ削りを行う。333は内外面にヘラミガキを行う。337～341は法量II類である。328・342は土師器黒色碗である。328はA1 III類で、内面にヘラミガキを行う。343は灰釉陶器碗の口縁部である。口縁端部が弱く外反する。淡緑色の釉が残存部では内面全体、外面は体部中位より上に薄くかかる。344・345は灰釉陶器皿の底部である。344の高台は細い三日月高台で、外面下方に稜を持ち、内面は強く湾曲する。高台端部は細く尖る。底部切

り離し後にロクロ削りを行い、高台を貼り付ける。施釉は外面は高台外面から体部にかけて行われ、内面は見込み以外に行い、釉調は淡緑色である。内底面に輪状に重ね焼き痕が残る。345の高台は太く短い三日月高台で、外側の稜は中位にあり、内側の湾曲は弱い。内外面体部に無色の釉をかける。346は長頸瓶である。肩部は丸く頸部の付け根は直立に伸びる。347は長頸瓶の口縁部で、口縁端部に面を持つ。348・349は須恵器壺の口縁部である。348は直立気味に口縁部が伸び、端部は外側に肥厚する。350～354は土師器壺である。350～354は土師器壺である。350の口縁端部は内側に巻き込むように収める。351は口縁端部が内湾する。352の底部切り離しは回転糸切りで、体部外面に薄く煤が付く。353・354の口縁端部は内外に肥厚する。355は土師器有台鉢の脚部である。

S K 1074 (図版29)

直径0.8m、深さ0.1mの土坑である。

S K 1074出土遺物 (図版57)

356は土師器壺である。口径13.3cm、底径6.8cm、器高10.3cmである。口縁部は外湾し、端部を丸く収める。

S E 1075 (図版29)

直径2.6m、深さ1.1mの井戸である。底面は丸味をもつ。堆積はレンズ状である。西壁面に一部地山土の崩落が見られる。

S E 1075出土遺物 (図版57, 58)

357・358は須恵器有台杯である。357は両端接地、358は外端接地である。359は曲物側板の破片である。360は棒状部材で、用途は不明である。361～363は剖物椀の未製品である。361は内部を削り抜く。362・363は外形のみを削りだす。364は札状の木製品である。長さ29.1cm、幅3.2cm、厚さ0.5cmである。長辺側縁辺は薄く、中央が厚くなる。表裏は削りの面が明瞭に残る。上下端を丸く仕上げる。365～367は板状部材である。厚さは1cm前後である。368は棒状部材である。用途は不明である。

S E 1076 (図版29)

直径2.4m、深さ1.2m、楕円形の井戸である。底部は直径0.7mの平坦面を持ち、0.3m立ち上がった後大きく碗状に開く。埋土は西から流れ込むように堆積する。上層から完形に近い土師器碗が多く、底部の窪み上面から須恵器横瓶が出土した。

S E 1076出土遺物 (図版59)

369～382・384は土師器無台碗である。370・379・381がA 1類、他はA 2類である。369は法量IV類である。370～379は法量III類で、373は底部切り離し後ナデを、377はロクロ削りを行う。380～382は法量II類である。382は底部切り離し後ナデを行う。383・385は土師器黒色碗である。

383はA 1 I類で底部切り離し後ロクロ削りを行う。386は須恵器横瓶である。ほぼ中央で割れた半分が出土した。口径10.4cm、器高20.7cmである。口縁部は素縁で端部に面を持ち、面のほぼ中央に凹線が巡る。体部側面に閉塞円板が貼り付けられる。外面に擬格子叩き痕、内面に擬格子当具痕が残る。内面閉塞部付近は絞り込みの痕が見られる。閉塞円板の外面にはロクロナデを施す。井戸跡からの出土のため、釣瓶等への転用が想定されたが、縄などを縛り付けた擦痕等は確認できなかった。387は須恵器瓶である。体部外面に継方向のヘラ削りを行う。内底面にアバタ上の剥離がある。

S E 1077 (図版31)

直径1.9m、深さ1.1mの井戸である。底面は平坦で、緩く開きながら立ち上がる。

S E 1077出土遺物 (図版59)

388～392は須恵器無台杯である。390は薄手でやや深身のものである。391は外底面に墨痕が残る。392は外底面に墨書きが認められるが文字は不明である。393は土師器甕である。口径18.0cm、ロクロ成形され、口縁端部は外傾する面を持つ。

S K 1081 (図版31)

直径0.9m、深さ0.8mの土坑である。底面は狭く平坦で、開き気味に立ち上がる。

S K 1081出土遺物 (図版59)

394は折敷底部板である。各所が欠損しており、原形は不明であるが、円形もしくは隅丸のものとみられる。側縁部に結束のための穴がある。

S D 1083 (図版40)

幅0.9m、深さ0.3m、断面U字形の溝である。底面はやや平坦である。北壁から南へ2.5mで西へ曲がり途中で2条に分かれていずれも北へ折れて調査区外へ向かう。

S D 1083出土遺物 (図版60)

395は須恵器有台杯である。底径7.0cmで、高台は太く外へ拡がり外縁接地である。396・397は須恵器無台杯である。396の口縁部は直線的に広がる。398は土師器無台碗A 1 III類である。399は灰釉陶器碗である。底径8.2cm、三日月高台を持ち、高台外側中位よりやや下に稜を持ち、内側は弱く湾曲する。内底面と高台外面に淡緑色の釉がかかる。400は須恵器甕の底部破片である。外面に擬格子叩き痕が、内面に平行當具痕が残る。

S E 1089 (図版31)

直径1.8m、深さ1.0mの井戸である。底部から大きく開き、底部は丸味をもつ。埋土はレンズ状に堆積し、地山土ブロックを多量に含む。炭化した植物繊維を多く含む。

S E 1089出土遺物（図版60）

401は珠洲焼き四耳壺の肩部である。肩部から口縁部は緩く屈曲して開く。肩部に貼り付けによる耳が付く。402は土師器甕である。口径22.0cm、ロクロ成形され、口縁部はやや内湾気味に開き、口縁端部に外傾する面を持つ。403は曲物側板の小片である。404・405は板状部材である。用途は不明である。

S E 1090（図版31）

直径1.5m、深さ1.2mの井戸である。底部はやや平坦で、ほぼ垂直に壁が立ち上がる。埋土は水平に堆積する。第6層から第8層に腐植した植物繊維を多く含む。

S E 1090出土遺物（図版60, 61）

406は曲物である。底板直径は21.3cmのほぼ正円である。側板は高さ16.0cmで、側板の始点は樹皮により2列で止められる。側板と底板の固定方法は不明である。407は曲物底部で、直径34.3cmである。木目に沿って側縁が破損する。側板を固定する木釘が2ヶ所残存する。408は鉄製刀子である。刃部のみが遺存する。

S E 1092（図版31）

長径1.8m、短径1.3m、深さ1.2mの井戸である。底部は平坦で、壁は弱冠開き気味に立ち上がる。埋土の堆積はレンズ状で、床面よりやや上で板状部材が出土した。

S E 1092出土遺物（図版60, 61）

409～411は板状部材である。いずれも最大厚5cm前後で、側縁に向かってやや薄くなる。片面はほぼ平坦で、もう一方は細かい削りにより成形される。

S K 1091（図版31）

直径0.7m、深さ0.7mの土坑である。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は7層に分層され、水平に堆積する。第2層の中央に大型の礫とそれに潰されたように珠洲焼きの甕の下半が散乱するように出土した。第2層には地山土のブロックが多量に混ざる。

S K 1091出土遺物（図版61）

412は珠洲焼き甕である。外面に平行叩き、内面に底部から体部下半にナデを行う。413は礫で、412に乗る状態で出土したものである。自然面は丸味を帯びているため川原石と見られ、各所が割れている。414は石製品の破片とみられる。表裏が掠られ、滑らかである。

S E 1096（図版31）

直径1.1m、深さ1.3mの井戸である。底部は狭く丸味を帯び、やや開き気味に壁が立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積し、3層に分層される。第3層に炭化した植物質を多く含む。

S E 1096出土遺物（図版62）

415・416は板状部材である。いずれも破損が著しいため、原形・用途ともに不明である。

S E 1097A（図版32）

長径2.9m、短径2.5m、深さ1.0mの楕円形の井戸である。S K 1097Bに切られる。底部は平坦で、壁が開き気味に立ち上がる。埋土はほぼ水平に堆積し、大きく4層に分けられる。底部付近から完形に近い須恵器無台杯が3個体出土した。

S E 1097A出土遺物（図版62）

417～422は須恵器無台杯である。口径は12.0～13.0cm、器高3cm前後ではほぼ均一である。底部が残存するものはいずれも底部へラ切り後ナデ調整を行う。

S K 1097B（図版32）

長径6.7m、短径4.2m、深さ0.2mの土坑である。S E 1097Aを切る。埋土は大きく2層に分けられる。2層上面から完形品を多く含む土師器碗などが一括して出土している。

S K 1097B出土遺物（図版62, 63）

423は須恵器無台杯である。底部切り離し後にナデ調整を行う。424～432・434～446・448～452は土師器無台碗である。424・428・429・435・436・438・439・442・445・448・449がA1類、他はA2類である。法量は447～450がII類、451がI類、他はIII類である。425は底部糸切り後ナデ調整を行う。440は底部糸切り後ロクロ削りを行う。451は内面にヘラミガキを行う。433・447は土師器黒色碗である。447はA1 II類である。453は灰釉陶器碗である。口径14.0cmで、口縁端部はやや長く外反する。淡緑色の釉が内面残存部の全体と外面体部上位にかかる。454～456は土師器甕である。454は口径21.0cmで、口縁端部は面を持ち外側に肥厚する。455・456は底部で、いずれも底部回転糸切りである。外面に煤が付く。457は砾石である。使用痕は2面に確認できる。

S K 1120（図版31）

長径1.0m、短径0.8m、深さ0.1mの土坑である。底部はほぼ平坦である。

S K 1120出土遺物（図版63）

458は土師器鍋である。口径31.0cm、体部から口縁部が屈曲して大きく開く。体部調整は確認できない。

S K 1130（図版33）

長径1.1m、短径0.8m、深さ0.4mの土坑である。西側で別の土坑を切る。上部は水田のU字溝に壊される。第1層から板状木製品が出土した。

S K 1130出土遺物（図版63）

459は板状木製品である。残存部から直径30cm前後の円形であったと見られる。ほぼ中央に幅1cmほどの切り込みがある。

S E 1149（図版33）

直径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦でやや開き気味に立ち上がる。

S E 1149出土遺物（図版63）

460は漆器碗である。口径14.0cm、底径7.8cm、器高3.7cmである。内面に朱漆、外面黒漆が塗られ、外面に朱漆で模様が描かれる。

S D 1321（図版40）

幅3.6m、深さ0.3mの溝である。Y軸に沿って伸びる。溝の南北は重機による擾乱により壊される。底面は大きな凹凸がある。埋土は大きく2層に分かれ、下層は砂が多く混ざる。

S D 1321出土遺物（図版63）

461は須恵器蓋杯である。口径10.0cmである。口縁部は内傾気味に長く伸び、端部内側に面を持つ。先端はやや鋭く尖る。受け部は短くやや上向きに伸びる。463～468は土師器無台碗である。465・466がA 2類、他はA 1類である。法量は468がII類の他はIII類である。463は内外底面を除き被熱しており、口縁部に一部焦が付く。462は土師器黑色碗でA 1 III類である。内面にヘラミガキを行う。469～471は土師器壺である。469・470は体部から口縁部が緩く屈曲し、端部は尖り気味に収まる。471は底部破片である。底部はやや突出し、狭い平底である。体部は大きく開く。

S K 1324（図版33）

直径0.7m、深さ0.4mの土坑である。

S K 1324出土遺物（図版63）

472は長頸瓶である。口径20.0cmである。口縁部はラッパ状に大きく開き、口縁端部は外側に瘤みがある面を持つ。

S K 1332（図版33）

長径1.4m、短径1.1m、深さ0.2mの土坑である。

S K 1332出土遺物（図版63）

473・474は須恵器無台杯である。いずれも口径12.0cmで、474は体部が緩く張り、口縁部が若干開き気味に外反する。

S E 1501（図版33）

長径3.1m、短径2.5m、深さ1.2mの井戸である。底部は広い平坦面を持ち、壁はやや開き気味

に立ち上がる。埋土は上層が暗褐色で、下層が黒褐色、両方に地山土の小ブロックが含まれる。

S E 1501出土遺物（図版64）

475・476は扇子の骨である。細い板状で一端は幅が広くもう一端は細い。太い方の端部付近に径4mm前後の穴が開く。477・478は板状部材である。479～486は棒状部材で、断面長方形で、両端は薄くなる。480・481は丸太状の木材を削った部材である。482～484は丸太状の部材で、農具などの柄に使われたものとみられる。485は板状部材で一端の片面が広く炭化している。487は棒状部材で、ほぼ中央に二方向から深さ5mmほどの切れ込みを入れる。488は板状部材で、一面は樹皮が残る。489は曲物側板の一部で、木目にはほぼ直行して筋がほぼ並行に入れられる。490は木製下駄で、台部と歯部を一本で作る。側縁がほぼ残る側の鼻緒穴は、側縁から1cmほどの位置に長径2.5cm、短径1.5cmほどの前後に長いものである。歯の高さは約3.5cmである。

S K 1502（図版34）

長径2.5m、短径2.0m、深さ0.5m、楕円形の土坑である。S K 1503を切る。底部は丸味を帯び、壁は大きく開く。埋土は大きく2種に分けられ、上層は褐色の地山土が中心となり、下層は黒褐色シルトである。

S K 1503（図版34）

直径5.8m、短径4.8m、深さ0.3m、楕円形の土坑である。S K 1502に切られ、S E 2258を切る。埋土は黒褐色シルトの単層である。造構上面から古瀬戸捺形香炉が、埋土中から珠洲焼きの破片等が多数出土した。

S K 1503出土遺物（図版65）

491はカワラケT類である。口径12.0cm、底径7.0cm、器高3.2である。外底面に刷毛状工具痕が残る。492は古瀬戸捺形香炉である。体部はやや強く張り、口縁部は体部最大径より細く直立して伸び、口縁端部が短く外反する。外底面に回転糸切り痕が残る。脚部は粘土粒の貼り付けで指頭痕が残る。濃緑色の釉が内面口縁部と外面体部中位以上にかかる。493～495は珠洲焼き擂鉢である。493は口径24.0cmで、口縁端部は外傾する面を持つ。残存部に鉢目は確認できない。494は内底面に鉢目が一部残存し、外底面に静止糸切り痕が残る。495は内面に幅24mm15状の鉢目を密に施し、外底面に静止糸切り痕が残る。496は古瀬戸小壺である。口径2.8cmで肩部は強く張り、口縁部は肩部から狭まる形で、口縁端部が短く上へ伸びる。体部外面に縱位の筋状模様を多く施す。淡緑色の釉を内外面にかけ、口縁端部は釉が剥がれ落ちる。497は珠洲焼き長頸壺の頸部である。498は珠洲焼き壺の口縁部である。緩く開く口縁部に口縁端部は外側へ巻き込むように取まる。499・500は珠洲焼き壺である。口縁部は短く外へ巻き込み、体部外面に平行叩き具痕が残る。501は棒状部材である。細い角材状の部材の内側を削り抜き、外側は先端を尖らせるように削る。左右対になるように径2mmほどの穴が4ヶ所確認できる。502は棒状部材である。断面は不正五角形である。503は板状部材である。長方形で角はやや丸味を帯びる。表面に黒い付着物

が付く。504は砥石である。断面は長方形で使用により一端はやや薄くなる。滑石製である。

S E 2258 (図版34)

直径1.2m、深さ1.3mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。S K1503に切られる。

S E 2258出土遺物 (図版65)

505は棒状部材である。

S K 1532 (図版35)

直径0.7m、深さ0.4mの土坑である。西側を土坑に切られる。埋土はレンズ状に堆積する。

S K 1532出土遺物 (図版65)

506は珠洲焼き鉗鉢である。口径28.0cmで、口縁端部に内傾する面を持つ。残存部に鉤目は確認できない。

S K 1533 (図版35)

直径0.8m、深さ0.6mの土坑である。底部は平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。

S K 1533出土遺物 (図版65)

507は土師器碗A 2 III類である。内面にヘラミガキを行う。508は曲物側板である。509・510は部材である。

S K 1557 (図版35)

直径0.7m、深さ0.6mの土坑である。底部は平坦で壁はやや開き気味に立ち上がる。

S K 1557出土遺物 (図版66)

511は漆器皿である。口径9.6cm、底径6.6cm、器高1.7cmである。内外黒漆で低い高台を削り出す。

S K 1561 (図版35)

直径0.8m、深さ0.3mの土坑である。東側を土坑に切られる。底部は平坦である。埋土は水平に堆積する。底部やや上から板状木製品が出土した。

S K 1561出土遺物 (図版66)

512は折敷底部で、残存長30.0cm、各辺中央がやや膨らむ隅丸方形になる。側板と結束するための穴が4ヶ所、結束のための樹皮が2ヶ所遺存する。片面に細かい刃物痕が多く残る。513は曲物の底部である。残存部の径37.3cmである。側板と結束のための穴が4ヶ所確認できる。514は一辺30.0cmの折敷底部である。側板との結束のための穴が5ヶ所確認でき、うち1ヶ所に結束のための樹皮製紐が残る。片面に細かい刃物痕が密に残る。515は板杓子である。身の先端は丸

く成形され、身幅7.5cm、柄幅3.7cmである。

S E 1564 (図版35)

直径0.8m、深さ0.9mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。壁面に地山崩落土が堆積する。

S E 1564出土遺物 (図版66)

516は珠洲焼き壺の体部で、外面に平行叩き具痕が残る。517は曲物底板である。

S E 1569 (図版35)

長径1.2m、短径0.9m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積する。

S E 1569出土遺物 (図版66)

518は棒状部材である。

S E 1576 (図版35)

長径1.6m、短径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は狭い平坦面を持ち、壁は開きながら立ち上がる。埋土は上層に地山土ブロックを多く含む。底面から漆器皿が出土した。

S E 1576出土遺物 (図版67)

519は青磁碗である。口径16.4cm、底径5.2cm、器高6.7cmである。体部は張り、口縁端部が外側へ屈曲して開く。高台端部を削って尖り気味に仕上げる。内底面に草魚様文様が印刻され、明緑灰色の釉がかかる。内面に漆が付着する。520は須恵器長頸瓶の口縁部である。口縁端部は外側に面を持ち、凹線が巡る。521は漆器有台碗である。高台は削り出しで太く短い。内底面に模様を描く。522は木製部材である。

S K 1595 (図版35)

直径1.0m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は水平に堆積する。

S K 1595出土遺物 (図版67)

523は珠洲焼き壺である。口径46.0cmである。体部外面に平行叩き具痕が残る。内面に漆が付着し、外面に煤が付く。

S E 1603 (図版35)

長径1.7m、短径1.5m、深さ1.0mの井戸である。底面は平坦で、西側の壁は垂直気味に立ち上がり、東側の壁は開き気味に立ち上がる。埋土は東から流れ込むように堆積する。

S E 1603出土遺物 (図版67)

524は珠洲焼き鉢である。口径23.0cm、口縁端部は外傾する面を持つ。内外面に焼成時のものとみられる亀裂および剥離が顕著である。525は漆器有台碗である。口径15.0cm、底径8.8cm、器高4.0cmである。高台は短く削り出す。526は板状部材である。側縁が炭化する。527は曲物側板である。一方の側縁付近に結束用とみられる穴が2ヶ所確認できる。528~534は炭化木材である。いずれも丸木状で、成形・調整痕は確認できない。

S E 1618 (図版36)

直径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦で若干開き気味に壁が立ち上がる。埋土は下半で水平堆積、上半で流れ込みが見られる。底面から漆器皿が出土した。

S E 1618出土遺物 (図版68)

535は漆器有台碗である。口径15.6cm、底径8.6cm、器高5.2cmである。短く外側へ開く高台を削り出す。

S K 1623 (図版36)

直径0.8m、深さ0.7mの土坑である。壁はやや開き気味に立ち上がる。

S K 1623出土遺物 (図版68)

536は曲物底板である。直径9.2cm、厚さ0.6cmである。結束のための穴などは確認できない。

S K 1628 (図版36)

直径2.5m、深さ0.9mの土坑である。底面は西側が低く、西側の壁は垂直気味に立ち上がり、東側は大きく開く。埋土のは西側下半が先に堆積し、上半は東から流れ込むように堆積する。第1層から須恵器甌が出土しているが混入品である。第8層から完形の土師器無台碗がまとまって出土した。

S K 1628出土遺物 (図版68)

537は須恵器無台杯である。底径6.2cm、底部回転糸切り無調整である。538~545は土師器無台碗である。538がA2類、他はA1類である。法量はいずれもⅢ類である。541は内外面に二次焼成を受ける。546は須恵器甌である。頸部は短くやや太い。体部中位よりやや上に最大径を持つ。外底面にロクロ削りを行う。体部中位にカキメと波状文を巡らす。体部の穴は文様を切って開けられる。頸部に幅広の波状文が巡る。口縁部内面と肩部外面に自然軸がかかる。547は須恵器横瓶である。口径10.4cm、外面に擬格子叩き具痕、内面に同心円当具痕が残る。548は須恵器甌の口縁部である。口縁部外面に波状文が2段確認できる。

S K 1638 (図版36)

直径0.9m、深さ0.8mの土坑である。底部は平坦で、壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積し、第1層は地山土の小ブロックを多量に含む。

S K 1638出土遺物（図版68）

549～550は土師器無台碗である。いずれもA 2類で、法量は549がⅢ類、550がⅡ類である。551は土師器黒色碗である。552は珠洲焼き壺である。外面にロクロ削りを行う。

S K 1639（図版36）

東西2.9m以上、南北3.2m、深さ0.2mの土坑である。底部は細かいピットが少量あるがほぼ平坦である。

S K 1639出土遺物（図版68）

553は古墳時代の須恵器杯蓋である。外面天井部にロクロケズリを行う。胎土は精良で焼成は堅緻である。554～556は土師器無台碗である。554はA 1Ⅲ類、555はA 2Ⅰ類である。555は外面上に二次焼成を受ける。557は灰釉陶器皿である。底径8.0cm、高台は太い三日月高台で、外側の下方に丸味を帯びた稜が付き、内側はほとんど湾曲しない。残存部に釉は確認できない。558は須恵器壺の体部片である。外面に擬格子叩き痕、内面に同心円当具痕が残る。

S K 1647（図版37、86）

長径3.7m、短径2.7m、深さ0.3mの土坑である。底面は凹凸が多い。北側をピットに切られる。

S K 1647出土遺物（図版68）

559は須恵器無台杯である。口径12.0cmである。560・561・563は土師器無台碗である。560はA 1Ⅲ類である。562は土師器黒色碗である。

S K 1677（図版37）

長径2.4m、短径1.8m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積する。

S K 1677出土遺物（図版69）

564・565は須恵器無台杯である。いずれも口径12.0cmである。566～573・575～577は土師器無台碗である。566・569・571・572・573・577がA 1類、567・568・570がB 1類である。法量は575がⅡ類の他は、いずれもⅢ類である。568～571はほぼ完形である。570は二次焼成を受けており、口縁部に煤が強く付着し、内底面中央が二次焼成による劣化のためか窪んでいる。573は二次焼成を受けており、外底面が剥離する。574は土師器黒色碗である。A 2Ⅱ類で、内面にヘラミガキを行う。578・579は須恵器壺体部片である。外面叩き具痕は578が擬格子、579が平行、内面當て具痕はいずれも同心円である。580は土師器壺である。大きく安定した平底で、外底面中央はやや上がる。

S K 1678（図版38）

長径5.2m、短径2.4m、深さ0.3mの不正楕円形の土坑である。底面は小さい凹凸が多い。埋土

はレンズ状に堆積し、地山土の極小さいブロック、炭化物を多く含む。

S K 1678出土遺物（図版69）

581～583は須恵器無台杯である。581は外面に二次焼成を受ける。583は底部回転ハラ切り後ナギ調整を行う。584～585・587・588は土師器無台碗である。584・585はA 2 III類である。586は土師器黒色碗である。589は土師器有台皿である。内面に黒色処理を行う。590は灰釉陶器皿である。底径8.0cm、高台は三日月高台で、外側は中位よりやや下に稜を持ち、内側の湾曲は弱い。

S K 1679（図版38）

長径3.2m、短径2.0m、深さ0.3mの楕円形の土坑である。底面は全体に凹凸が広がる。S K 2255を切る。埋土はレンズ状に堆積し、炭化物を多く含む。

S K 1679出土遺物（図版69）

591は須恵器無台杯である。口径12.4cm、口縁部が直線的に開く深身のものである。592・593は土師器無台碗である。いずれもA 1 III類である。593は内面に二次焼成を受ける。594は須恵器有台鉢である。口径27.0cmである。体部は緩く内湾して開き、口縁部は外側へ屈曲する。口縁部は中央が窪んだ面を持つ。595は土師器甕である。口径16.0cmで、口縁部は内湾して収まる。

S K 2255（図版38）

長径1.8m、短径1.4m、深さ0.5mの土坑である。底部はやや尖り気味で狭い。S K 1679に切られる。埋土は西側から流れ込むように堆積する。

S K 2255出土遺物（図版70）

596は須恵器蓋杯である。口径14.0cm、口縁部内側に面を持ち、先端は尖る。口縁部は内傾して立ち上がり、受け部は斜め上方に伸びる。597～600は土師器無台碗である。599はA 2類、他はA 1類である。法量は597・598はIV類、599・600はIII類である。

S K 1709（図版37）

直径1.0m、深さ0.8mの土坑である。底部は丸味を帯び、壁は垂直に立ち上がる。埋土は水平に堆積し、大きく3層に分けられる。上層は地山土の小ブロックと炭化物が混じる。中層は地山土の大きいブロックがほとんどを占める。下層は腐植した植物纖維を多く含む黒褐色シルトである。

S K 1709出土遺物（図版70）

601は漆器椀である。内外面黒漆に朱漆で模様を描く。602・603は板状木製品である。604は棒状部材である。605～612は箸である。直径5～8mmで断面は不正形である。先端を細く仕上げる。

S E 1711（図版37）

直径1.1m、深さ1.4mの井戸である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は上

半に地山土のブロックが多量に混ざる。

S E 1711出土遺物（図版70）

613は漆器有台椀である。口径15.0cm、底径8.0cm、器高7.8cmである。内外縁黒漆塗りで、朱漆で模様を体部外面、高台面、内底面に描く。

S K 1729（図版39）

長径1.5m、短径1.1m、深さ0.6mの南側が窪んだ楕円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積し、上層は地山土のブロックを含む。

S K 1729出土遺物（図版70）

614は珠洲焼き鉢である。口径29.0cm、口縁端部は外傾する面を持つ。幅21mmに14条の鉤目を持つ。

S K 1772（図版39）

直径1.0m、深さ0.9mの土坑である。底部はやや平坦で西側の壁はほぼ垂直に、東側の壁は開き氣味に立ち上がる。埋土は東側から流れ込むようにレンズ状に堆積する。埋土は大きく3層に分けられ、上層は暗褐色シルト、中層は黒褐色シルトに地山土ブロックが多く含まれ、下層は黒褐色シルトに植物質の炭化物を多く含む。

S K 1772出土遺物（図版70）

615は棒状部材である。やや屈曲する。農具等の柄とみられる。616は折敷底板である。縁部付近に結束のための穴が2ヶ所確認できる。中央に幅8mm前後の切れ込みが入る。

S E 1801（図版39）

長径1.9m、短径1.7m、深さ1.2mの井戸である。底部は平坦で、壁は開き氣味に立ち上がる。

S E 1801出土遺物（図版71）

617は木製匙である。一本で作る。身幅6.5cm、身長11.0cm、柄幅1.8cmで、柄は途中で破損する。身は表面を削り凹面を作る。618は俎板である。長辺29.8cm、短辺18.4cm、厚さ0.5cmである。表面は細かい刃物傷が多量に付き、裏面には少量付く。表面の一端に径5mmほどの焦げ痕が4ヶ所確認できる。

S.K 1844（図版39）

直径0.8m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。埋土の堆積は水平で、穀・炭化物・腐敗した植物纖維・地山土ブロックを多く含む。

S K 1844出土遺物（図版71）

619・620は青磁碗である。619は底径5.0cm、内底面に花文様を印刻する。内面全体と外面体部から高台外側に淡緑色の釉をかける。620は底径7.2cmで、濃緑色の釉をかける。621・623は漆器

有台椀である。621は口径8.0cm、底径4.6cm、器高2.1cm、内外縁黒漆、内底面に朱漆で模様を描く。623は口径19.4cm、底径8.4cm、器高6.0cm、口縁部は緩く外反する。622は円形曲物底板である。624は板状木製品である。

S K2109 (図版39)

直径0.9m、深さ0.6mの土坑である。底面は平坦で、壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は東から流れ込み、下層には腐植した植物繊維を多く含む。底面から青磁片が出土した。

S K2109出土遺物 (図版71)

625は青磁碗である。底径5.8cmである。内底面に薄く草花文様を印刻する。

S K2163 (図版39)

直径0.6m、深さ0.3mの土坑である。底部はやや丸味を帯び、壁は垂直に立ち上がる。埋土は北側から流れ込むように堆積する。

S K2163出土遺物 (図版71)

626は漆器有台椀である。底径4.6cmである。627は板杓子である。身幅8cm以上、身長21cm、柄幅3.5cm以上の大型のものである。628は折敷底板である。一辺は丸味をもつ。結束のための穴が一ヶ所確認できる。

S K2167 (図版39)

長径3.2m、短径1.2m、深さ1.1mの長楕円形の土坑である。埋土は黒褐色シルトに地山土ブロックが多量に含まれる。上層から青磁複花皿が出土した。

S K2167出土遺物 (図版71)

629は青磁複花皿である。口径13.2cm、底径5.8cm、器高2.9cmである。明緑色の釉がかかり、内底面及び高台端面は釉を削り取る。内面体部下位に草花文様を印刻する。

S K2172 (図版39)

直径0.7m、深さ0.5mの土坑である。底部は丸味を帯び、壁は垂直気味に立ち上がる。

S K2172出土遺物 (図版72)

630は曲物側板である。方形曲物もしくは折敷のものとみられる。

S K2222 (図版40)

長辺1.9m、短辺1.7m、深さ0.1mの長方形の土坑である。埋土は単層で、地山土ブロックと暗褐色シルトブロックが混ざる。南西角から珠洲焼き壺の底部が出土した。

S K2222出土遺物 (図版72)

631は珠洲焼き壺である。底径9.0cm、底部切り離しは静止系切りである。体部外面にロクロケ

ズリを行う。

S K 2237 (図版40)

直径1.3m、深さ1.0mの土坑である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。東側は土坑に切られる。埋土は水平に堆積する。

S K 2237出土遺物 (図版72)

632は曲物底板である。直径19.0cm、厚さ1.3cmである。633は杭である。太さ3.6cm、残存長32.8cm、先端は片面を削り尖らせる。

S K 2238 (図版40)

直径0.7m、深さ0.8mの土坑である。底部は東側に横穴状に広がり平坦である。壁は垂直に立ち上がる。埋土の堆積は水平で下層は腐植した植物繊維が多く含む。

S K 2238出土遺物 (図版72)

634は珠洲焼き擂鉢である。口径31.0cm、口縁部と体部の境は薄くなる。内面に幅29mm10状の鉤目を入れる。口縁端部の面は水平である。

S P 2239 (図版40)

直径0.2m、深さ0.2mのビットである。構成する建物などは確認できなかった。

S P 2239出土遺物 (図版72)

635は珠洲焼き擂鉢である。口径28.0cm、口縁端部は内傾する面を持つ。口縁端部は破損が著しいが、一部波状文が残る。

試掘調査出土遺物 (図版72)

636は灰釉陶器皿で試掘調査で出土した。口径15.0cm、口縁端部は短く外に屈曲する。外面体部下半にロクロケズリを行い、口縁部外面に灰白色の釉を刷毛塗りする。

包含層出土遺物 (図版72, 73)

637～639は須恵器蓋杯である。口径はいずれも12.0cm、637の口縁部は直立して立ち上がり、縁部内側に丸味を帯びた面を持つ。受け部は横に伸びる。638の口縁部は内傾して立ち上がり、受け部は横に伸びる。639の口縁部は内傾して立ち上がり、受け部はやや上方に伸びる。640は須恵器有台杯の蓋で口径18.8cm、擬宝珠形のつまみを持つ。口縁部内面に短いカエリを持つ。外面天井部にロクロケズリを行う。641～644は須恵器無台杯である。口径は11.8～13.4cm、器高3cm前後、いずれも底部回転ヘラ切り後ナデ調整を行う。645・646は土師器無台碗で645はA 1類、646はA 2類、法量はいずれもⅢ類である。647～651は灰釉陶器碗の口縁部破片である。口縁端部はいずれも短く外反する。652～657は灰釉陶器皿である。653は口縁端部が極端に外反し、

655・657の口縁端部は強く外へ折れ曲がる。その他は短く外反する。658・659は灰釉陶器碗の底部破片である。658の高台は屈曲の弱い三日月高台で、659は細く高い三日月高台である。660～663は灰釉陶器皿の底部破片である。660の高台は短く退化した三日月高台である。661の高台は直立気味のものである。662・663の高台は細く湾曲する。662の内底面に重ね焼きによる高台痕が残る。664は灰釉陶器耳皿である。底部は回転糸切り無調整で、薄緑の釉をかける。665は灰釉陶器長頸瓶の頸部破片である。頸部径4.8cm、内面上位と外面全体に淡緑色の釉がかかる。666は灰釉陶器短頸壺である。口径12.0cm、口縁部は短く直立し、肩部は大きく広がる。口縁部内面から外面全体に淡緑色の釉がかかる。667は灰釉陶器の壺の肩部破片、668は体部破片である。669・670は灰釉陶器壺の底部破片である。いずれも太く短い外端接地の高台を持つ。671は青磁碗である。底径5.0cm、高台端面及び高台内面にケズリを行う。内底面に草花文様を印刻する。672は磨製石斧の刃部である。石材は蛇紋岩である。673は土師器皿の柱状高台である。底径6.8cm、底部に回転糸切り痕が残る。

第IV章 まとめ

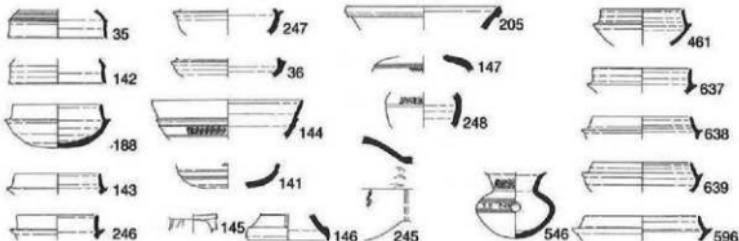
1. 古墳時代の遺物

宮ノ前遺跡と畠田遺跡の古墳時代の出土遺物は似た様相を呈し、北陸自動車道を挟んで隣接していることから、同一の集落跡であったと考えられる。ここでは両遺跡の古墳時代の年代観について考えたい。畠田遺跡では古墳時代の竪穴住居が4棟確認されたが、宮ノ前遺跡では古墳時代の住居は見つかっていない。遺物の出土量も調査面積に反して宮ノ前遺跡の方が少ないとから古墳時代集落の中心が畠田遺跡にあったみられる。

柏崎平野周辺を中心とした古墳時代の土器編年は品田高志氏がまとめている（品田 1990, 1999）。ここで、中期後半にあげられる戸口遺跡B地区の土器群は壺の口縁部の屈曲が緩くなり、内面調整にヘラ削り状のものが目立つ。食膳具の碗が出現するが黒色処理は認められず、口縁部は短く外反する。後期前半の戸口遺跡A地区の土器群では碗類の黒色処理が増加し、後期後半の高塙B遺跡では高杯を含めたほとんどの食膳具に黒色処理が行われる。碗の外反する口縁部は長くなる。中・大型の壺は徐々に体部の張りが弱くなり、長胴化へと向かう。

宮ノ前・畠田遺跡の土器群では杯の多くに黒色処理が行われ、高杯にも定量の黒色処理が認められる。壺の頸部から口縁部への屈曲は緩く、体部はやや強く張る。宮ノ前遺跡で確認される古墳時代の遺構はSD515で、土師器壺が一括して出土している。239は宮ノ前遺跡で唯一全形が確認できる壺である。これは広くはないが安定した平底を持ち、体部はやや張りがある。口縁部は緩く「く」字状に曲がる。240~242は体部上半から上が残るが、頸部は緩く湾曲するか折れ曲がり、口縁端部は丸く収まる。241はやや長胴になる。その他の遺構では小片が少量出土するものや、後世の遺構に混入したもののが見られる。杯・高杯には黒色処理を行うものが多い。杯の形態は体部が丸味を帯び、口縁部が外反して直線的に開くものが主体で、他に全体が丸味を帯び、口縁部が内湾気味に収まるものがある。高杯の脚部は太い棒状の脚柱部に大きく開く擦が付くもの、徐々に開く円筒状の脚注部のもの、杯底部から大きく脚注部が開くものがある。杯部は口縁部が外反する杯と同様の形態のものが多い。畠田遺跡でも同様の様相が見られるが、黒色処理を行わない高杯がやや多く認められた。また、壺の口縁端部に面を持つものや、端部を肥厚させるものがある。これらを品田氏の編年に対比してみると、高杯に対する黒色処理の頻度、杯・高杯の形態、壺の体部・口縁部の特徴から、戸口遺跡B地区より新しく、高塙B遺跡に先行、後期前半の戸口遺跡A地区に併行すると考えられる。

宮ノ前・畠田遺跡では須恵器の出土量が当時期にしては多いことが特徴である。当期の須恵器は在地では生産されていないため、他地域から搬入されたことは確実とみられる。その流通量は少なく希少性が認められる。蓋杯は2個体確認され、いずれも口縁端部に内傾する面を持つ。畠田遺跡34・35は同一個体で、天井部外面にカキメを行う。天井部と体部の境の稜も鋭く、TK47型式以前の特徴を持つ。畠田遺跡142の稜はやや鈍く、新しい様相を呈す。杯身は口縁端部に内傾する面をもち、口縁部の立ち上がりは垂直に近いものが多い。口径が大きいものには内傾する



第4図 宮ノ前遺跡・島田遺跡出土の古墳時代の須恵器

ものも見られる。無蓋高杯の全形は窺えないが、杯部では鋭い稜と波状文が巡り、脚部には方形の透かしが入る。腹は体部に波状文を巡らす。宮ノ前546の頭部はやや太く、沈線と波状文を巡らせる。島田245は樽形壺であるが、陶邑窯跡群ではT K208型式まで存続が確認される器種である。これらの須恵器の型式は島田245の樽形壺を除き、T K47型式からT K10型式に比定される。前出の土師器編年では後期初頭の土器群にT K47型式の須恵器が、後期前半の土器群にMT15形式の須恵器が伴う。なお、島田245の樽形壺のみが年代を古く捉えられるが、特殊な器形であることから伝世したこととも想定される。以上のことから宮ノ前・島田遺跡の古墳時代の遺物は6世紀初頭頃もしくは5世紀末から6世紀中頃のものが主体となると考えられる。

2. 平安時代の遺物

柏崎平野周辺を含め、新潟県における古代土器の編年は坂井秀弥氏、春日真実氏、品田高志氏らを始め、多くの研究が行われている。宮ノ前遺跡の調査では土坑・井戸などから平安時代の資料がまとまって出土した。ここでこれら一括出土資料を中心に宮ノ前遺跡の平安時代土器群の変遷について春日氏の編年を基に検討を加える。宮ノ前遺跡の平安時代の土器群を食膳具の形態を中心に分類し、以下のように3期に分けた。

宮ノ前Ⅰ期：SB1・SK51・SK539・SK609・SP979・SE1075・SE1077

食膳具における須恵器の比率が高く、須恵器有台杯・有台碗も一定量存在する。この段階ですでに須恵器食膳具のはほとんどが佐渡小泊窯産のものとなっており、在地産のものはほとんどみられない。須恵器無台杯は底径が大きく、口縁部の開きはそれほど大きくない。底部は厚手に作られる。底部の回転ヘラ切り痕をナデ消すものが多く、内底面に仕上げナデを行うものもある。土師器無台碗は口径に対して底径が大きく、浅めのものが主体となる。体部から口縁部は内溝気味に立ち上がるものが多い。径高指数が低いものが多い。

宮ノ前Ⅱ期：SB3・SB7・SK178・SE199・SK614・SI1073・SE1097A・SD1321・SK1677・SK1679

食膳具に占める須恵器の比率が大きく減少する。須恵器無台杯は口径・器高とともにⅠ期と変わ

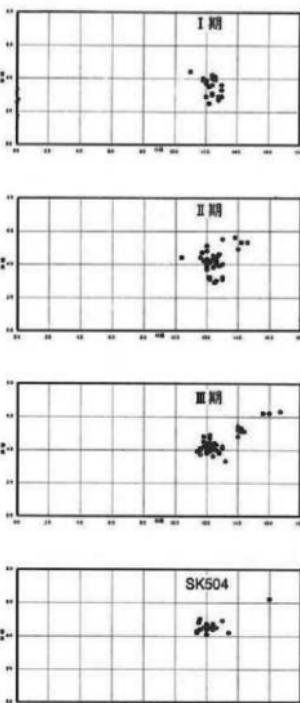
らないが、底径がやや小さく、口縁部の開きが大きいものが増える。土師器無台碗は底径が縮小し、体部中位がやや張りをもつ。口縁端部はやや外反するものが増える。口径はⅠ期と変わらないが、深身のものが多くなる。

宮ノ前Ⅲ期：SK504・SK608・SE1076・SK1097B・SK1628・SK1678

食膳具における須恵器の比率はさらに下がり、良好な残存状況を示すものはみられない。黒色有台皿が出現する。土師器無台碗は調整が粗雑となり、ロクロナデによる段が明瞭に残るものが多い。体部の張りもみられなくなり、緩やかに内湾しながら開く。出土量が多いⅢ類の口径はⅡ期に比べ縮小するが器高はそれほど変わらない。

春日氏の新潟県古代土器編年ではⅥ期に在地産須恵器が減少し、佐渡小泊産須恵器と土師器・黒色土器が食膳具の大半を占める。小泊産須恵器ではⅥ期にカメ烟窓が、Ⅶ～Ⅷ期に江ノ下窓が比定される。Ⅶ期には須恵器が大幅に減少し、土師器・黒色土器の作りが粗雑になり、一過性の食器の性格を帯びることが指摘される。宮ノ前遺跡ではⅠ期からⅢ期にかけて全体的に黑色処理を行うものが少なく他地域の遺跡と差異が見られるが、宮ノ前Ⅰ期は小泊産須恵器が食膳具のはば半数を占め、そのほとんどが無台杯である。また、須恵器無台杯の形態はカメ烟窓段階とみられ、春日編年のⅥ期に比定できる。宮ノ前Ⅱ期の須恵器無台杯が江ノ下窓段階のものとみられることから春日編年のⅦ期～Ⅷ期に比定される。宮ノ前Ⅲ期では須恵器食膳具がほとんど見られないが、土師器無台碗が縮小化・粗雑化することからⅦ期と考えられる。春日氏はⅥ期を9世紀後半～10世紀初頭前後、Ⅶ期を10世紀前葉前後～11世紀前葉に比定し、Ⅷ期を3小間に区分することから、宮ノ前Ⅰ期～Ⅲ期は9世紀後半から10世紀中頃までと考えられる。

宮ノ前遺跡では灰釉陶器が多数出土した。いずれも破片で包含層からの出土が多い。器種は碗と皿が主体で、碗は大型のものが多い。碗・皿の施釉方法はいずれもハケ塗りとみられるものが多く、高台は定型化した三日月高台である。口縁端部は外へ引き出すもの、緩く外反してナデを行うもの、玉縁状を呈するものがみられる。これらは猿投窓編年の黒釜90号窓式、併行する光ヶ丘1号窓式段階のものと捉えられる。当時期は猿投窓以外にも灰釉陶器の生産地が存在し、流通経路も含め产地の確定は重要な問題と考えられる。宮ノ前遺跡の灰釉陶器は胎土の特徴から美濃



第5図 土師器無台碗法量散布図

窯産のものが主体で、少量の猿投窯産や篠岡窯産が混じると考えられる。実年代は9世紀後半～10世紀前半頃に比定され、前記の土器編年で導き出した年代観に概ね一致すると考える。

このほかに宮ノ前遺跡ではSK505・SD507などからⅠ期に先行するとみられる遺物も確認されるが、遺構上部が削られており、他時期の遺構に混入していることから厳密な抽出はできなかった。出土量も少ないため、Ⅰ期に先行して集落形成がなされたと想定する以上の考察は加えられなかった。

宮ノ前	田崎 1988	出島作成 1997	越後春日 1999	吉浪坂井 1991	猿投窯産 1995	東濃窯産 1995	三島郡 品田2001	古志郡	宮ノ前遺跡遺構	井ノ町 遺跡
V1	I-1	V	I	下口沢						
V2	I-2		2							SK12
I	VI1	~	1	カメ畠	K-90	壳ヶ丘	前掛り	八幡林I地区下層	SB1/SK51//SK539/SK609/SE107 SSHE1077	
II	VI2	I-4	V	2	江ノ下			八幡林I地区上層	SB3/SB7/SE109/SK178/SK514/SE1073/SE1097A/SD1321/SK1677	SK272
III	VI3	II-1	3			O-53	大原2	八幡林C地区	SB3/SB7/SE109/SK178/SK514/SE1073/SE1097A/SD1321/SK1677	SK338
	VI1	II-2古	V	1	高野			門新外削出	SK504/SK608/SE1076/SK1097B/ SK1628/SK1678	
	VI2	II-2新	V	2	H-72			門新SD-152		
		古	II-3		虎添山					

第6図 古代土器編年表

3. 中世の土器・陶磁器

宮ノ前遺跡で出土した中世の遺物の多くは木製品で、これに少量の土器（カワラケ）・陶磁器・漆器が混ざる。カワラケには手づくね成形のものとロクロ成形のものが見られる。手づくね成形のものでは、口縁部に強いヨコナデを行う「刈羽・三島型」が見られ、これは畿内系の技法のものが在地で独自の変遷過程をたどったものとされる（品田1999）。越後では12世紀中頃に畿内系の手づくね成形のカワラケが流入し始め、15世紀にロクロ成形関東系のものに変わるまで存続した。宮ノ前遺跡出土の「刈羽・三島型」カワラケはヨコナデによる段が弱いもの、もしくはヨコナデによる段がみられないもので、13世紀後半から14世紀に比定される。ロクロ成形のものは底部の切り離し方法が回転糸切りによるもので、口縁部が外反気味に長く伸びるものと、短く直線的に伸びるものがあるが、手づくね成形のものに比べ少ない。673は柱状高台を持つ皿で11世紀代のものである。

珠洲焼きには壺・甕・擂鉢がある。古いもので吉岡編年Ⅱ期に遡るもののがみられるが、多くはⅢ期からⅣ期に比定され、V期まで下るもののが若干見られる。青磁では118（SK70）が連弁紋を施す碗で14世紀後半に位置づけられる。その他の青磁碗も14世紀後半のもので、SK2167出土の稲花皿（629）が15世紀後半以降である。古瀬戸はSK1503出土の2点のみである。496の小壺は14世紀代、遺構上面出土の香炉（492）は16世紀代のものである。

以上、雜説に宮ノ前遺跡出土の中世遺物の年代について述べたが、宮ノ前遺跡では11世紀代から15世紀代までの遺物が確認され、13世紀後半から14世紀に土器・陶磁器・漆器の出土量が充実する。

4. 平安時代の宮ノ前遺跡

宮ノ前遺跡の発掘調査では2,000基を超える遺構が検出されたが、本報告書では遺物が出土した遺構を中心に掲載したため、掘立柱建物23棟、溝5条、井戸34基、土坑54基、竪穴状遺構1基、ピット12基を報告できたにすぎない。これらの中でも時期を限定できないものが多く、集落の展開については不明な点が多い。ここでは平安時代の集落について若干の検討を加えたい。

宮ノ前遺跡の検出した掘立柱建物の中で平安時代のものと考えられるものはSB1・SB2・SB3・SB4・SB5・SB7・SB8・SB9・SB22・SB23である。このうちSB22以外は区画溝と考えられるSD1321の西側に集中する。SD1321は幅2.5m前後で覆土から古墳時代・平安時代の遺物が出土している。

SB1・SB2・SB3は当遺跡で中心になると考えられる大型の建物で、主軸方位が大きく変化することなく、ほぼ同位置で建て替えが行われる。これらに付属するようにSB4・SB5が建てられる。SB1・SB2は面積80m²を超え、SB3は120m²を超える。これは、新潟県内でも確認されている平安時代の掘立柱建物の中でも大型の部類である。そして、他の平安時代の建物とSD1321は大型建物と主軸方位がほぼ同じか、直交して建てられる。また、柱穴掘方に類似性が認められるSB1・SB7・SB9・SB23は柱筋も概ね一致しており、計画的な配置がうかがえる。SB7・SB9は1間×4間という特殊な形態で、住居や倉庫とは考えがたい。あえて性格を想定すれば厩が挙げられるが、これを裏付ける遺物などは出土していない。

調査中、大型建物の検出や灰釉陶器の出土量の多さから官衙・荘園などに関係する遺跡ではないかと想定した。しかし、文字資料が墨書き器1点のみで、これを裏付けることはできなかった。ここでは、9世紀後半から10世紀頃に活発化したとされる新田開発を手がけた開発領主の居宅などの存在を想定したい。

《要 約》

1. 宮ノ前遺跡は新潟県刈羽郡西山町大字北野字宮ノ前に所在する。遺跡は柏崎平野の北部、曾地丘陵西麓の沖積地に立地する。標高は約22m、現況は水田である。
2. 発掘調査は県営は場整備事業北野地区に伴って、平成11年に実施した。調査面積は約3,850m²である。
3. 調査の結果、縄文時代・古墳時代後期・奈良時代・平安時代・中世の遺構・遺物を発見した。主体は平安時代・中世である。
4. 古墳時代後期は隣接する畠田遺跡との関連が強く、同一の集落と考えられる。宮ノ前遺跡では当時のものと認定できる遺構はほとんど見つからず、集落の中心は畠田遺跡側と見られる。両集落からはT K47-T K10型式の須恵器蓋杯・高杯・魁などが多く出土しており、当遺跡の特殊性がうかがえる。
5. 平安時代の遺構には掘立柱建物・井戸・土坑・溝・ピットがある。掘立柱建物の最大のものはSB3の4間×7間(121.37m²)で、これとはほぼ同位置に大型の建物が3回建てられる。SB7・SB9は1間×4間で甌などの用途が想定できる。遺物で注目されるのは灰釉陶器の出土量の多さである。遺構外出土のものが多く、細片となっているものばかりであるが、大型建物のあり方と遺物から見て、開発領主層などの存在が想定される。遺物の年代は9世紀後半から10世紀前半のものが多く確認された。
6. 中世の掘立柱建物と認定できるものは確認できない。井戸・土坑から遺物が出土しているが、土器・陶磁器は少ない。井戸から多くの木製品が出土しており、陶磁器類が伴わないものの多くは中世に属するものとみられる。

《引用・参考文献》

- 宇野隆夫 1989 「考古資料にみる古代と中世の歴史と社会」真陽社
- 宇野隆夫 1991 「律令社会の考古学研究」桂書房
- 加賀真樹 1997 「第1節 珠洲窯」「中・近世の北陸—考古学が語る社会史ー」
- 柏崎市教育委員会 1997 「前掛り」
- 柏崎市教育委員会 2001 「宮ノ下遺跡群」
- 春日真実 1994 「越後における8世紀中葉の画期について」「北陸古代土器研究」第4号
- 春日真実 1995 「古代集落の展開—越後を事例としてー」「研究紀要」財新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」「北陸古代土器研究」第6号
- 春日真実 1997 「越後における10・11世紀の土器様相」「北陸古代土器研究」第7号
- 春日真実 1998 「西頭城地域における古代土器様相」「研究紀要」第2号 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1999 「第2節 土器編年と地域性」「新潟県の考古学」高志書院
- 金子拓男 1990 「三崎郡の分立」・「交通と交通路」「柏崎市史」上巻 柏崎市史編さん室
- 刈羽村教育委員会 1995 「枯木A遺跡」
- 刈羽村教育委員会 1998 「弘川・山ノ脇遺跡」
- 刈羽村教育委員会 1999 「弘川遺跡」
- 川村浩司 1999 「2 須恵器の様相」「新潟県の考古学」高志書院
- 斎藤孝正 1994 「1 東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心にしてー」「古代の土器研究—律令の土器様式の西・東3ー」古代の土器研究会
- 斎藤孝正・後藤建一 1995 「須恵器集成図録 第3巻 東日本編I」
- 坂井秀弥 1984 「今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」「上新バイパス関係遺跡発掘調査報告 I 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡」新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1989 「新潟県の黒色土器—6~8世紀を中心にー」「東国土器研究」第2号
- 坂井秀弥 1990 「越後平安期土器編年素描—西南部頸城地方を中心にしてー」「東国土器研究」第3号
- 坂井秀弥 1997 「第5節 中世集落の展開と城館の動向」「中・近世の北陸—考古学が語る社会史ー」
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」「新潟考古」
- 品田高志 1990 「越後における古墳時代土器の変遷—柏崎平野の中期~後期を中心にー」「柏崎市立博物館報No 4」柏崎市立博物館
- 品田高志 1994 「古代三島郡と古代土器の様相—柏崎平野における古代史理解に向けてー」「柏崎市立博物館報No 8」
- 品田高志 1997 「第2節 越後国における土師器の変遷と諸相」「中・近世の北陸—考古学が語る社会史ー」
- 品田高志 1999 「3 柏崎平野の土師器編年」「新潟県の考古学」高志書院
- 品田高志 1999 「第1項 中世土師器」「新潟県の考古学」高志書院
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定—加賀地域にみる7世紀から11世紀頃にかけての土器群の推移ー」「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題(報告編)」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田辺昭三 1991 「須恵器大成」角川書店
- 田村浩司 1999 「第3項 漆器」「新潟県の考古学」高志書院

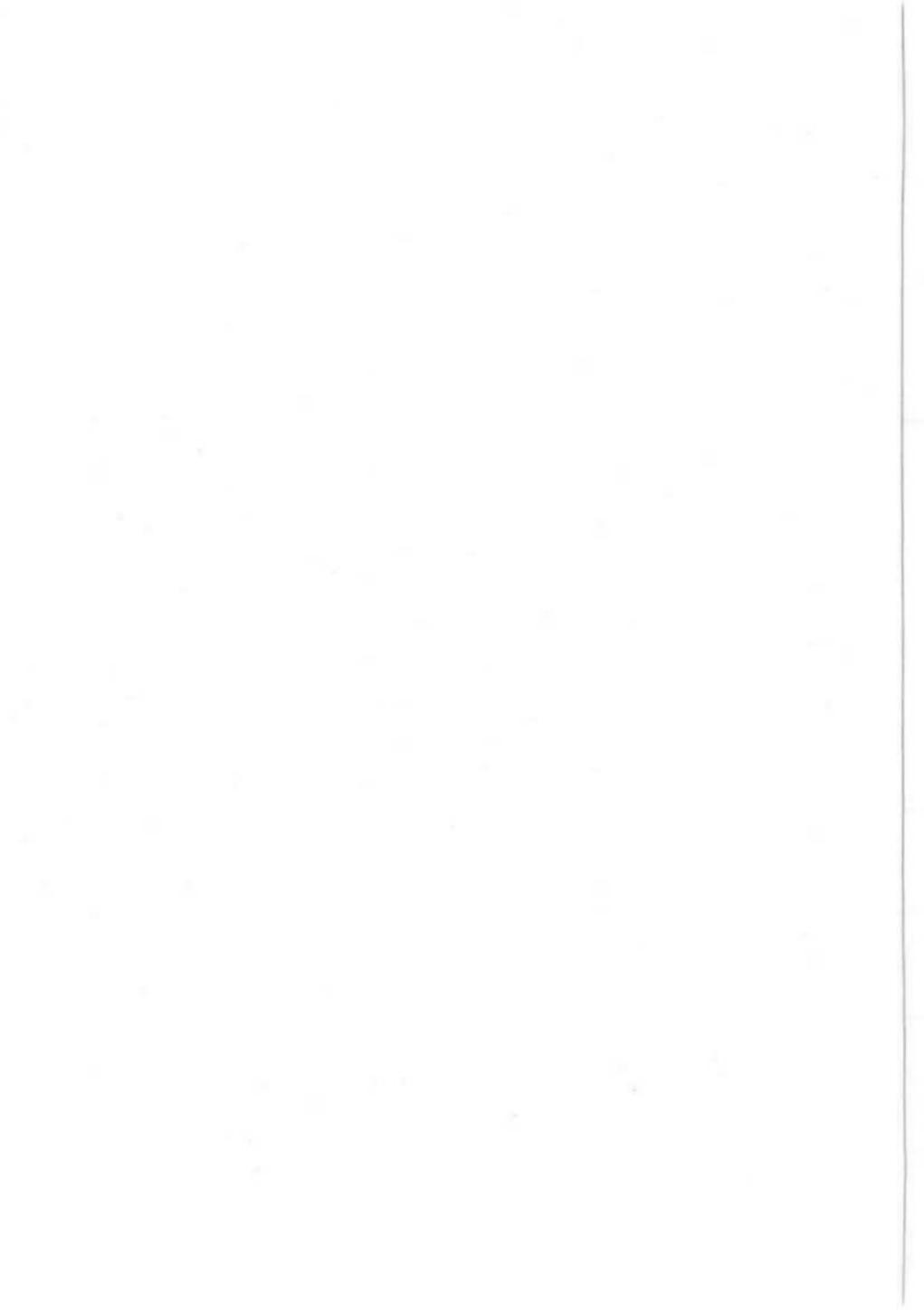
- 中世土器研究会編 1995 「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社
- 出越茂和 1997 「北陸古代後半における椀皿食器（後）」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 新潟県教育委員会 1979 「狐山塚群」
- 新潟県教育委員会 1982 「埋蔵文化財発掘調査報告書 尾野内遺跡・芦ヶ崎砦跡」
- 新潟県教育委員会 1983 「内越遺跡」
- 新潟県教育委員会 1984 「今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡」
- 新潟県教育委員会 1989 「山三賀II遺跡」
- 新潟県教育委員会 1994 「上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV一之口遺跡東地区」
- 新潟県考古学会編 1999 「新潟県の考古学」高志書院
- 西山町 1963 「西山町史」
- 西山町 1970 「西山町の民俗と文化財」
- 西山町 1980 「続西山町史」
- 西山町教育委員会 1983 「高塙B遺跡発掘調査報告書」
- 西山町教育委員会 1985 「多岐の脇遺跡発掘調査報告書」
- 西山町教育委員会 1991 「二塚・甲田城跡発掘調査報告書」
- 西山町教育委員会 1994 「野崎遺跡発掘調査報告書」
- 西山町教育委員会 2001 「畠田遺跡発掘調査報告書」
- 西山町教育委員会 2001 「井ノ町遺跡発掘調査報告書」
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993 「東日本における古墳出現課程の再検討」
- 藤澤良祐 1995 「〔1〕古瀬戸」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 北陸古代土器研究会 1997 「シンボジウム北陸の10・11世紀代の土器様相」
- 北陸中世土器研究会編 1997 「中・近世の北陸—考古学が語る社会史ー」桂書房
- 宮田進一 1995 「5. 北陸」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 山下峰司 1995 「4. 灰釉陶器・山茶碗」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 四柳嘉章 1995 「14. 漆器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 四柳嘉章 1997 「第3節 北陸の中世漆器」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史ー』
- 和島村教育委員会 1991 「八幡林遺跡」
- 和島村教育委員会 1993 「八幡林遺跡」
- 和島村教育委員会 1994 「八幡林遺跡」
- 和島村教育委員会 1995 「門新遺跡」
- 和島村教育委員会 1996 「門新遺跡 外割田地区」

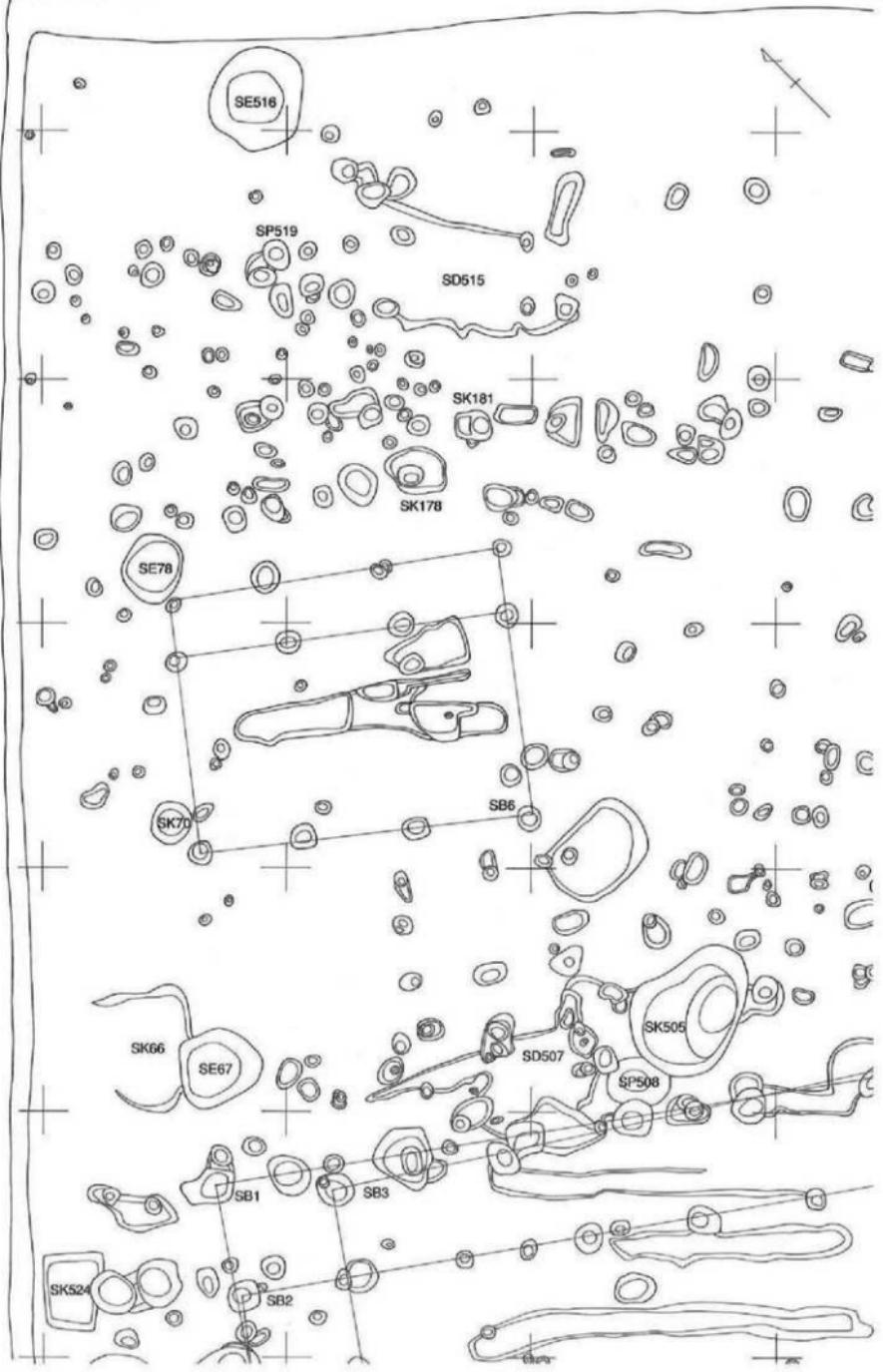
別表1 捕食性漁物計測表

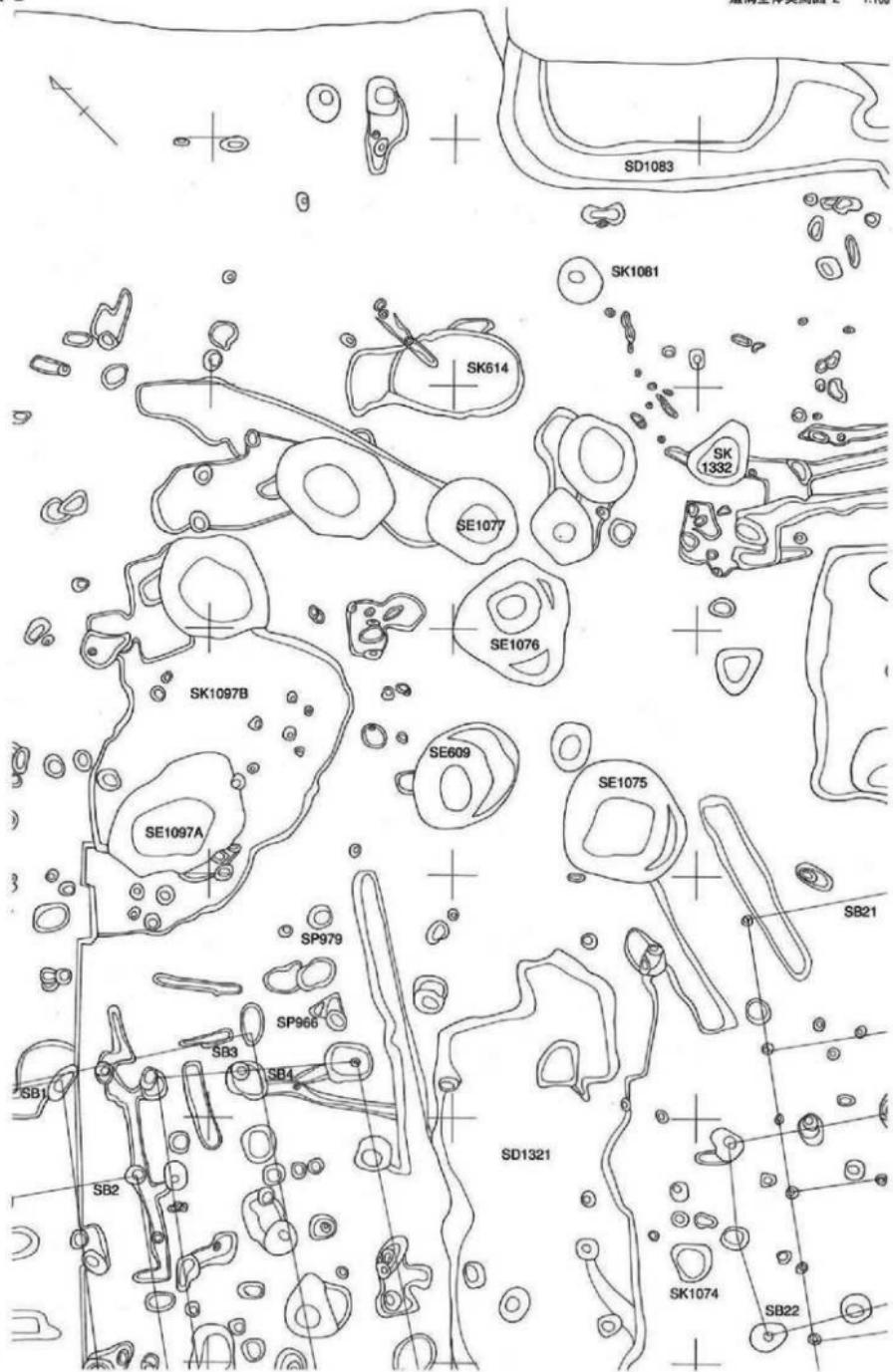
漁物番号	面積m ²	グリッド	横間	縦間	長軸m	短軸m	平均cm	面積cm ²	主輪	備考
S B 1	84.07	1.6	6	2	13.55	6.20	226.00	310.00	N-56°-W	雨落溝 (S D503)
S B 2	80.78	1.6	6	2	14.74	5.48	245.67	274.00	N-54°-W	
S B 3	121.37	2.6	7	4	15.64	7.76	223.43	194.00	121.37	N-58°-W
S B 4	31.92	5.6	4	2	7.32	4.36	183.00	218.00	N-35°-E	
S B 5	40.64	2.5	5	2	9.32	4.36	185.40	218.00	N-53°-W	
S B 6	27.15	1.9	3	1	6.72	4.04	224.00	404.00	27.15	N-52°-W
S B 7	16.68	2.4	4	1	7.72	2.16	193.00	216.00	16.68	N-51°-W
S B 8	12.01	3.4	3	1	5.56	2.16	185.33	216.00	12.01	N-54°-W
S B 9	14.28	2.2	4	1	7.76	1.84	194.00	184.00	14.28	N-56°-W
S B10	28.38	5.2	4	2	7.24	3.92	181.00	196.00	28.38	N-58°-W
S B11	7.05	5.3	3	2	4.52	1.56	150.67	78.00	7.05	N-59°-W
S B12	10.43	5.3	3	1	4.92	2.12	164.00	212.00	10.43	N-53°-W
S B13	23.39	5.3	4	2	6.96	3.36	174.00	168.00	23.39	N-59°-W
S B14	12.54	6.3	3	2	4.48	2.80	149.33	140.00	12.54	N-51°-W
S B15	25.00	11.2	3	2	6.72	3.72	224.00	186.00	25.00	N-46°-W
S B16	8.99	11.2	3	1	4.24	2.12	141.33	212.00	8.99	N-43°-W
S B17	10.20	11.1	3	1	4.32	2.36	144.00	236.00	10.20	N-65°-W
S B18	21.50	12.2	3	2	4.80	4.48	160.00	224.00	21.50	N-44°-W
S B19	25.00	12.2	3	3	5.00	5.00	166.67	166.67	25.00	N-32°-E
S B20	4.02	7.2	4	1	3.72	1.08	93.00	108.00	4.02	N-43°-W
S B21	39.42	7.6	6	2	11.20	3.52	186.67	176.00	39.42	N-33°-E
S B22	7.10	7.7	3	2	3.48	2.04	116.00	162.00	7.10	N-57°-E
S B23	6.62	4.4	2	1	3.76	1.76	188.00	176.00	6.62	N-55°-W

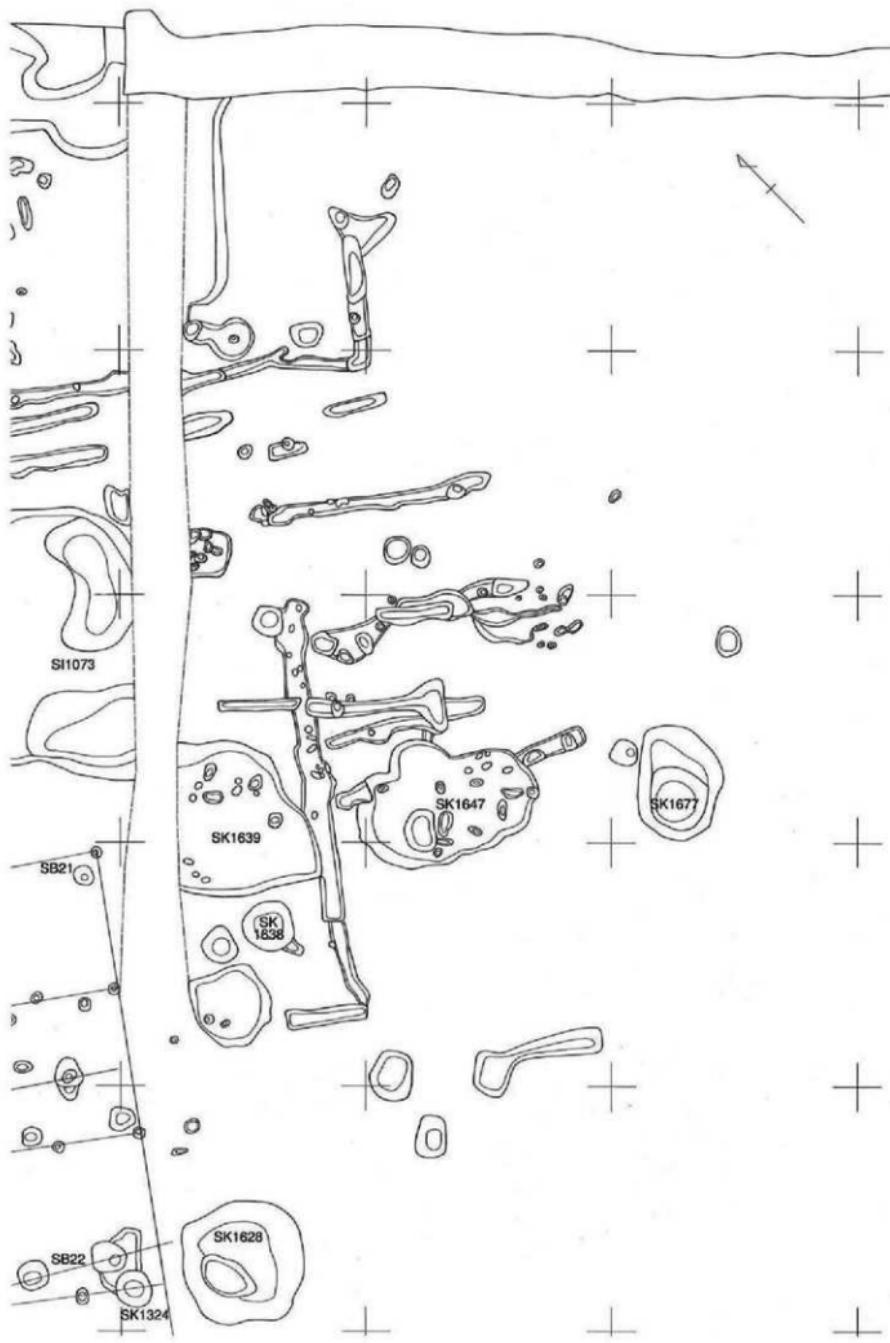
	時代	遺構						出土遺物			
		平面形	平面規模	深度	実測図	写真	実測図	写真	遺物No	備考	
SE1096	丸	1.26	1.40	1.28	31	84	62		415・416	木製品	
SE1097A	古代	楕円	2.24	3.02	1.05	32	84,85	62	417~422	須恵杯	
SK1097B	古代	不正形	5.24	7.52	0.26	32	85	62,63	423~457	土師碗	
SK1120	古代	楕円	0.80	1.02	0.16	31		63	458	土師甕	
SK1130	不正形	0.80	(0.56)	0.46	33		63		459	木製品	
SE1149	楕円	1.10	1.44	1.02	33		63		460	漆器碗	
SD1321	古代	不正形	3.10	(3.10)	0.32	40	85	63	461~471	土師碗, 須恵甕	
SK1324	古代	丸	0.74	0.76	0.46	33	63		472	須恵広口瓶	
SK1332	古代	楕円	1.10	1.52	0.24	33	63		473~474	須恵杯	
SE1501	丸	2.52	2.92	1.16	33	85	64		475~490	下駄	
SK1502	中世	楕円	2.14	2.36	0.52	34	85				
SK1503	中世	丸	4.72	5.56	0.38	34	85	65	491~504	カララケ, 古瀬戸小瓶・香炉, 花崗岩鉢・亮	
SK1532	中世	楕円	0.76	1.28	0.42	35		65	505	珠洞鑿棒	
SK1533	古代	丸	0.78	0.90	0.56	35		65	507~510	土師碗, 木製品	
SK1557	丸	0.72	0.76	0.54	35		66		511	漆器皿	
SK1561	楕円	0.82	(0.62)	0.50	35	86	66		512~515	折敷	
SE1564	中世	丸	0.84	0.86	0.86	35		66	516~517	珠洞臺	
SE1569	楕円	0.94	1.24	1.00	35		66		518	木製品	
SE1576	中世	楕円	1.04	1.56	1.08	35	86	67	519~522	青磁碗, 漆器碗	
SK1595	丸	0.86	1.00	0.56	35		67		523		
SE1603	中世	正方形	1.36	1.48	1.00	35	86	67	524~534	珠洞鑿棒, 漆器, 級化棒	
SE1618	丸	1.06	1.08	0.94	36	86	68		535	漆器碗	
SK1623	丸	0.72	0.84	0.72	36		68		536	木製品	
SK1628	古代	丸	2.48	2.48	0.92	36	86	68	537~548	須恵杯(系切), 土師碗, 須恵ハサウ・婆・俄瓶	
SK1638	古代	丸	1.04	1.04	0.76	36	86	68	549~552	土師碗・吏	
SK1639	古代	不正形	3.22	(2.96)	0.24	36		68	553~558	灰陶碗, 土師碗, 須恵杯蓋	
SK1647	古代	不正形	2.60	3.76	0.20	37	86	68	559~563	須恵杯, 土師碗	
SK1677	古代	楕円	1.76	2.32	0.58	37	87	69	564~580	須恵杯, 土師碗	
SK1678	古代	不正形	1.96	5.12	0.38	38	87	69	581~590	灰陶皿, 須恵杯, 土師碗	
SK1679	古代	不正形	3.16	(2.06)	0.28	38	87	69	591~595	須恵杯, 土師碗, 須恵鉢	
SK1709	中世	丸	1.04	1.06	0.78	37	87	70	601~612	律器, 署	
SE1711	丸	1.14	1.14	1.38	37	87	70		613	漆器	
SK1729	中世	不正形	1.12	1.52	0.64	39	87	70	614	珠洞鑿棒	
SK1772	楕円	0.98	1.18	0.84	39	87	70		615~616	木製品	
SE1801	楕円	1.70	2.02	1.20	39		71		617~618	匙, 折敷	
SK1844	中世	丸	0.82	0.86	0.48	39	87,88	71	619~624	青磁碗, 漆器碗	
SK2109	中世	丸	0.88	0.90	0.56	39	88	71	625	青磁碗	
SK2163	丸	0.64	0.66	0.28	39	88	71		626~628	漆器	
SK2167	中世	楕円	0.56	0.82	1.14	39	88	71	629	青磁輪花皿	
SK2172	楕円	0.62	0.70	0.54	39		72		630	木製品	
SK2222	中世	正方形	1.68	1.94	0.12	40		72	631	珠洞臺	
SK2237	楕円	0.76	0.96	0.96	40		72		632~633	木製品	
SK2238	中世	丸	0.88	0.88	0.84	40		72	634	珠洞鑿棒	
SP2239	中世	楕円	0.20	0.30	0.20	40		72	635	珠洞鑿棒	
SK2255	古代	不正形	1.90	2.20	0.52	38	87	70	596~600	土師碗, 須恵杯	
SE2258	丸	1.10	1.16	1.22	34		65		505	木製品	

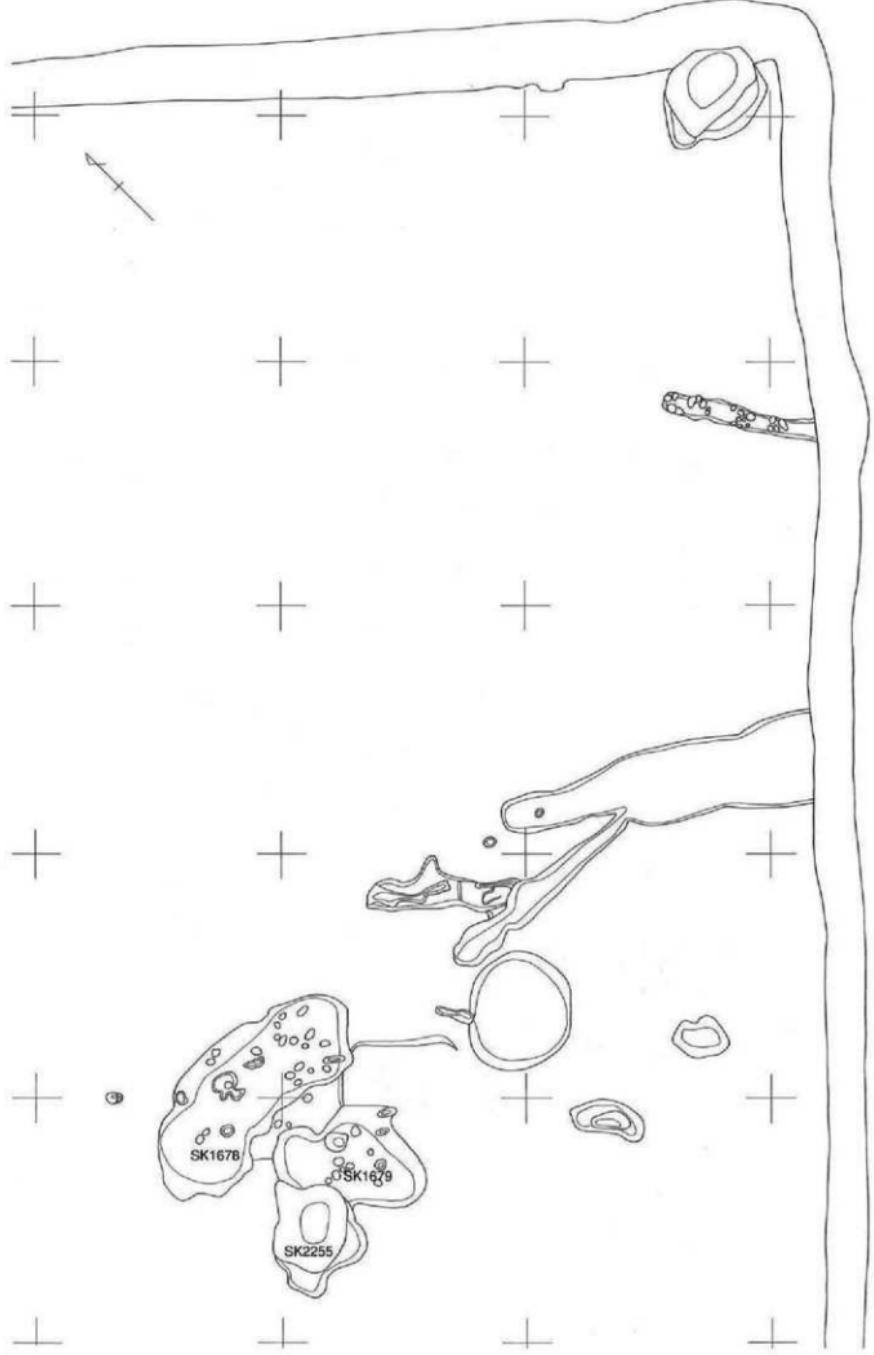
図 版

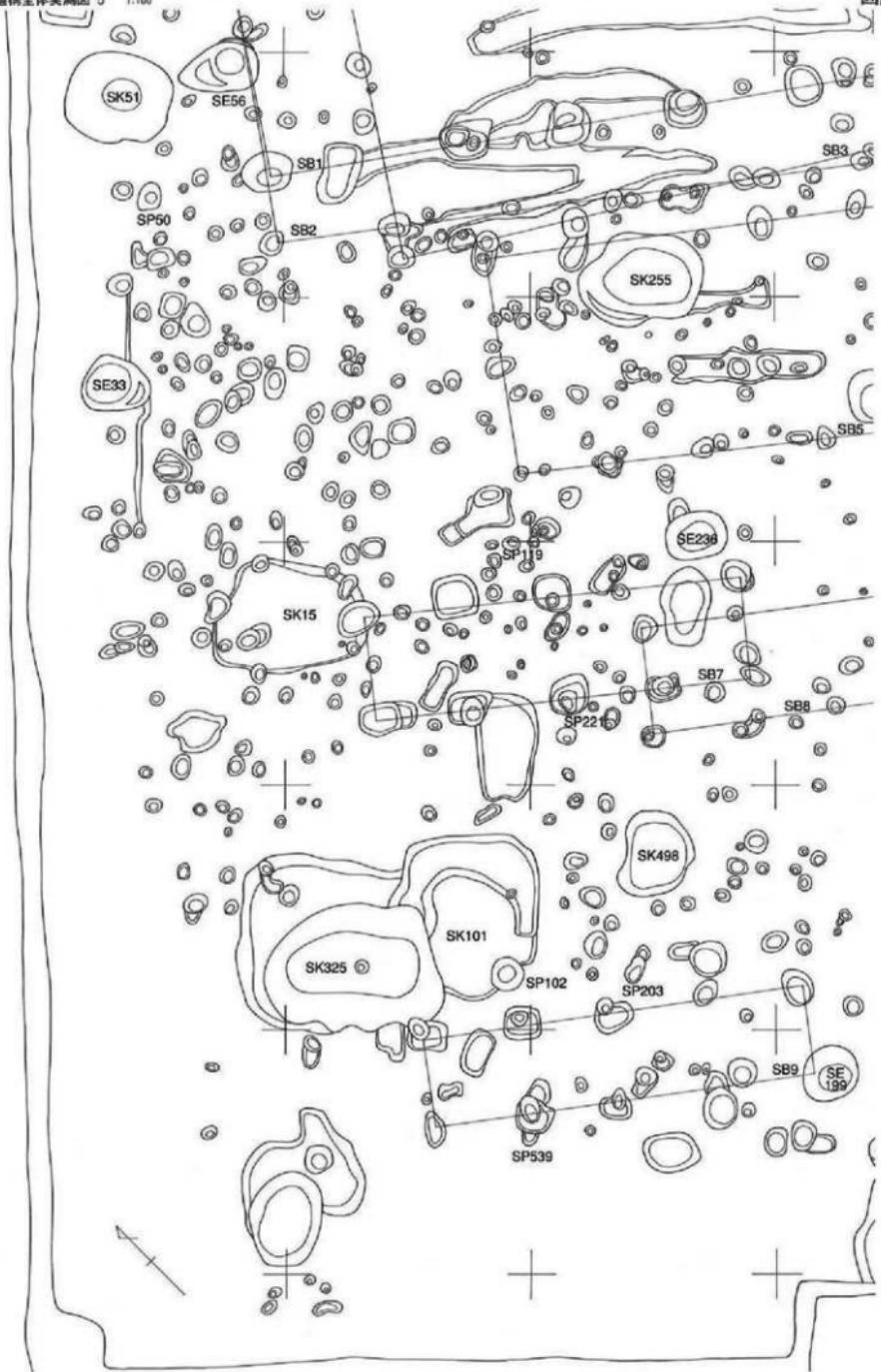


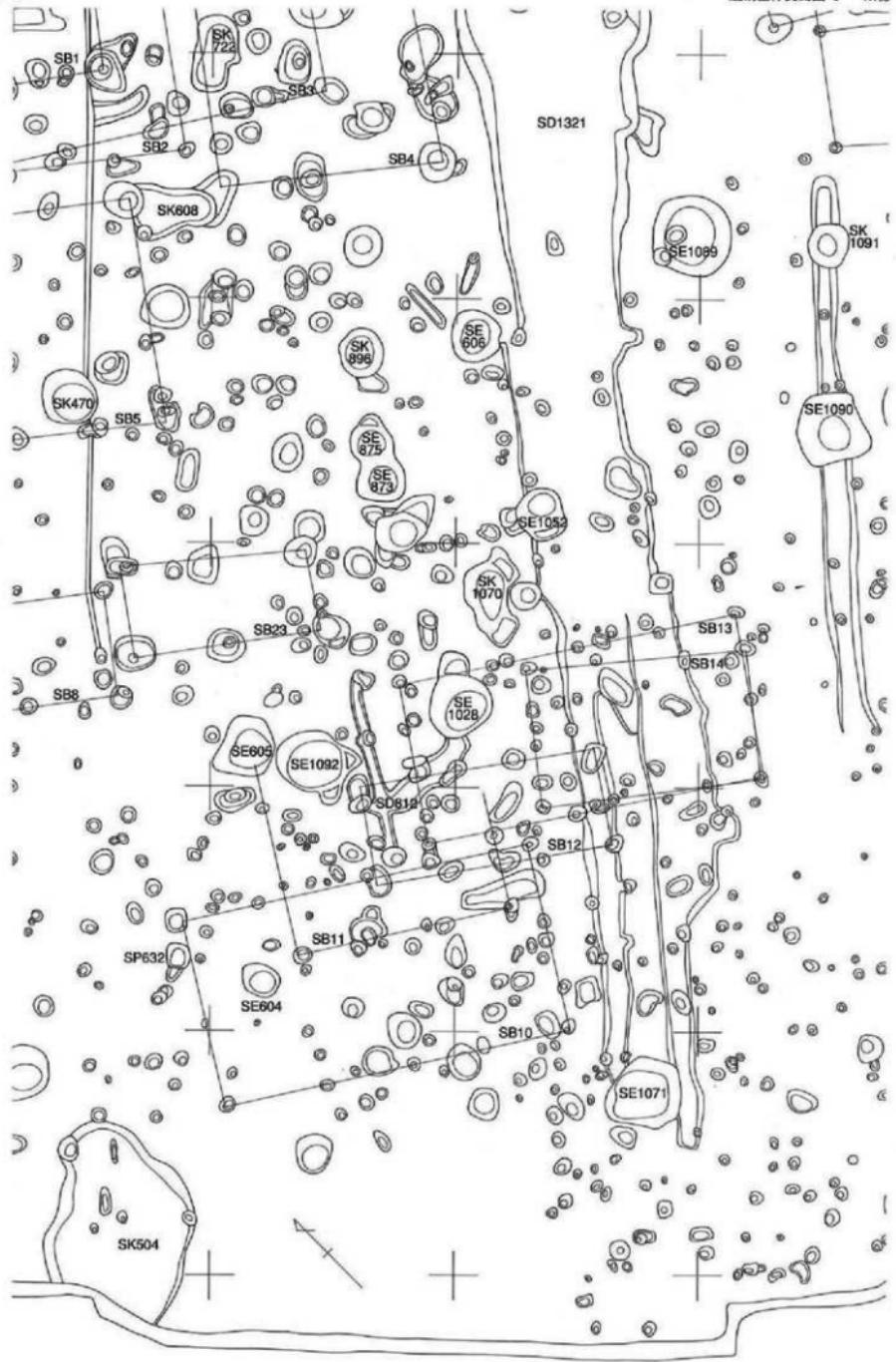




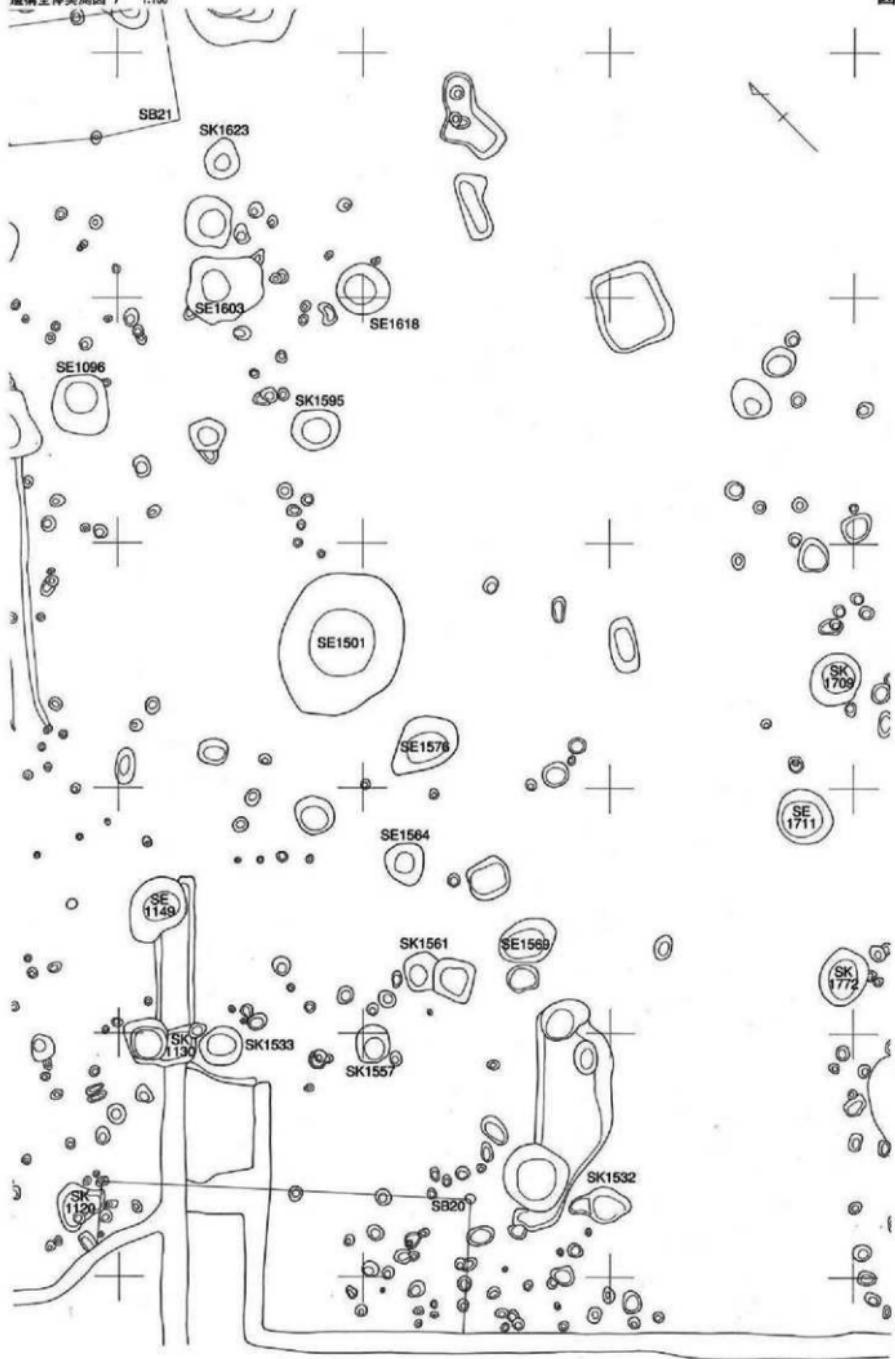


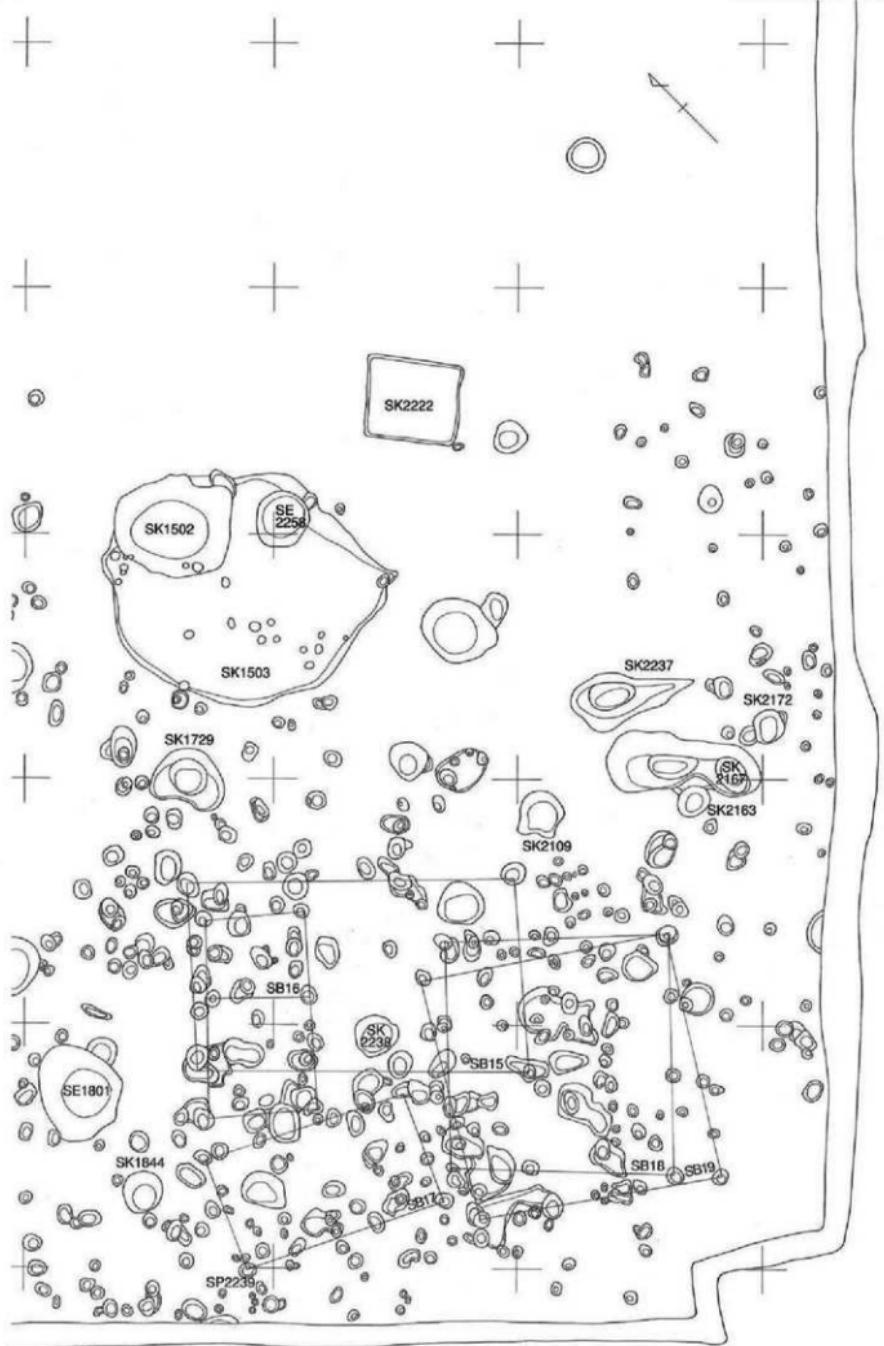




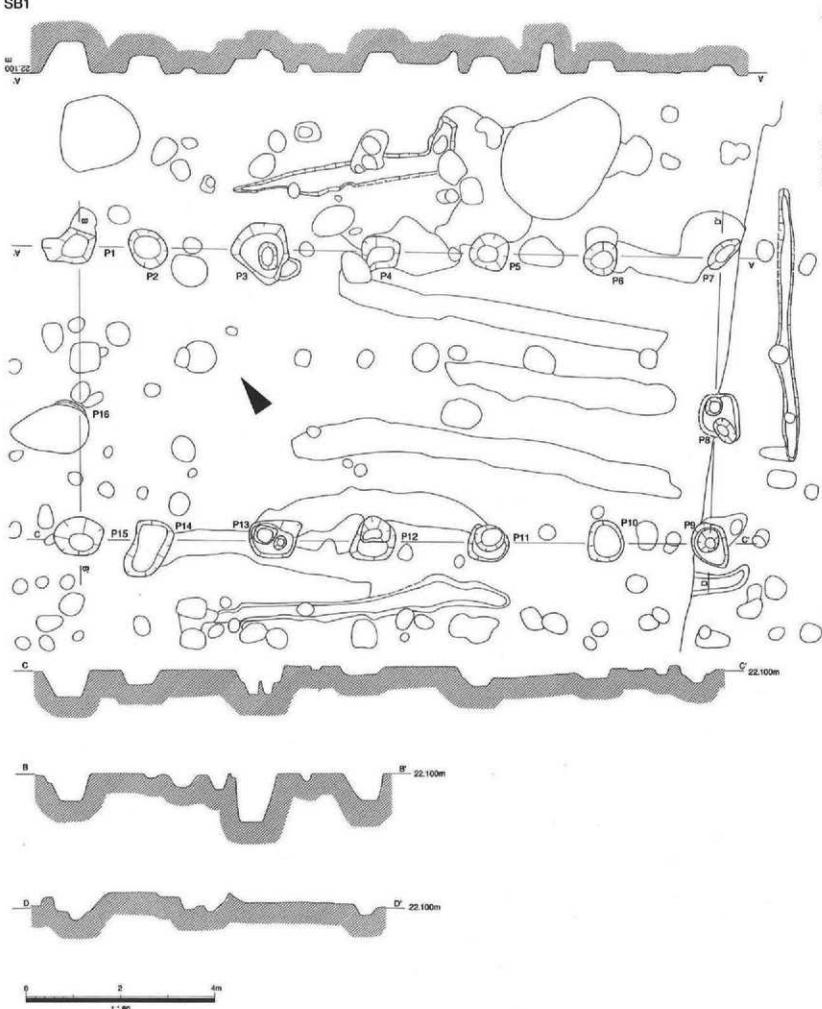


1:100

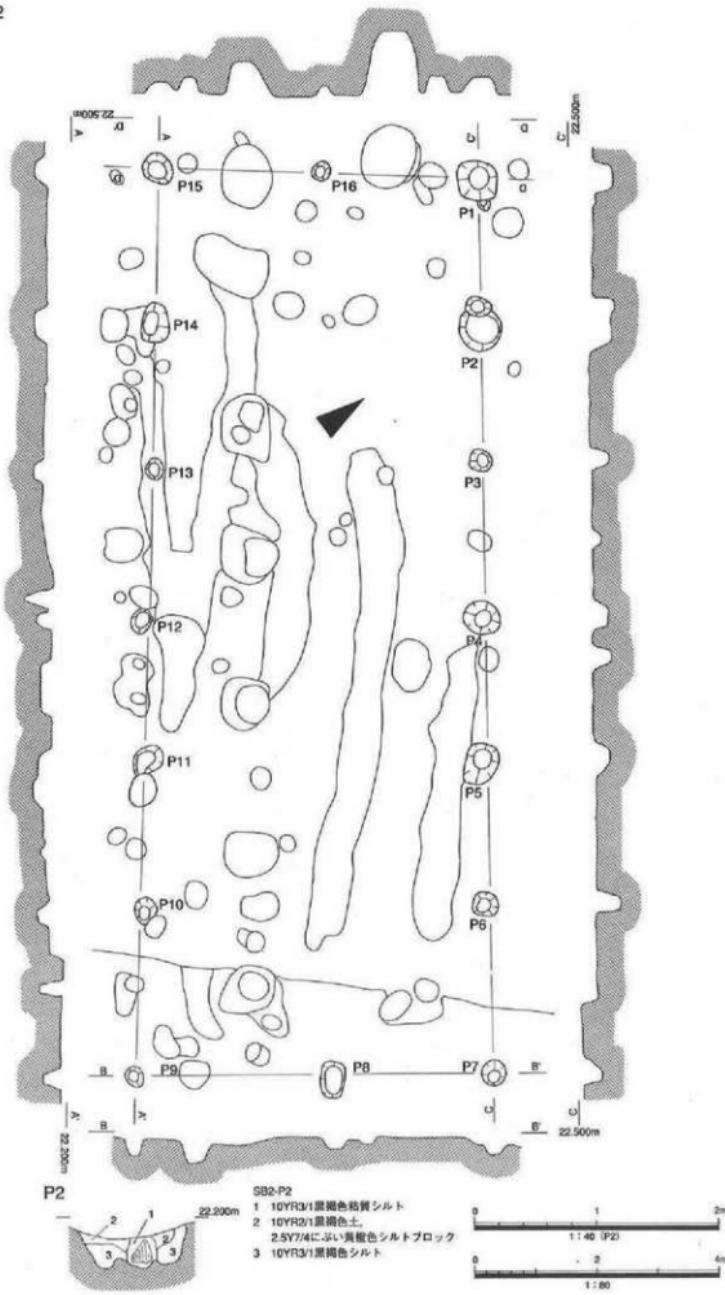


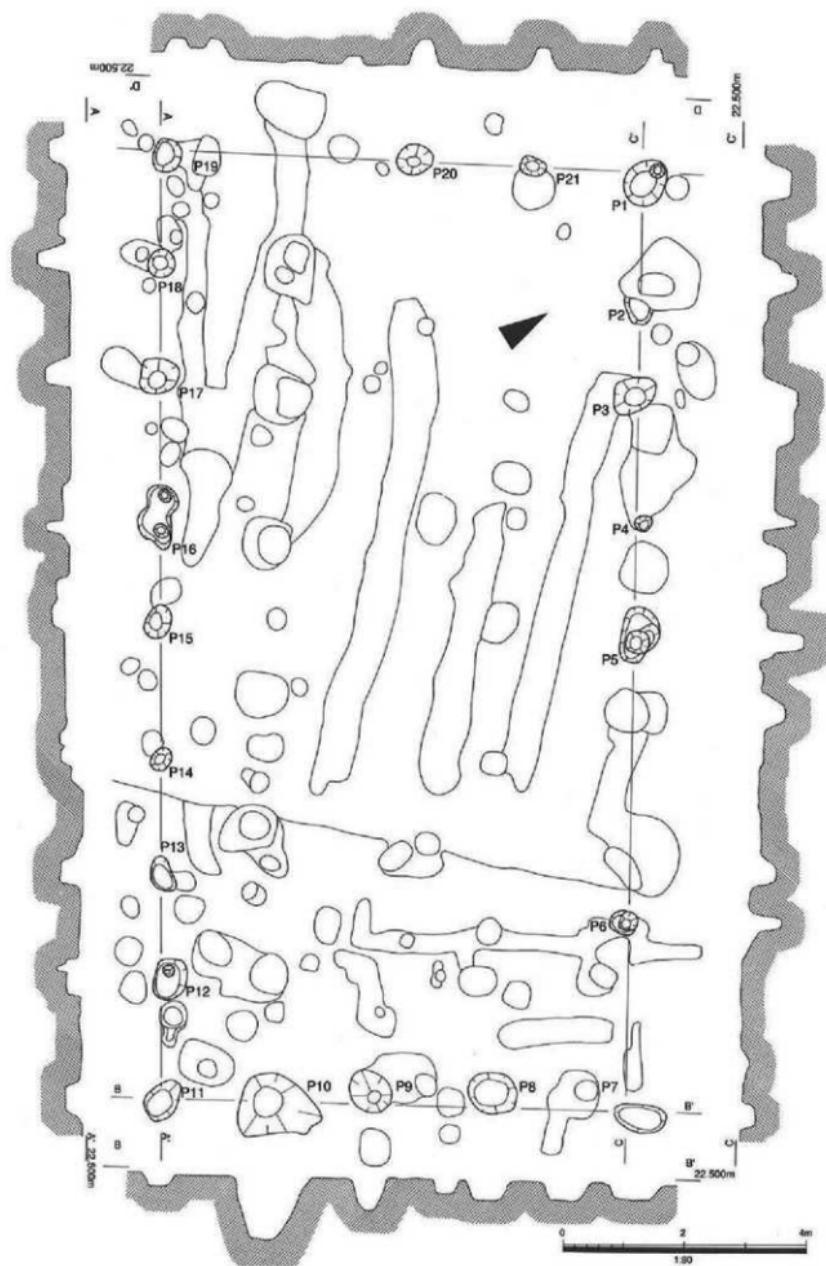


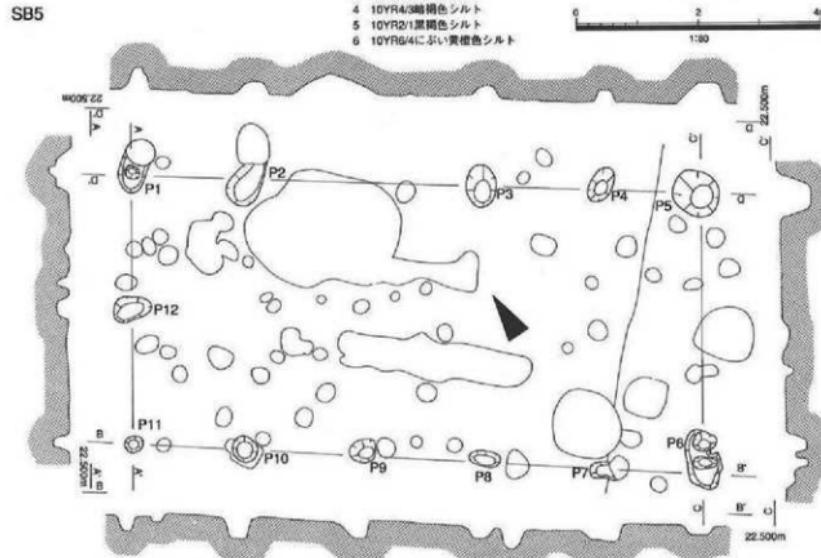
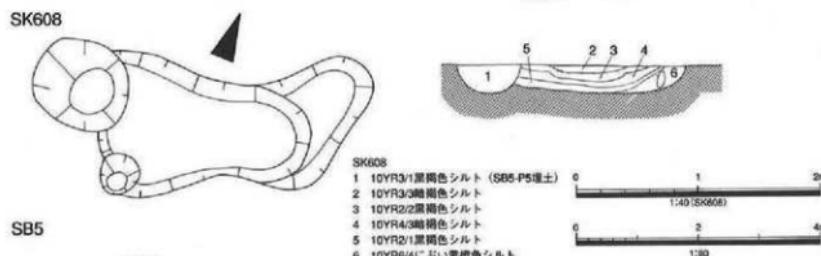
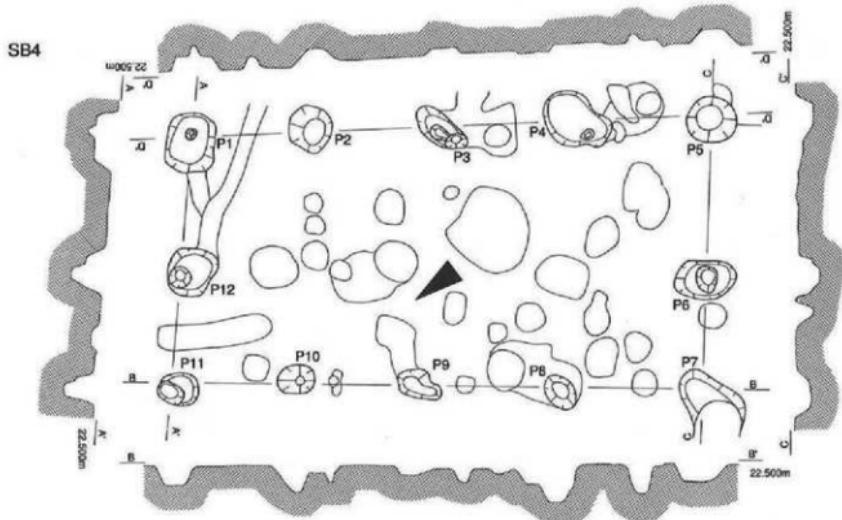
SB1

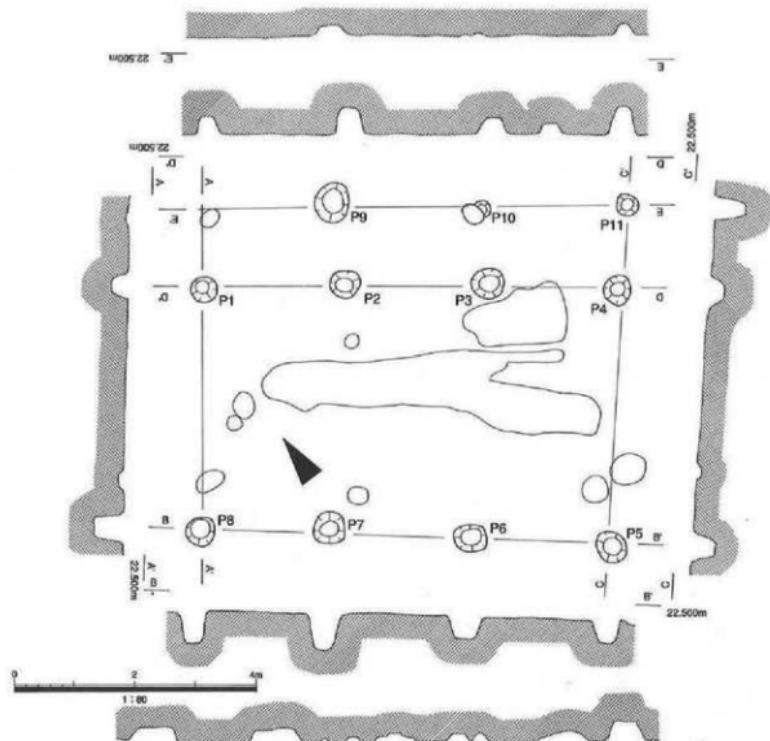


SB2

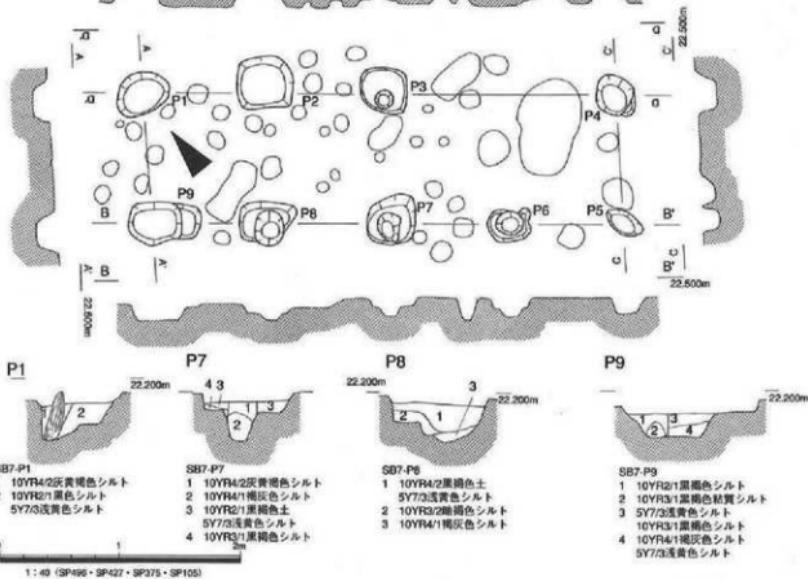


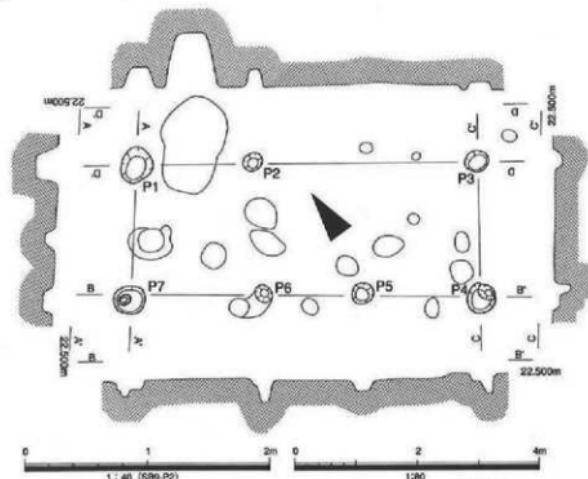






SB7



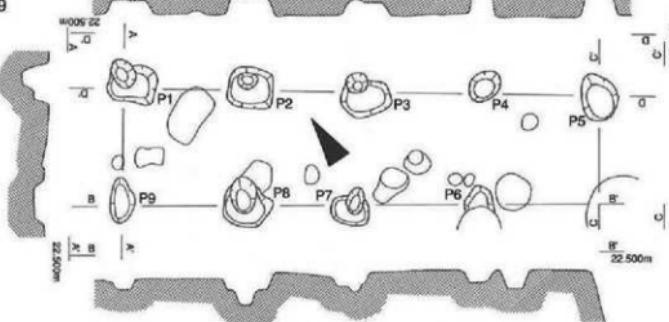
SB8・SB9・SB9-P2・SB10
SB8

SB9-P2

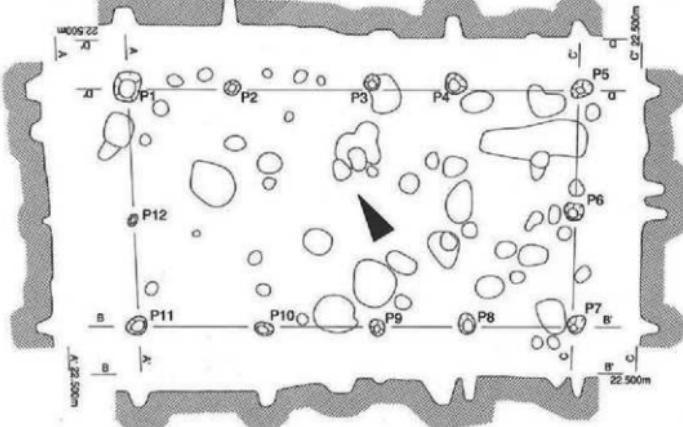
SB9-P2

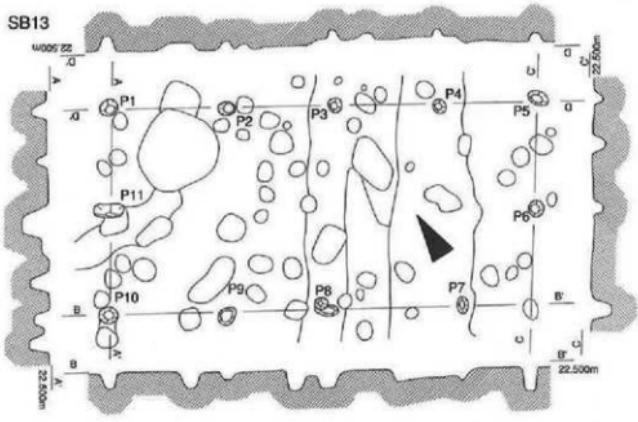
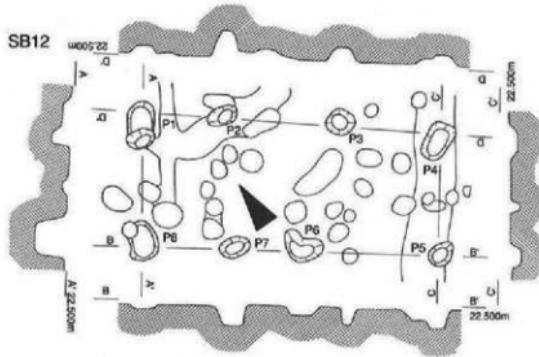
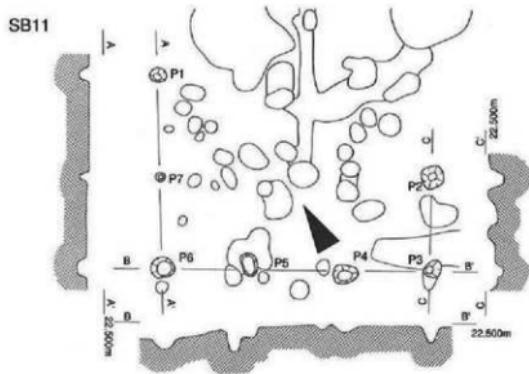
- 1 10YR5/1褐色シルト
- 2 10YR4/1褐色シルト
- 3 10YR3/1黒褐色シルト

SB9



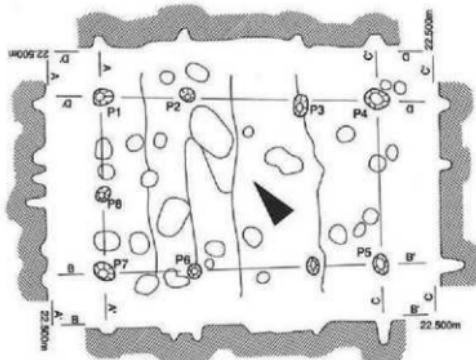
SB10



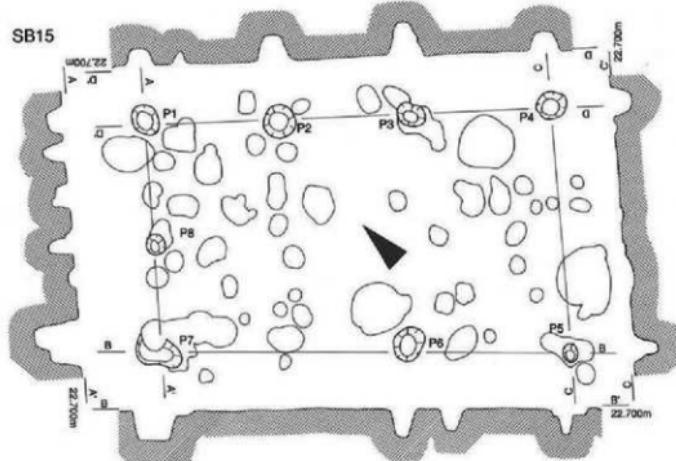


0 2 4m
1 : 50

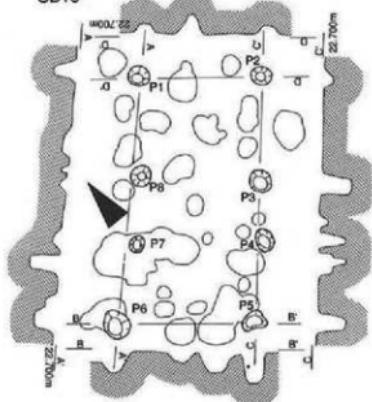
SB14



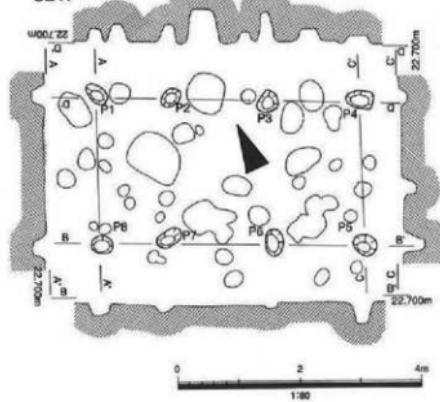
SB15



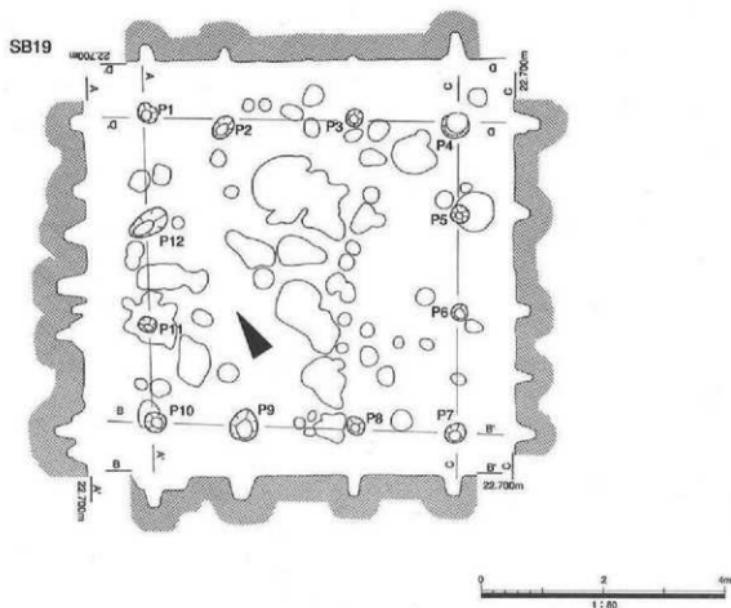
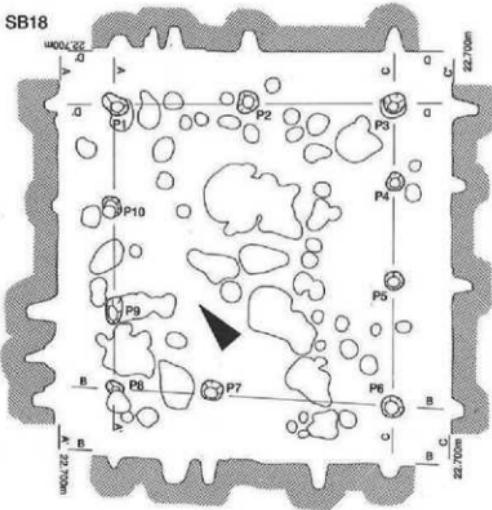
SB16



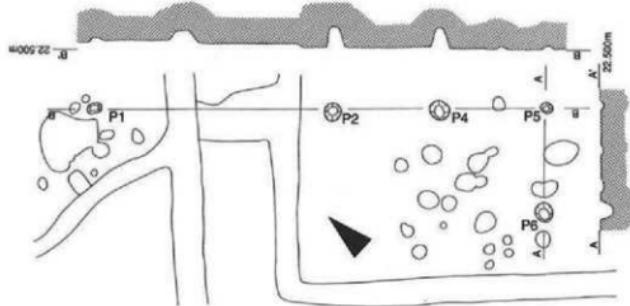
SB17



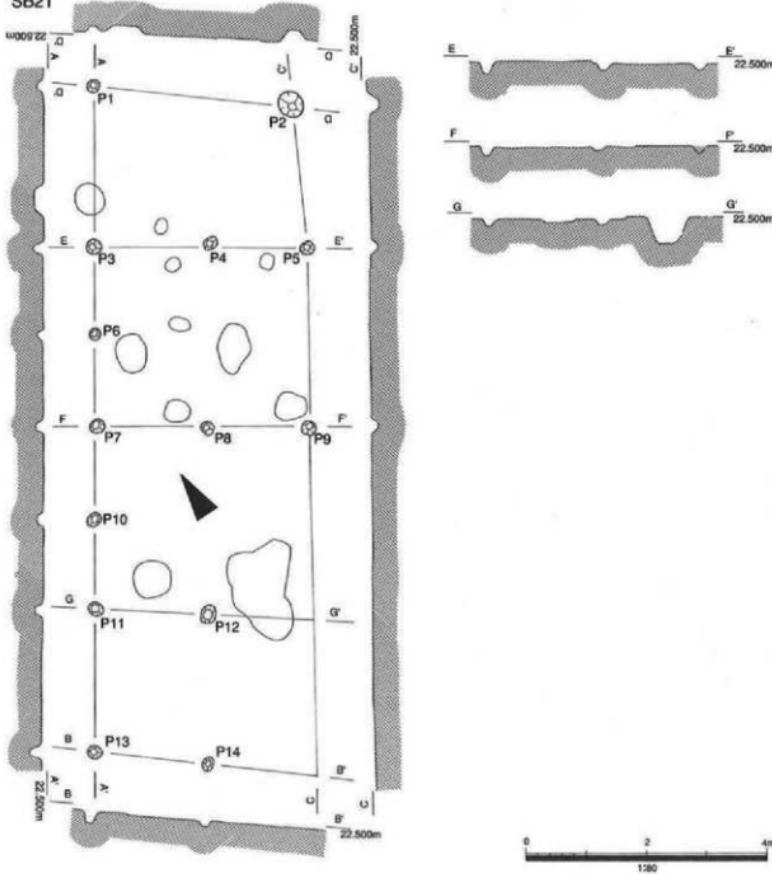
0 2 4m
1:50

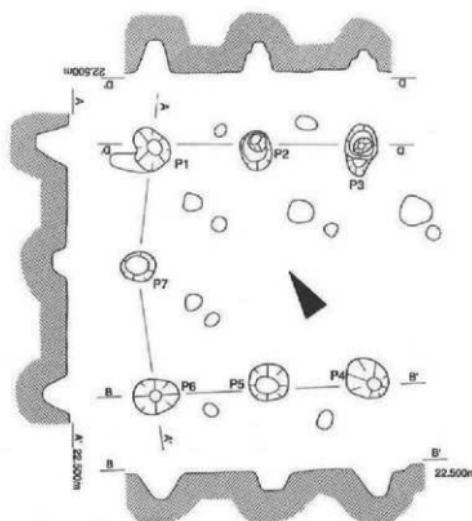


SB20

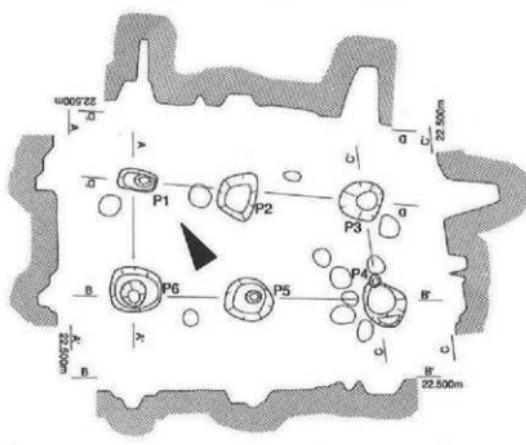


SB21



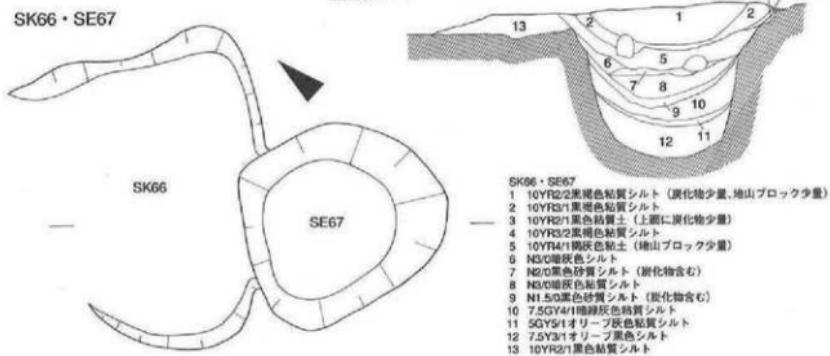
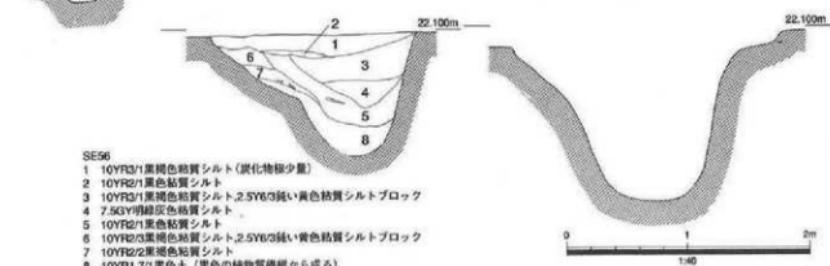
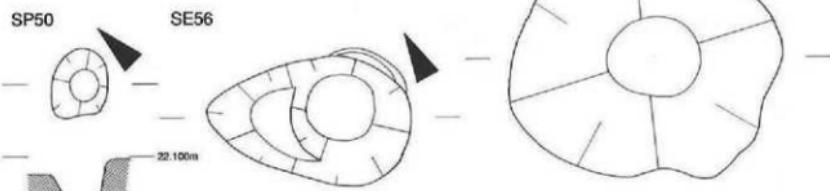
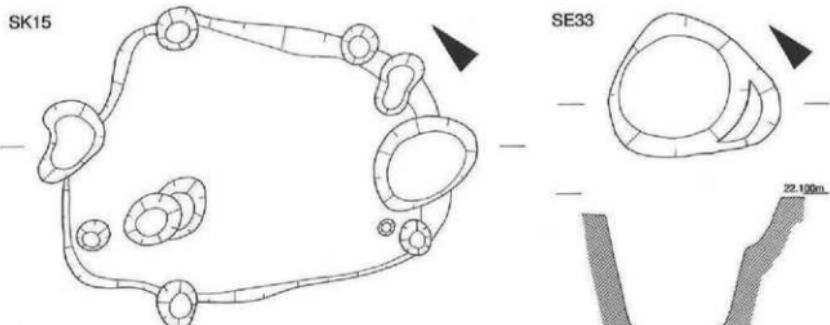


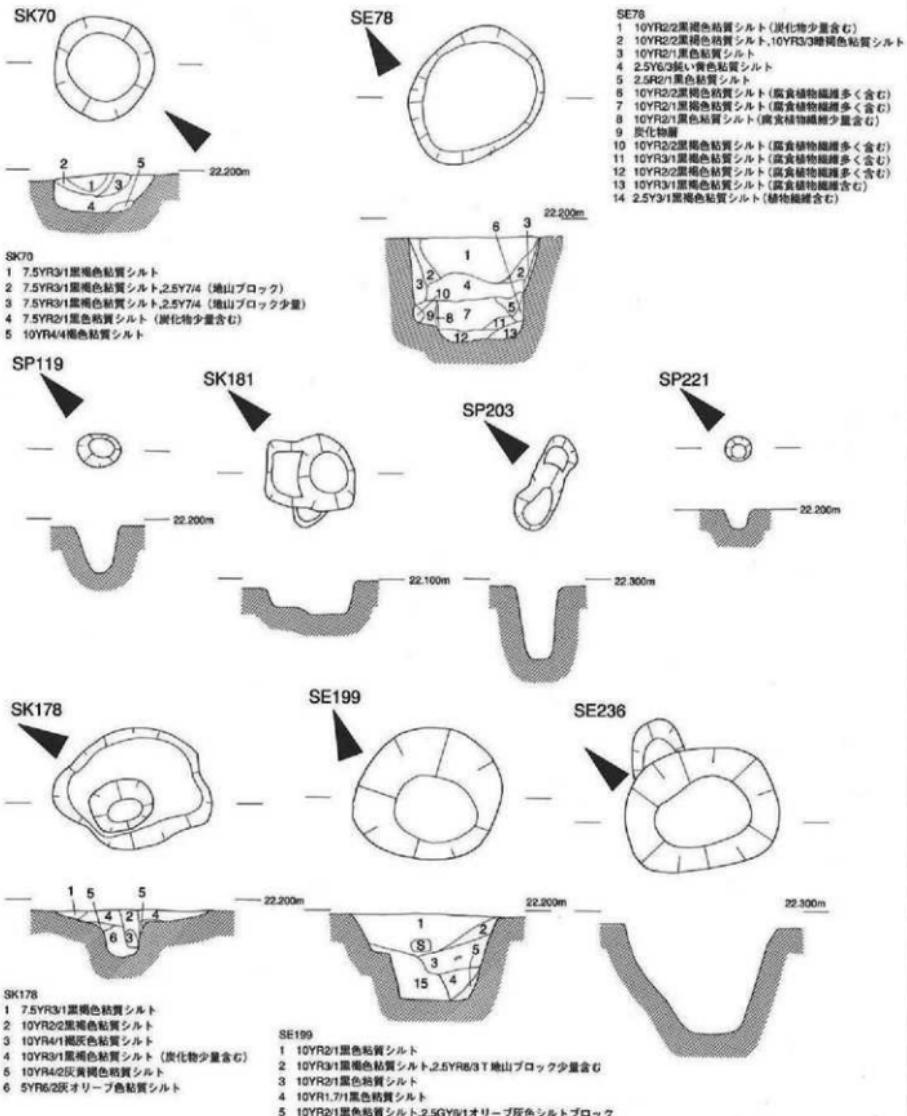
SB23

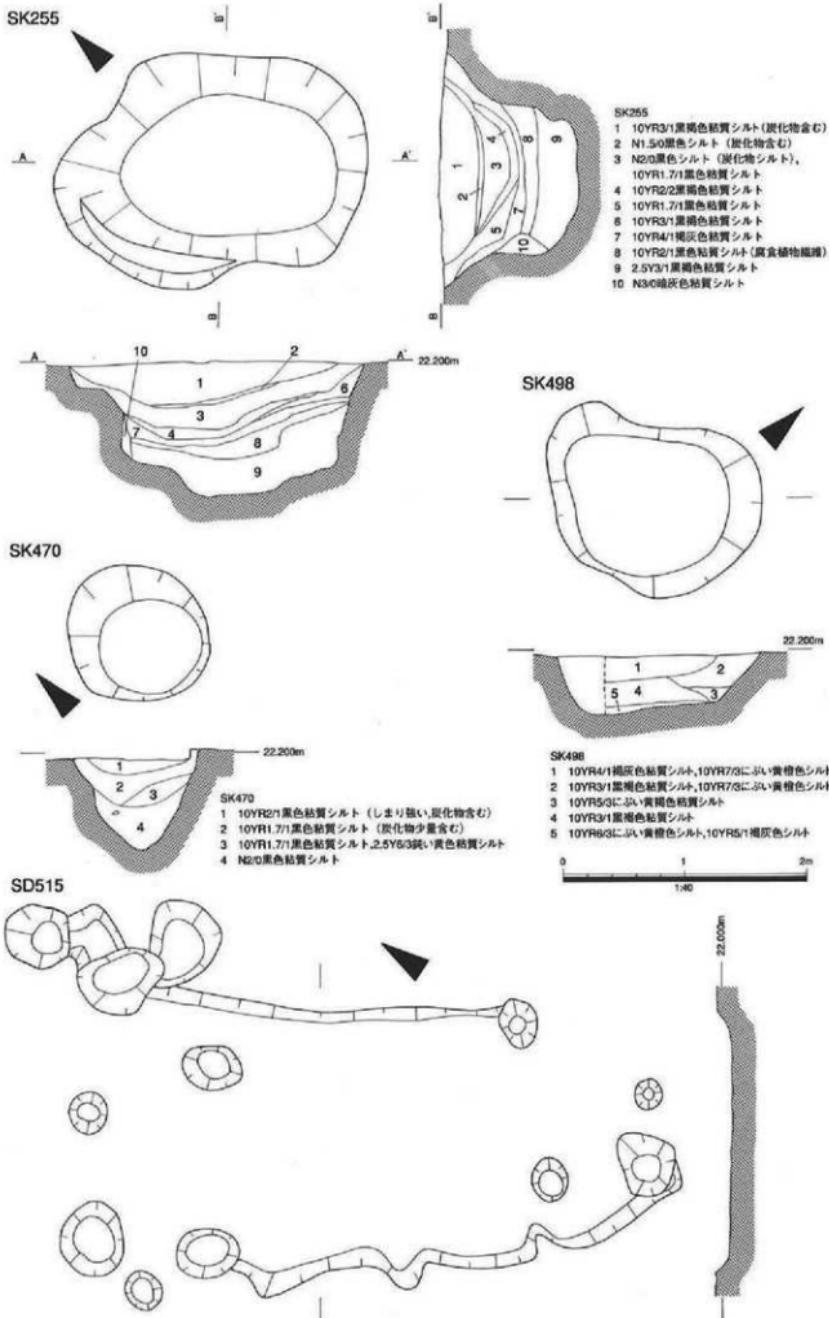


SB23-P4

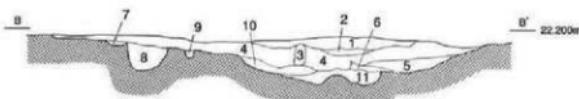
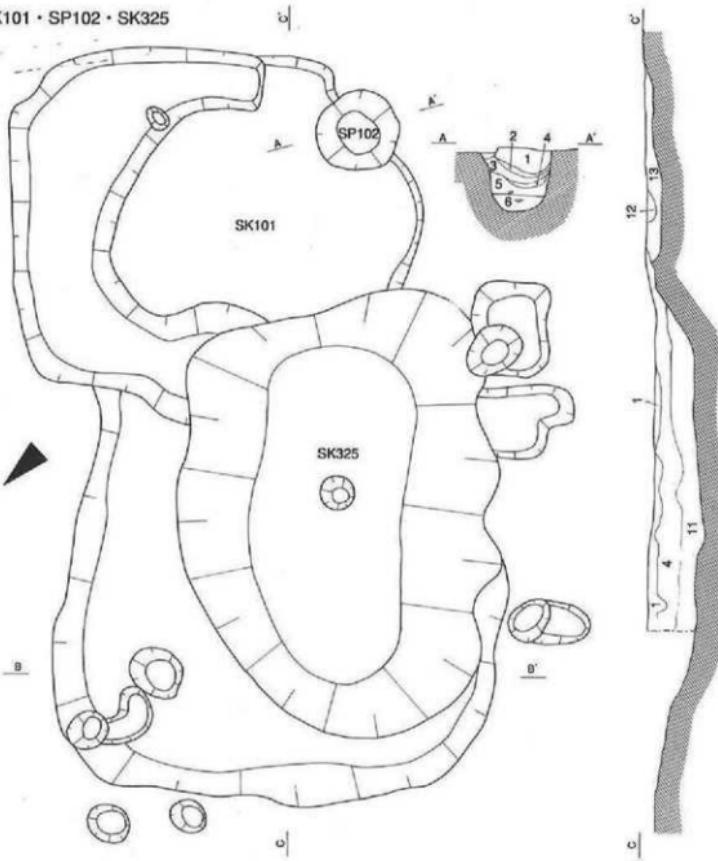
- 1 10YR4/2灰黄褐色シルト (Inorganics slightly included)
- 2 10YR4/1褐色シルト (Inorganics slightly included)
- 3 10YR4/1褐色シルト (Inorganics many)







SK101・SP102・SK325



SK325・SK101

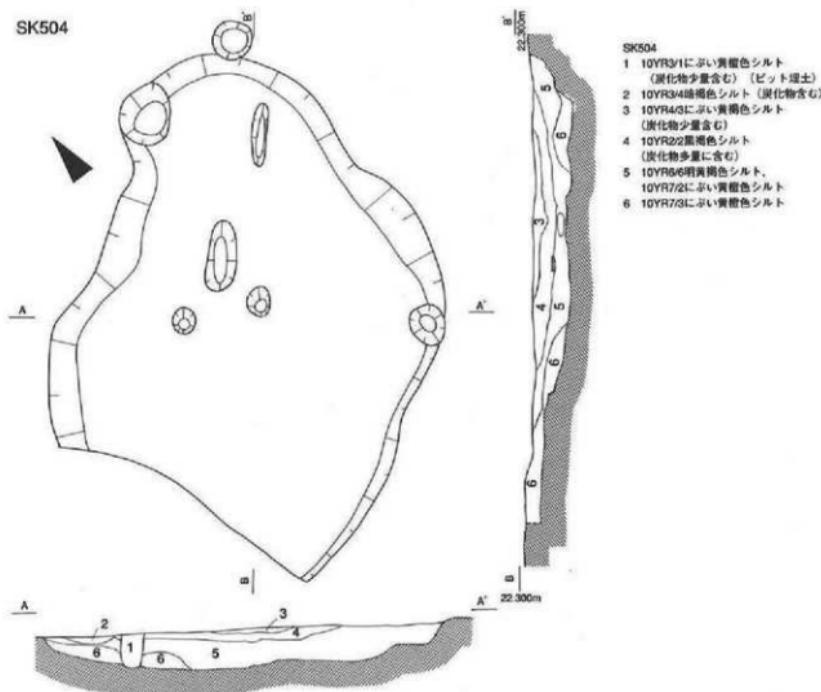
- 1 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
- 2 2.5Y4/1灰灰色粘質シルト
- 3 N4/0灰色粘質シルト（塊乱）
- 4 7.5Y6/1灰色粘質シルト
- 5 10YR3/1暗褐色粘質シルト
- 6 10YR3/1暗褐色粘質シルト, 10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック
- 7 10YR3/1暗褐色粘質シルト, 10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック
- 8 10YR3/1暗褐色粘質シルト（炭化物含む）
- 9 N4/0灰色粘質シルト（塊乱）
- 10 5Y4/1灰褐色粘質シルト
- 11 10YR3/1暗褐色粘質シルト
- 12 10YR3/1暗褐色粘質シルト
- 13 10YR4/1暗灰色粘質シルト（達山小ブロック, 炭化物少量含む）

SP102

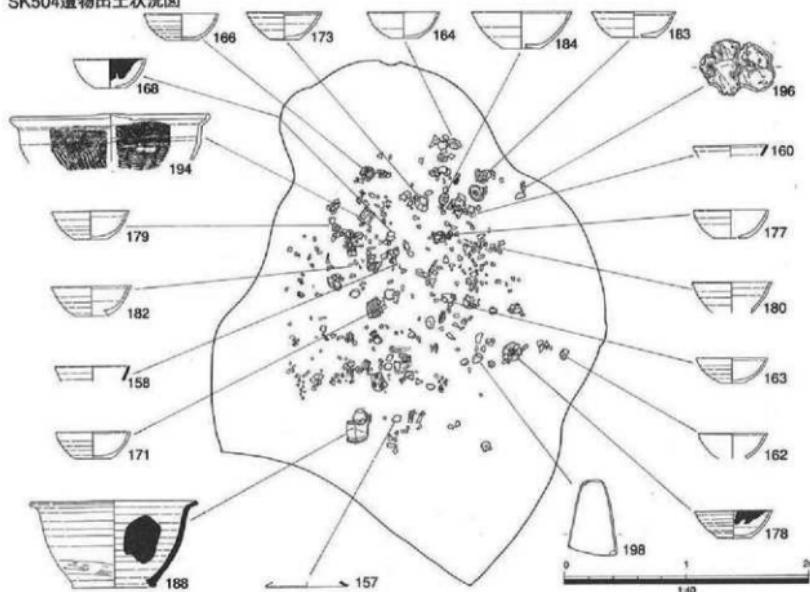
- 1 10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物少量含む）
- 2 2.5Y7/3浅黄色粘質シルト
- 3 10YR2/1黑色粘質シルト
- 4 10YR1.7/1黒色粘質シルト（炭酸植物礁堆含む）
- 5 10YR3/1黒褐色粘質シルト（油山ブロック少量含む）
- 6 10YR3/1黒褐色粘質シルト



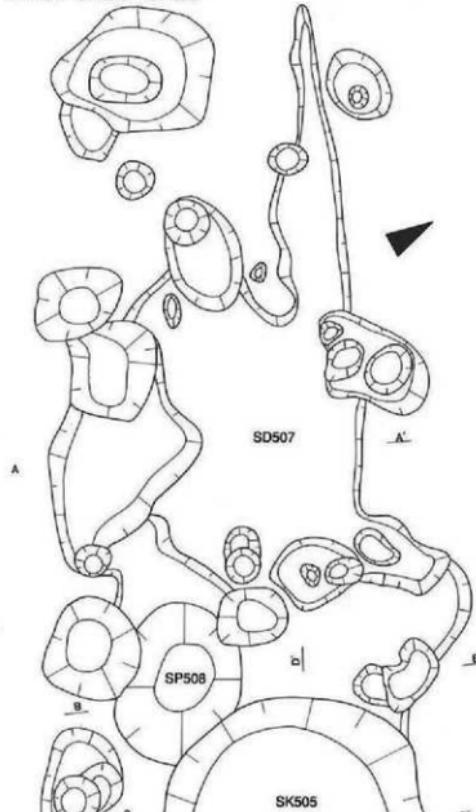
SK504



SK504遺物出土状況図

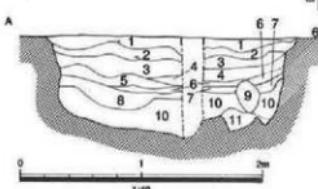
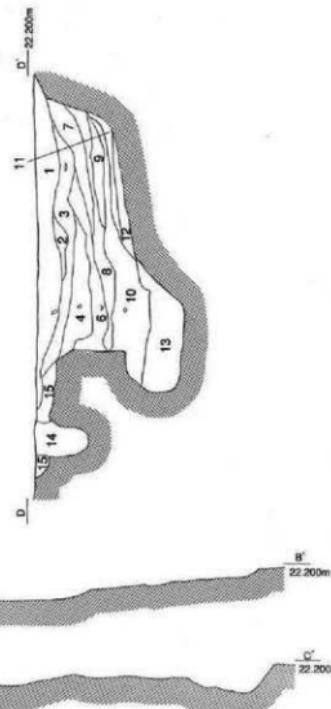


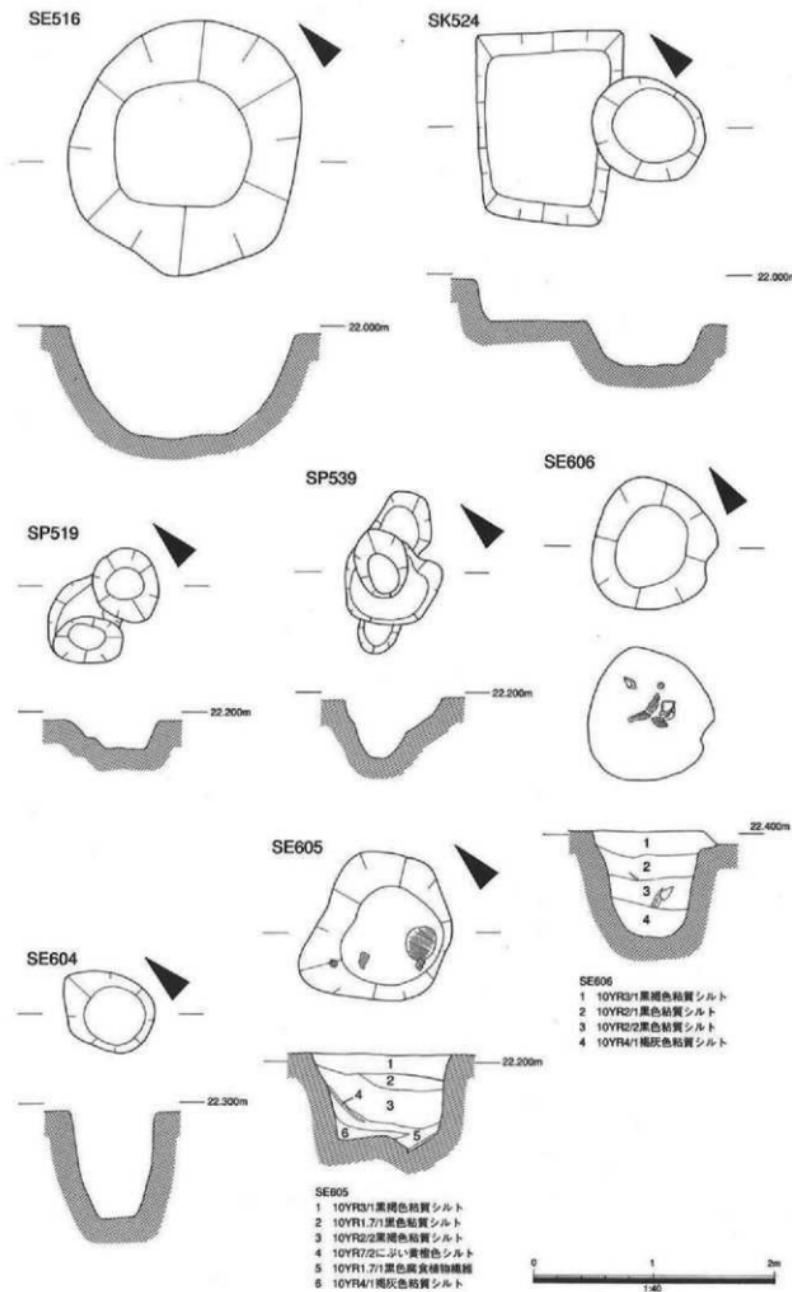
SK505・SD507・SP508

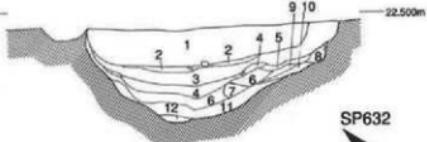
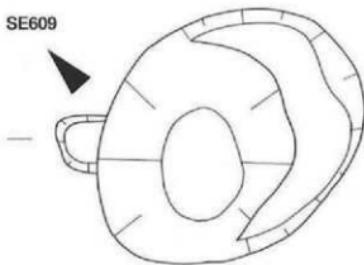


SK505

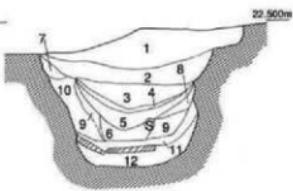
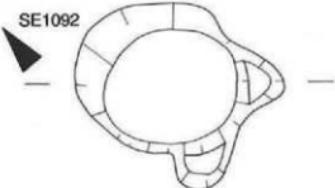
- 1 10YR4/1褐色シルト
- 2 10YR4/1褐色シルト, 10YR7/4にぶい黄褐色シルト
- 3 10YR4/1褐色シルト, 10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック少量
- 4 10YR5/1褐色シルト (液化物少量含む)
- 5 10YR3/1黒褐色粘質
- 6 2.5Y4/1褐色粘質シルト
- 7 10YR7/4にぶい黄褐色シルト, 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック
- 8 10YR2/1黒褐色粘質シルト (地山小ブロック少量含む)
- 9 10YR4/1褐色粘質シルト, 10YR6/2灰黄褐色シルト
- 10 10YR4/1褐色粘質シルト, 10YR2/1黑褐色粘質シルトブロック
- 11 10YR5/1褐色シルト, 5BG6/1青灰色シルト
- 12 10YR4/1褐色粘質シルト, 5BG6/1青灰色シルト少量
- 13 10YR4/1褐色粘質シルト, 5BG6/1青灰色シルト
- 14 10YR3/1黒褐色粘質シルト
- 15 10YR3/1黒褐色粘質シルト, 10YR7/3にぶい黄褐色シルト





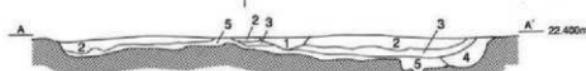
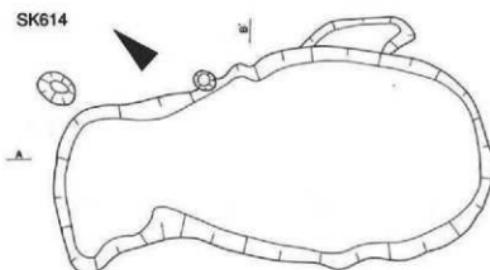


- SE609
 1 10YR3/2黒褐色粘質シルト
 2 10YR3/1黒褐色粘質シルト
 3 10YR3/1黒褐色シルト
 4 10YR3/1黒褐色粘質シルト
 5 2.5Y6/2黒褐色シルト
 6 10YR2/1黒褐色粘質シルト
 7 10YR5/1黒褐色粘質シルト
 8 10YR4/1黒褐色シルト
 9 5Y6/1灰色粘質シルト
 10 10YR5/1褐色粘質シルト
 11 10YR4/1褐色粘質シルト
 12 N4/0灰色粘質シルト

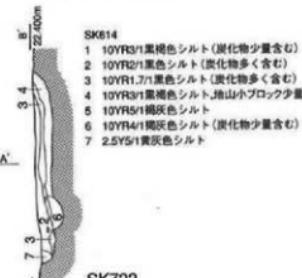
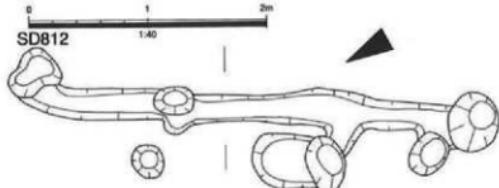


- SE1092
 1 10YR2/2黒褐色粘質シルト
 2 10YR3/1黒褐色粘質シルト、
 10YR7/4にいぶし銀褐色シルトブロック少量
 3 10YR2/1黒褐色粘質シルト
 4 N5/0黒褐色化物
 5 食べ植物鐵錆層(薄)
 6 N4/0灰色粘質シルト
 7 10YR3/2黒褐色シルト
 8 5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト
 9 N4/0灰色粘質シルト、
 5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト
 10 7.5GY6/1緑灰色粘土
 11 食べ植物鐵錆層(薄)
 12 10GY1緑灰色粘質シルト

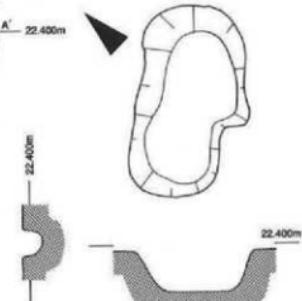
SK614

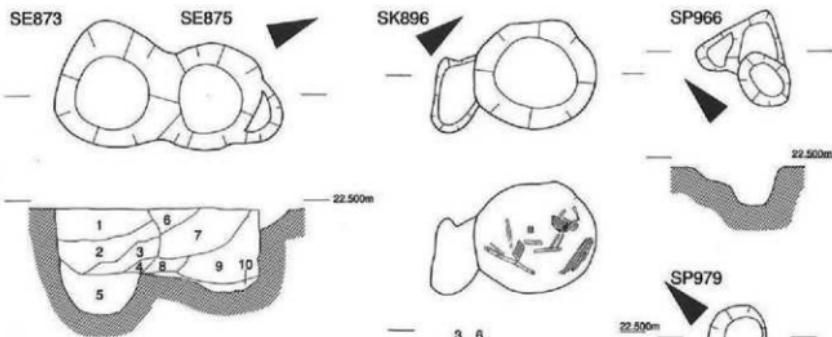


SD812



SK722





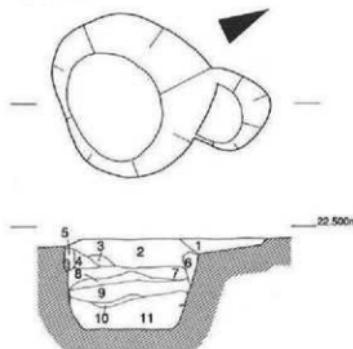
SE873・SE875

- 1 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
- 2 10YR3/1黒褐色シルト
- 3 10YR2/2黒褐色シルト, 10YR6/4にびい黄褐色シルトブロック
- 4 10YR2/1黒色シルト
- 5 N2/O黒色植物質炭化物
- 6 10YR4/1褐色シルト (炭化物含む)
- 7 10YR2/2黒褐色シルト
- 8 10YR2/2黒褐色シルト
- 9 10YR3/1黒褐色シルト
- 10 10YR1.7/1黒色シルト

SK896

- 1 10YR3/1黒褐色シルト (小炭化物含む)
- 2 10YR3/1黒褐色シルト (小炭化物含む), 10YR6/4にびい黄褐色シルトブロック
- 3 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物多く含む)
- 4 10YR6/4Cにびい黄褐色シルトブロック, 10YR4/1褐色シルト
- 5 10YR4/1褐色シルト
- 6 10YR1.7/1黒色植物質炭化物繊維
- 7 10YR5/1褐色シルト
- 8 10GY5/1緑灰色砂質シルト
- 9 N2/O黒色植物質炭化物

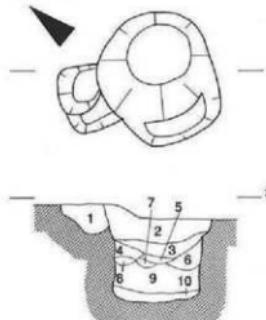
SE1028



SE1028

- 1 10YR2/2黒褐色シルト
- 2 10YR2/1黒色シルト (炭化物少量含む)
- 3 10YR3/2黒褐色粘質シルト
- 4 10YR1.7/1黒色シルト
- 5 10YR3/1黒褐色シルト
- 6 7.5Y6/2オリーブベージュシルト
- 7 2.5Y2/1黒色シルト (炭化物少量含む)
- 8 10YR3/1黒褐色シルト
- 9 10YR1.7/1黒色黄色シルト (炭化物含む)
- 10 7.5Y8/3オリーブ黒色シルト
- 11 10YR1.7/1黒色シルト

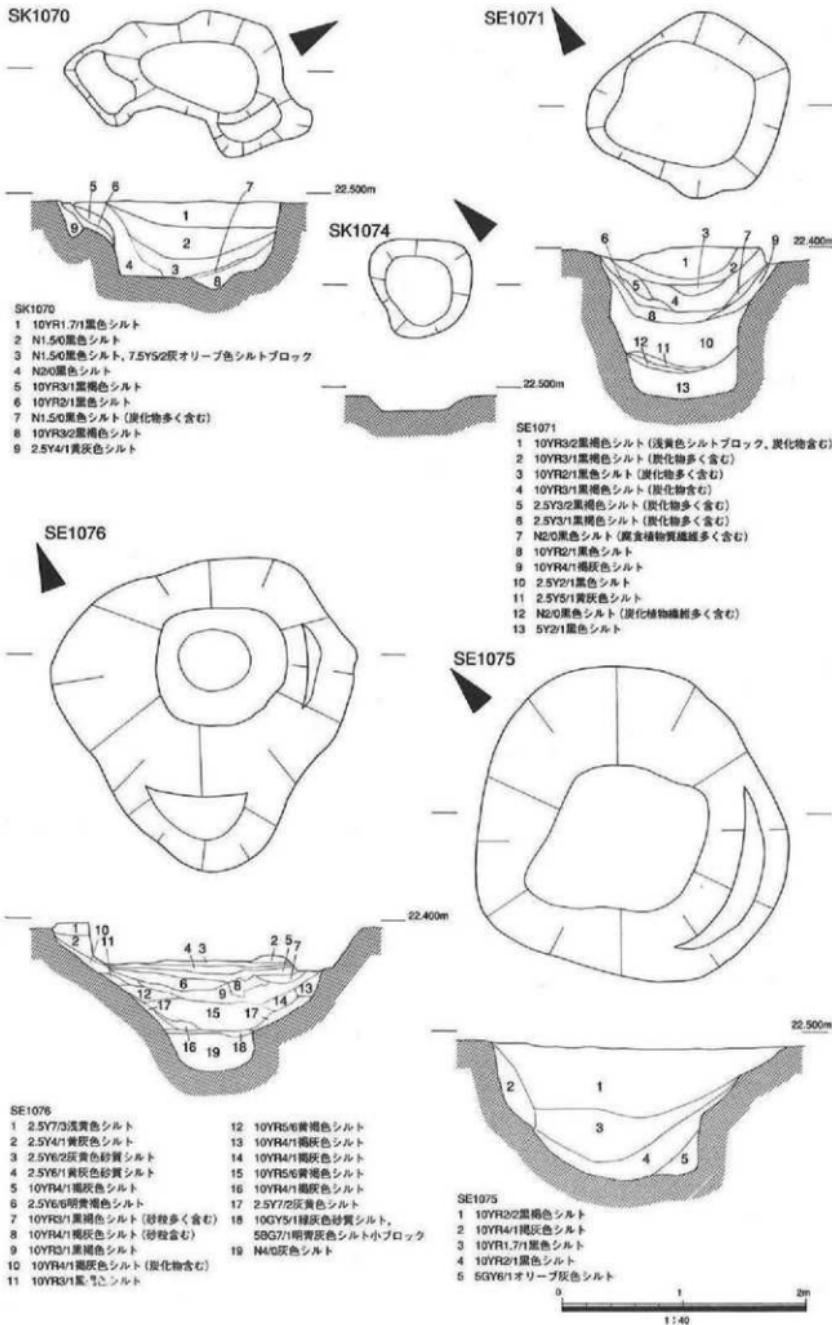
SE1052



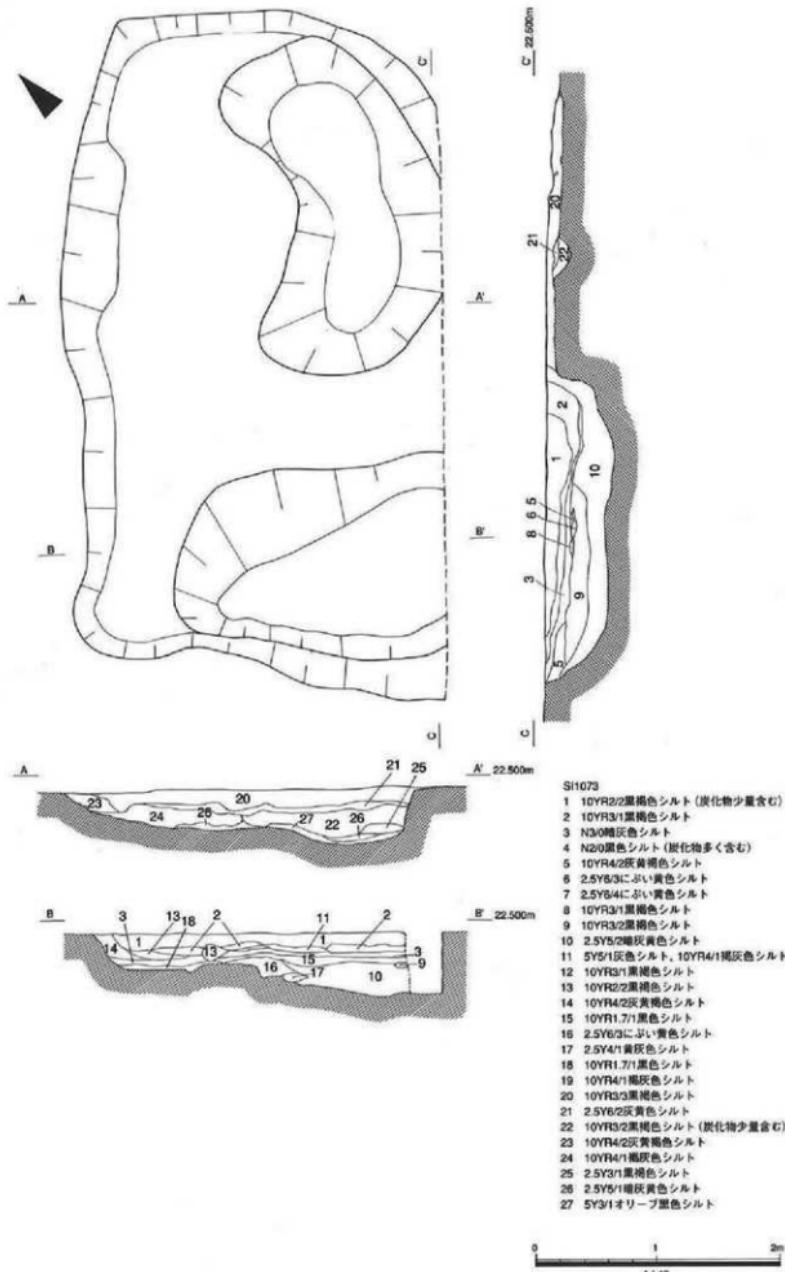
SE1052

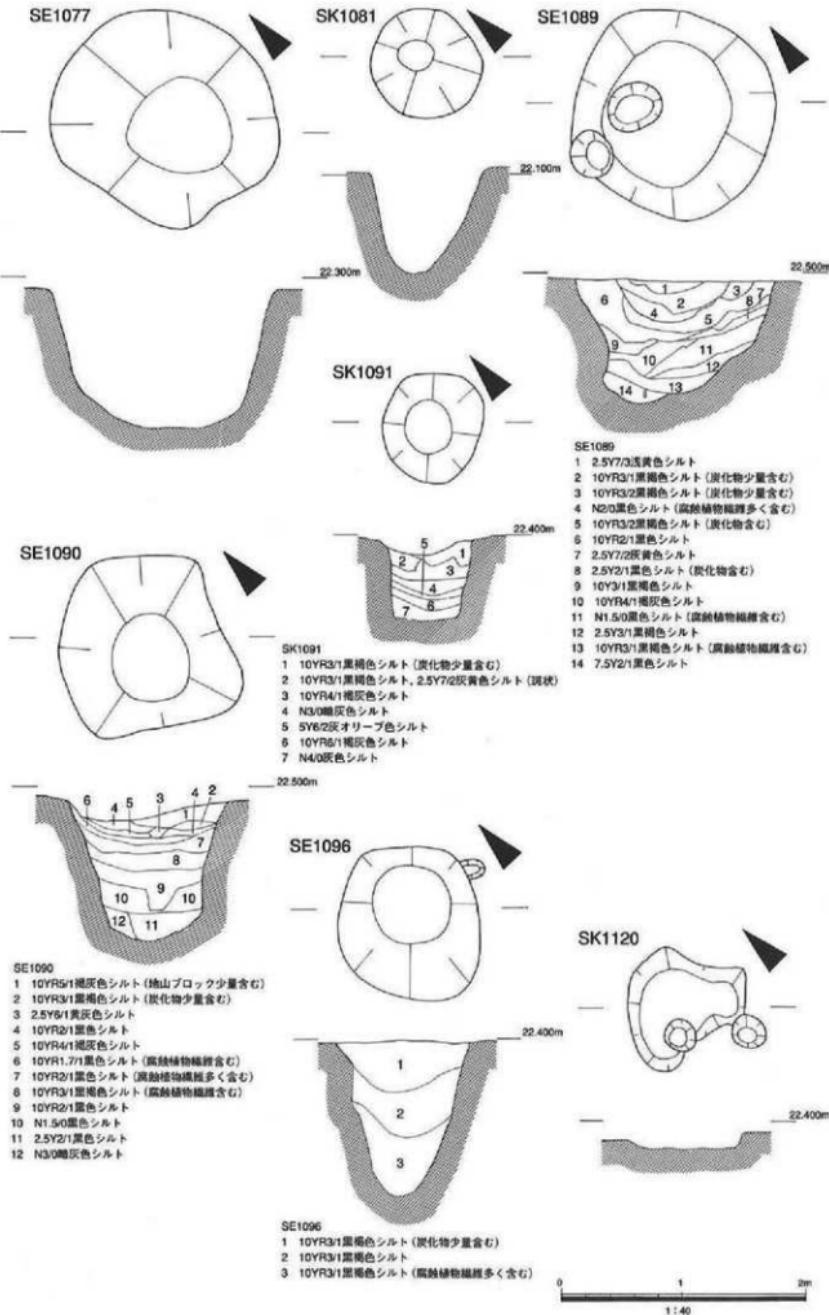
- 1 10YR4/2灰黒褐色シルト (炭化物少量含む)
- 2 10YR3/1黒褐色粘質シルト (炭化物少量含む)
- 3 10YR2/1黒褐色粘質シルト
- 4 10YR4/1黒灰褐色粘質シルト
- 5 10YR5/2黒褐色砂
- 6 2.5Y2/1黒色シルト
- 7 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 8 2.5Y4/1黄褐色砂
- 9 2.5Y2/1黒色粘質シルト
- 10 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト



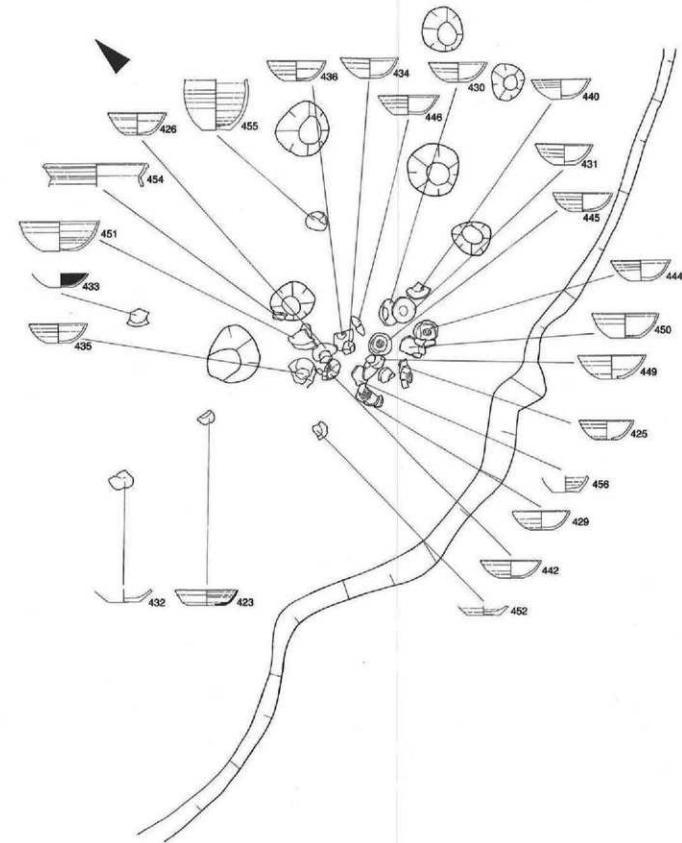
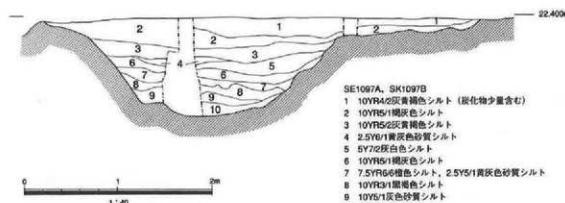
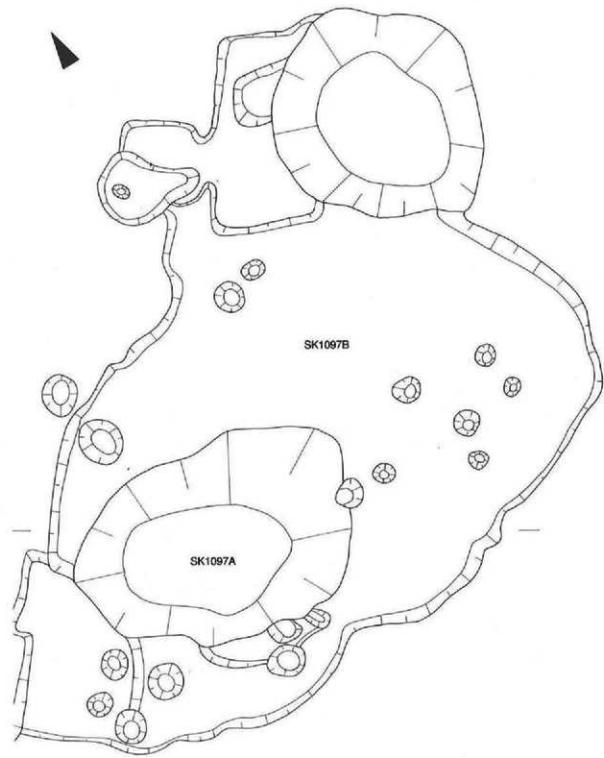


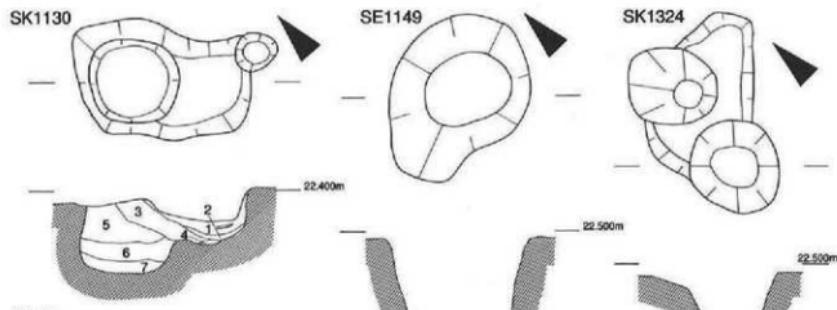
SI1073





SK1097B遺物出土状況図

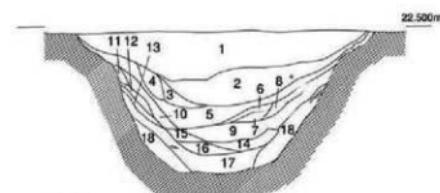
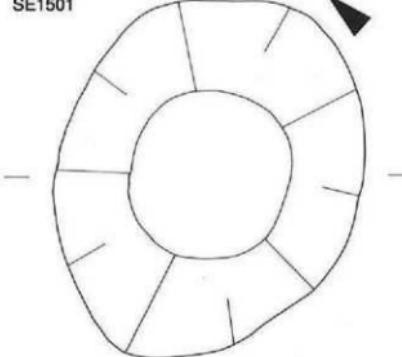




- SK1130
- 1 10YR3/1黒褐色シルト
 - 2 10YR1.7/1黒色シルト
 - 3 10YR2/1黒褐色シルト
 - 4 2.5Y4/1黒灰色シルト
 - 5 10YR2/2黒褐色シルト
 - 6 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 7 5Y2/1黒色シルト

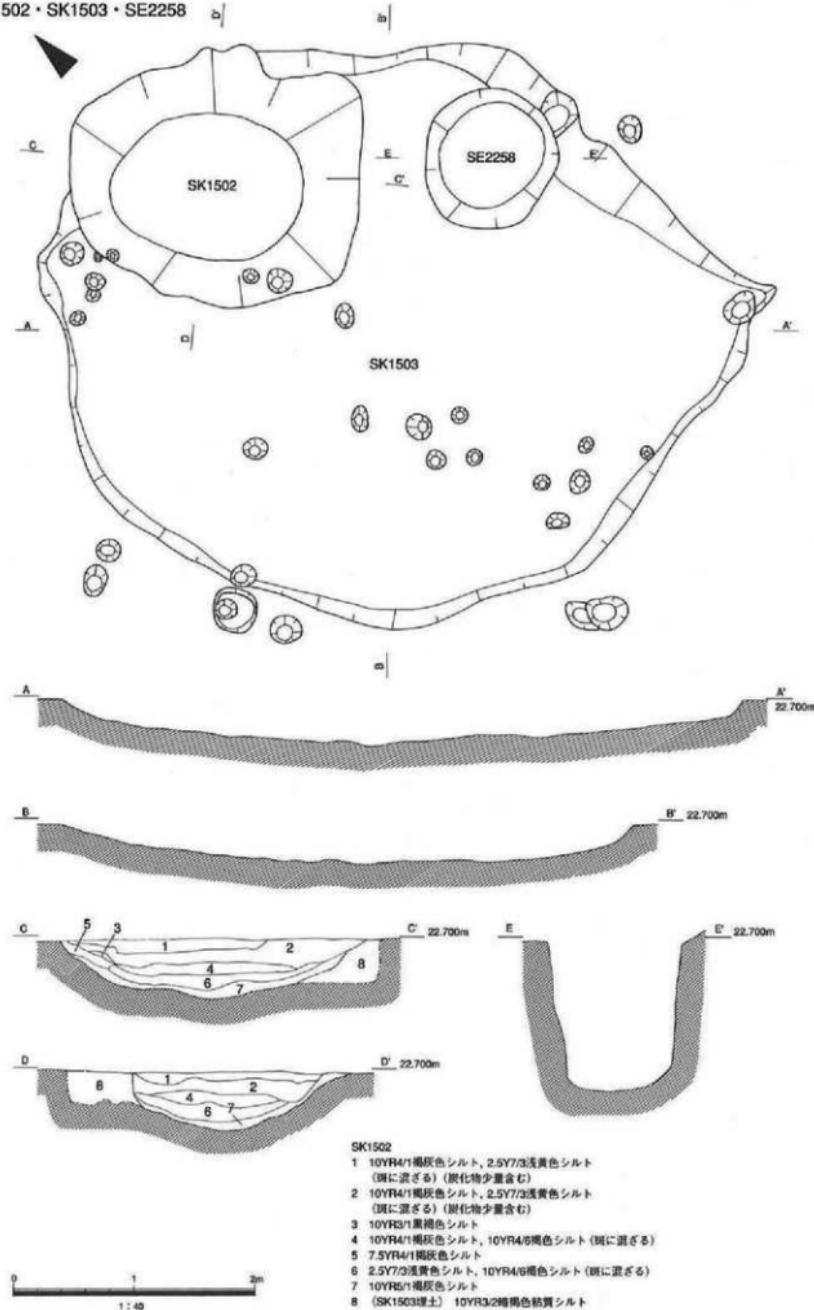
SK1332

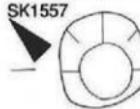
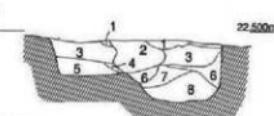
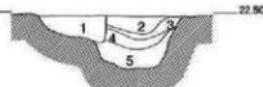
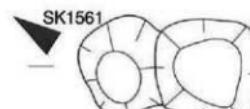
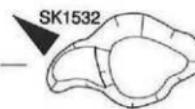
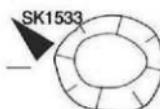
SE1501



- SE1501
- 1 10YR3/1黒褐色シルト (炭化地、地山小ブロック少量含む)
 - 2 10YR2/2黒色シルト (地山小ブロック含む)
 - 3 10YR2/1黒褐色シルト、10YR4/1褐灰色シルト
 - 4 10YR3/1黒褐色シルト
 - 5 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 6 10YR4/1褐灰色シルト
 - 7 10YR1.7/1黒色シルト
 - 8 5GY7/1暗リープ灰褐色シルト
 - 9 2.5Y2/1黒色シルト
 - 10 10YR3/1黒褐色シルト
 - 11 7.5Y8/1灰褐色シルト
 - 12 10YR4/1褐灰色シルト
 - 13 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 14 10YR1.7/1黒色シルト
 - 15 N1.5/0黒色シルト
 - 16 2.5Y2/1黒色シルト
 - 17 5Y4/1灰褐色シルト
 - 18 2.5GY6/1オリーブ灰褐色シルト

SK1502・SK1503・SE2258

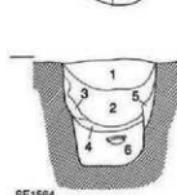
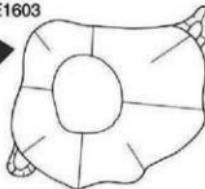
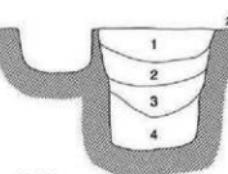
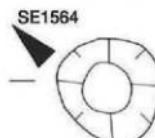
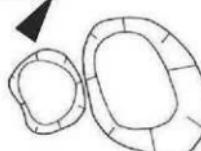




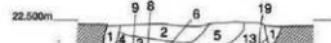
- SK1532**
- 2.5Y3/1黒褐色シルト (小礫多く含む)
 - 10YR3/1黒褐色シルト (小礫、炭化物含む)
 - 10YR3/1黒褐色シルト
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 5Y3/1オリーブ黒色シルト

- SK1561**
- 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 10YR3/1黒褐色シルト
 - 5Y6/2オリーブ色シルト
 - 2.5Y1/1黒色シルト
 - 2.5Y4/1黄灰色シルト、7.5GY6/1緑灰色シルト (極少量)
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト、5Y6/2オリーブ色シルト (極少量)
 - S07/1明瞭灰色シルト、10YR2/1黒色シルト (極少量)
 - 10Y3/1オリーブ黒色シルト

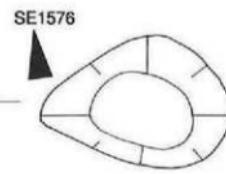
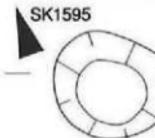
SE1569



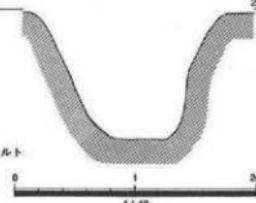
- SE1568**
- 2.5Y3/1黒褐色シルト (小礫多く含む)
 - 10YR3/1黒褐色シルト (小礫少量含む)
 - 2.5Y2/1黒色シルト
 - 5Y3/1オリーブ黒色シルト



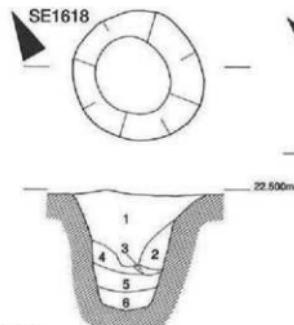
- SE1564**
- 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 2.5Y2/1黒色シルト
 - 5Y6/2オリーブ色シルト
 - 10YR4/1黒褐色シルト
 - 5Y6/2オリーブ色シルト
 - 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト



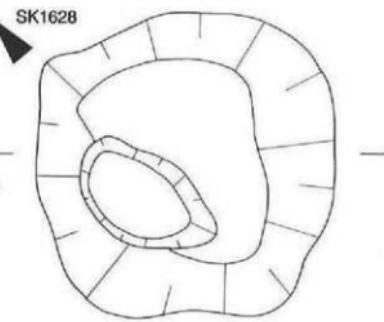
- SE1603**
- 5Y6/2オリーブ色シルト
 - 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
 - 5Y6/2オリーブ色シルト、10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
 - 5Y7/2白色シルト
 - 5Y6/2オリーブ色シルト
 - 10YR4/2黄褐色シルト
 - 10YR3/2黒褐色シルト
 - 10YR1.7/1黒色シルト (炭化物含む)
 - 2.5Y6/2黄黄色シルト、10YR2/1黒色シルト (斑状)
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
 - 2.5Y4/2黄褐色シルト
 - 2.5Y7/3黄褐色シルト、2.5YS/1細灰黄色シルト
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト (地山小ブロック含む)
 - 2.5Y6/2黄褐色シルト
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 2.5Y7/2黑色シルト
 - N1.5/0黑色シルト
 - H2/0白色シルト
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト
 - 2.5Y4/1黄灰色シルト
 - 2.5Y2/1黒色シルト
 - 2.5Y3/1黒褐色シルト



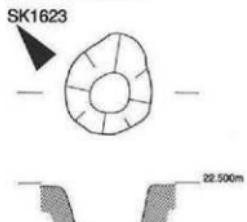
22.500m
3m
1:10



- SE1618
 1 10YR2/2黒褐色シルト (炭化物少量含む)
 2 5Y7/3淡黄色シルト
 3 7.5GY7/1明緑灰色シルト, 10YR3/1黒褐色シルト少量
 4 10YR1.7/1黒色シルト
 5 7.5GY7/1明緑灰色シルト, 10YR3/1黒褐色シルト少量
 6 10Y3/1オリーブ黒色シルト



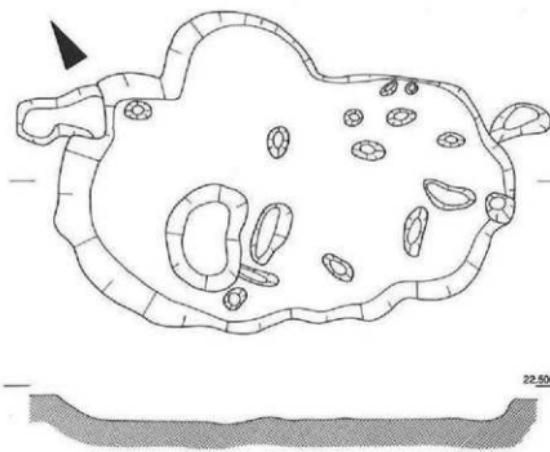
- SK1628
 1 10YR4/1褐色灰色シルト
 2 2.5Y7/4淡黄褐色シルト
 3 10YR3/1黒褐色シルト
 4 10YR2/1黒色シルト
 5 10YR5/1褐色灰色シルト
 6 10YR5/2灰褐色シルト
 7 2.5Y3/1黒褐色シルト
 8 N4/0灰色シルト
 9 N2/0黑色シルト
 10 SY6/3オリーブ黄色シルト
 11 NS5/0灰色シルト, 7.5Y6/2暗オリーブ色シルト
 12 10Y9/1灰色シルト, 7.5Y2/1黑色シルト



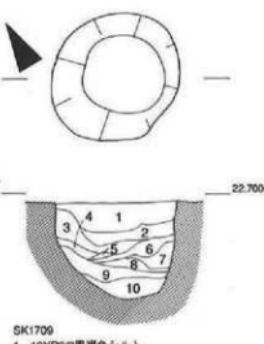
- SK1639
 1 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
 2 10YR2/1黑色シルト
 3 10YR3/2黒褐色シルト (炭化植物様少量含む)
 4 10YR1.7/1黒色シルト (炭化植物様多く含む)
 5 10YR3/1黒褐色シルト
 6 2.5Y3/1黒褐色シルト
 7 2.5Y6/3に少く黄色シルト
 8 2.5Y4/1貴灰褐色シルト
 9 2.5G6Y8/1オリーブ灰色シルト
 10 SY3/1オリーブ黑色シルト



SK1647



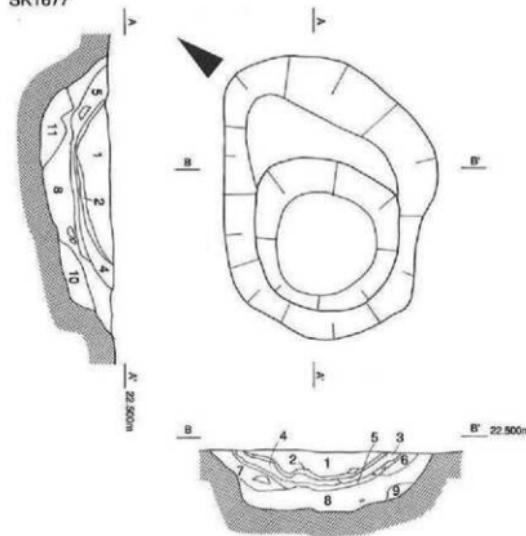
SK1709



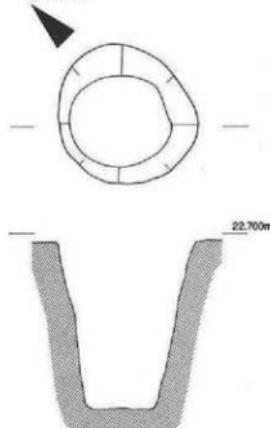
SK1709

- 1 10YR3/2黒褐色シルト
(炭化物多く含む、地山小ブロック)
- 2 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
- 3 SY6/2灰オリーブ色砂質シルト
- 4 2.5Y2/1黒褐色シルト
- 5 SY6/2灰オリーブ色砂質シルト
- 6 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 7 SY6/2灰オリーブ色砂質シルト, 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 8 2.5Y4/1黄灰色シルト
- 9 10YR4/1褐灰色シルト (高純植物繊維多く含む)
- 10 2.5Y3/1黒褐色シルト (高純植物繊維多く含む)

SK1677



SE1711

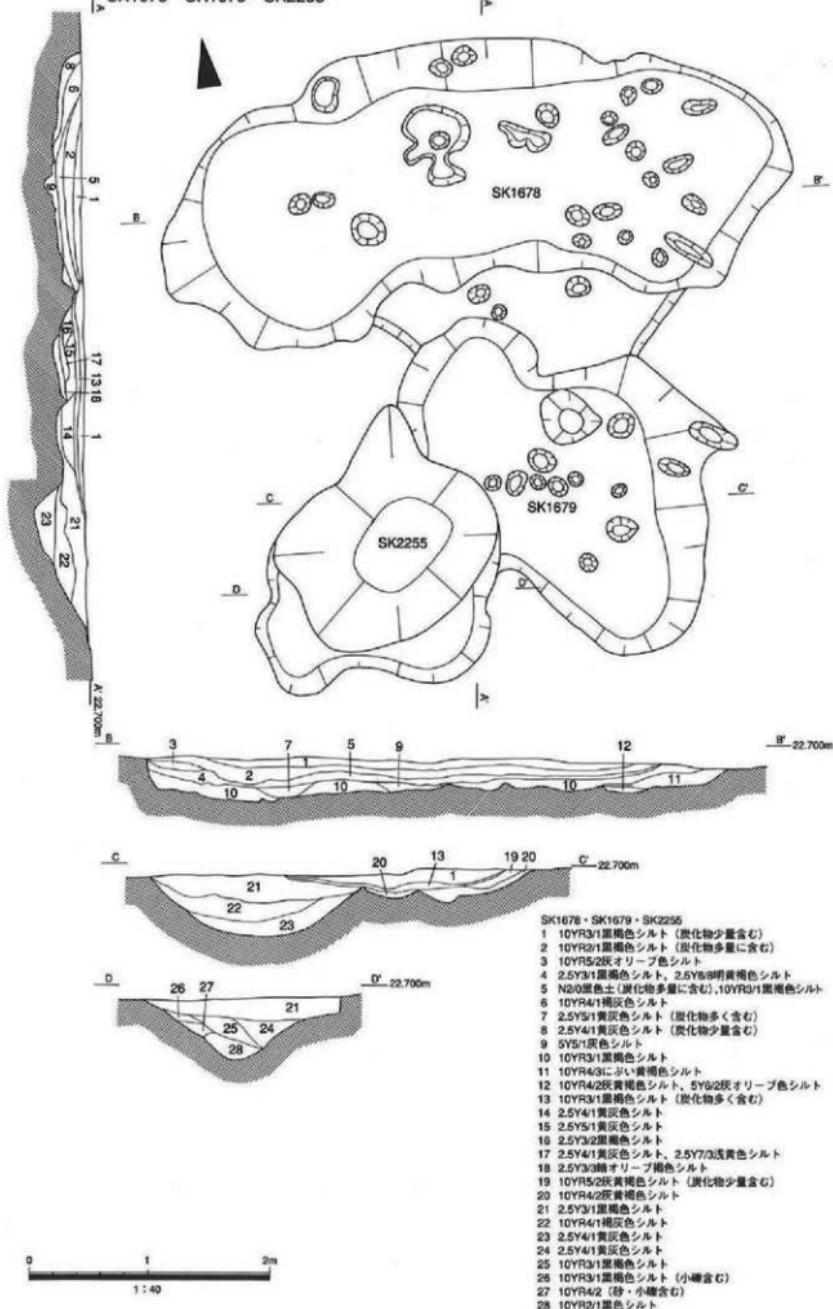


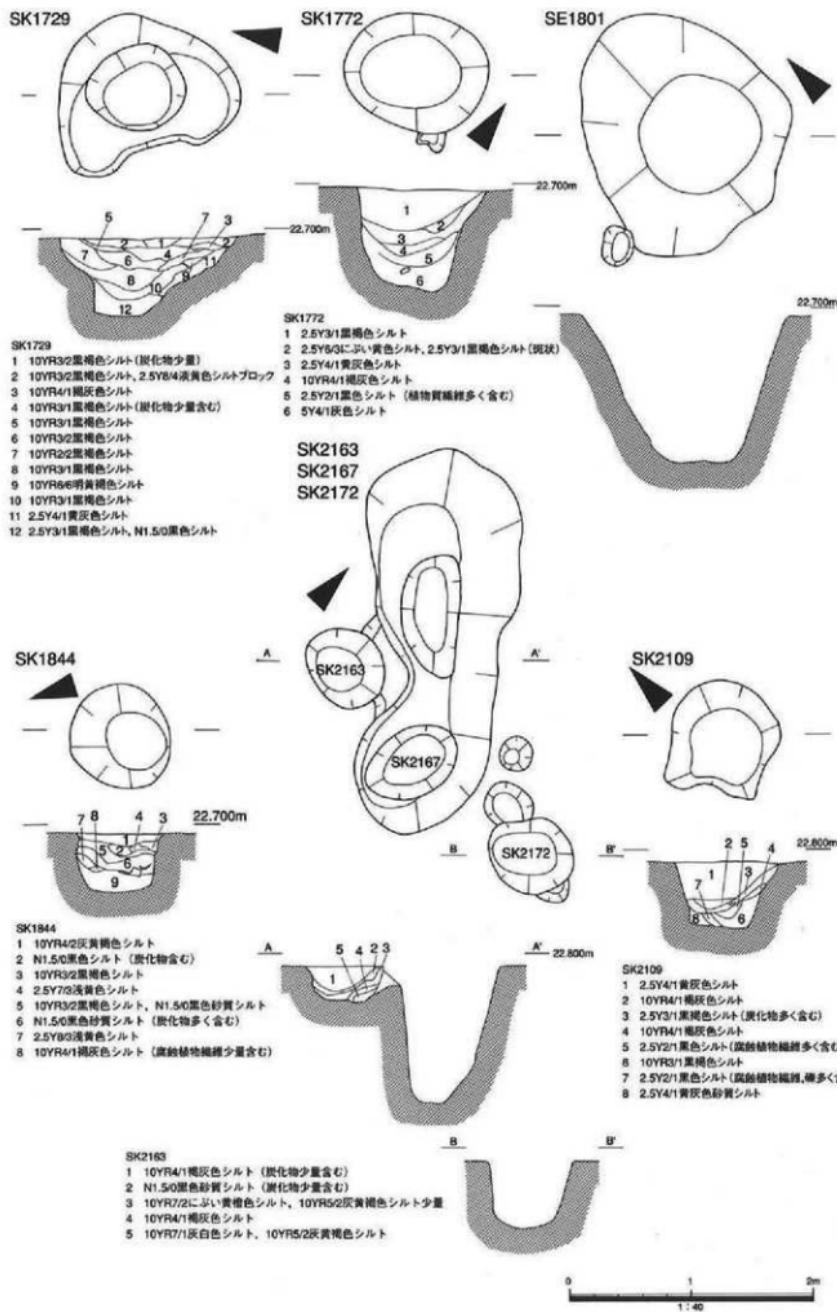
SK1677

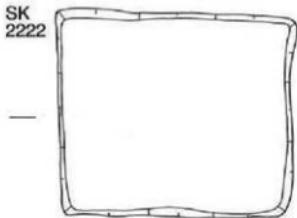
- 1 10YR4/1褐灰色シルト
- 2 10YR3/1黒褐色シルト (炭化物少量含む)
- 3 10Y6/1灰シルト
- 4 10YR4/1褐灰色シルト
- 5 10YR3/1黒褐色シルト
- 6 10YR5/1褐灰色シルト
- 7 10YR5/1褐灰色シルト
- 8 10YR4/1褐灰色シルト
- 9 7.5Y7/2灰白色シルト, 10YR5/1褐灰色シルト
- 10 10YR4/1褐灰色シルト, 7.5Y7/2灰白色シルト少量
- 11 7.5Y7/2灰白色シルト



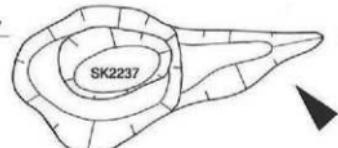
SK1678・SK1679・SK2255



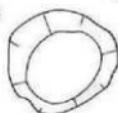




SK2237



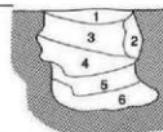
SK2238



SP2239

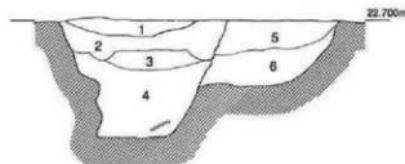


22.700m



SK2238

- 1 10YR5/2黒褐色熱質シルト（炭化物少量）
- 2 10YR3/2黒褐色粘質シルト
- 3 10YR2/2黒色粘質シルト
- 4 10YR3/1黒褐色粘質シルト
- 5 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（植物質混含む）
- 6 5Y3/1オリーブ黒褐色粘質シルト（植物質混含む）



SK2237

- 1 10YR5/3にぶい黃褐色シルト
- 2 2.5Y6/3にぶい黃色シルト
- 3 10YR5/2灰黃褐色シルト
- 4 10YR3/1黒褐色シルト
- 5 10YR5/4にぶい黃褐色シルト
- 6 10YR4/2灰黃褐色シルト

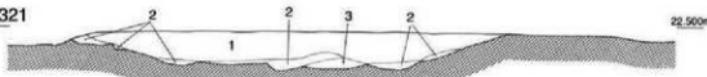
SD1083



SD1083

- 1 10YR3/2暗褐色シルト
- 2 10YR3/1暗褐色シルト
- 3 10YR4/1褐灰色砂質シルト
- 4 10YR3/1黒褐色シルト
- 5 10YR4/1褐灰色砂質シルト
- 6 10YR3/1黒褐色砂質シルト

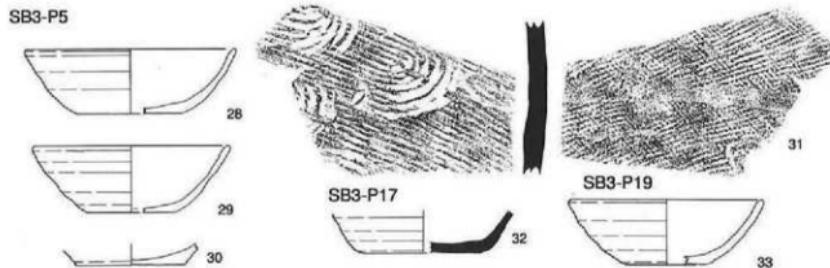
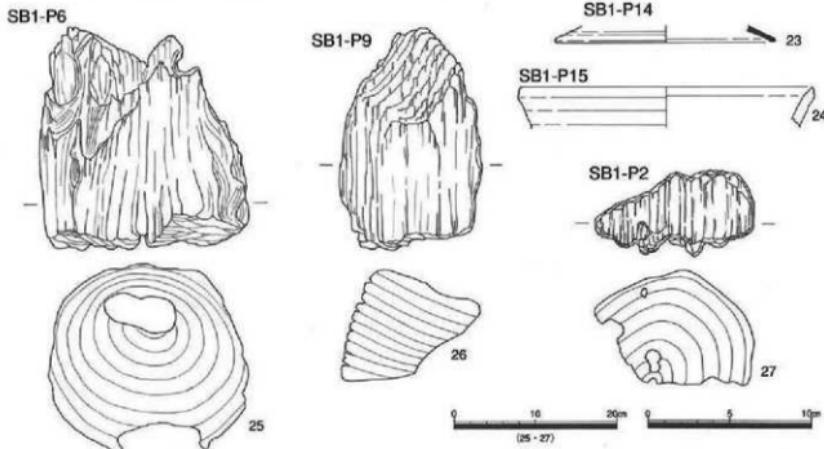
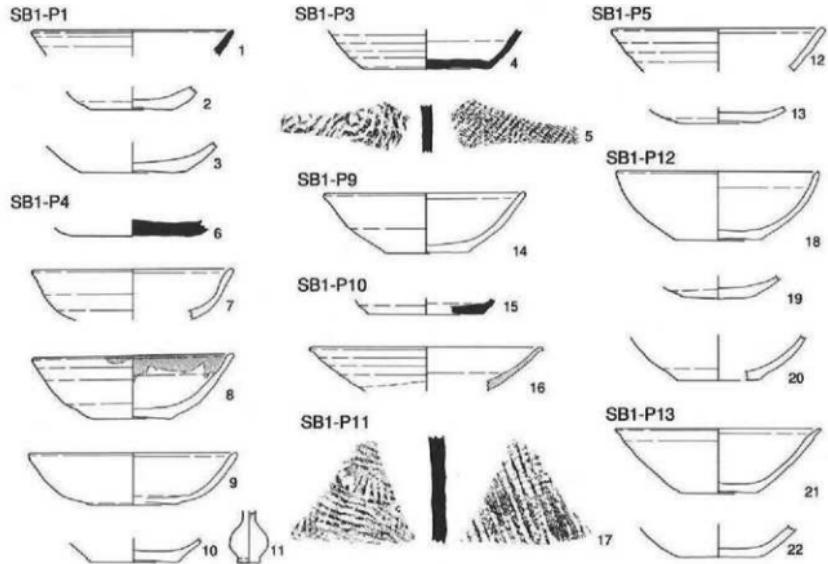
SD1321

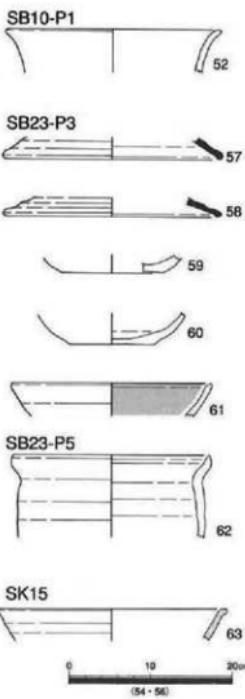
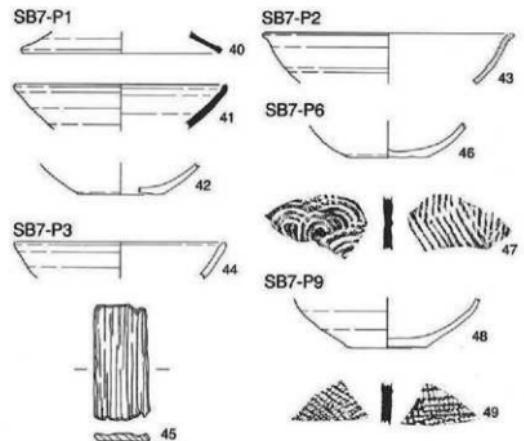
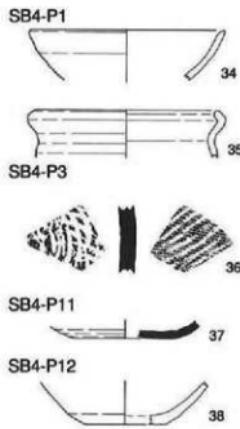


SD1321

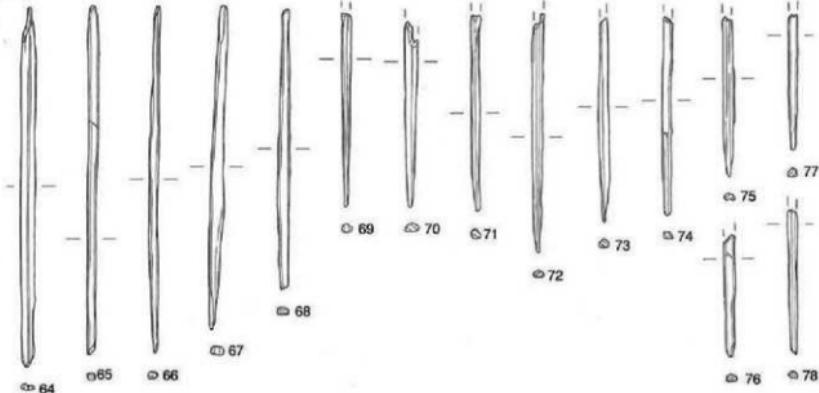
- 1 10YR3/1暗褐色シルト（層・炭化物少量含む）
- 2 10YR3/2暗褐色シルト, 2.5Y5/2暗灰黄色砂
- 3 2.5Y5/2暗灰黄色砂（小礫含む）



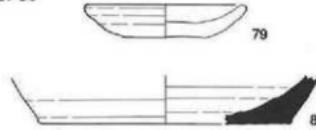




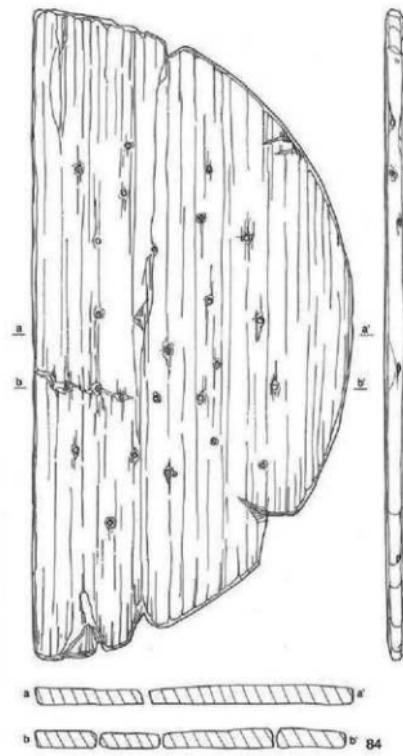
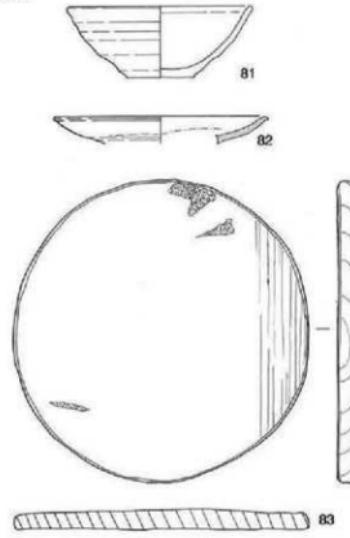
SE33



SP50

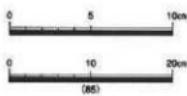
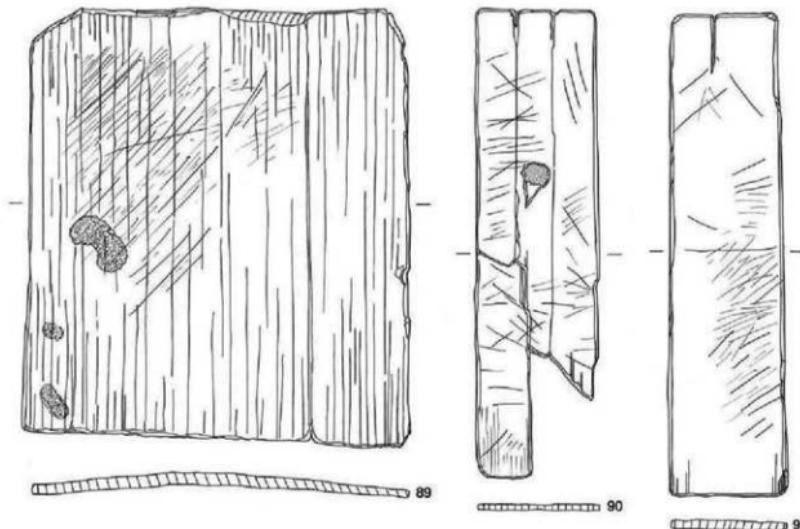
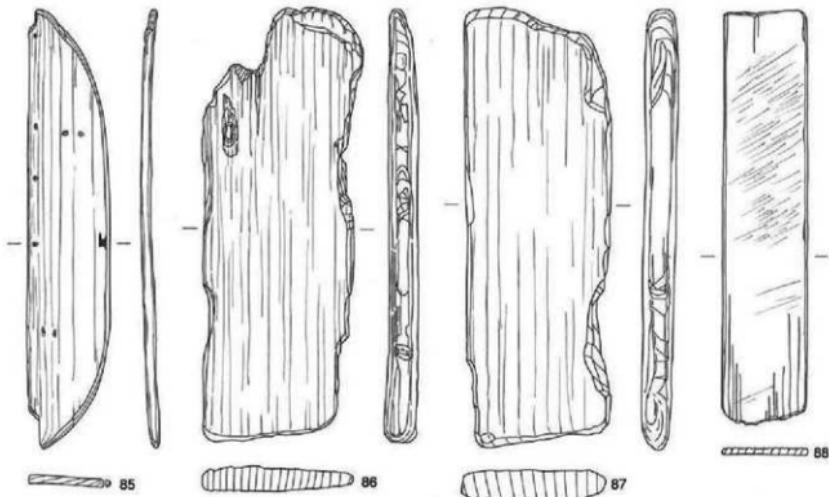


SK51

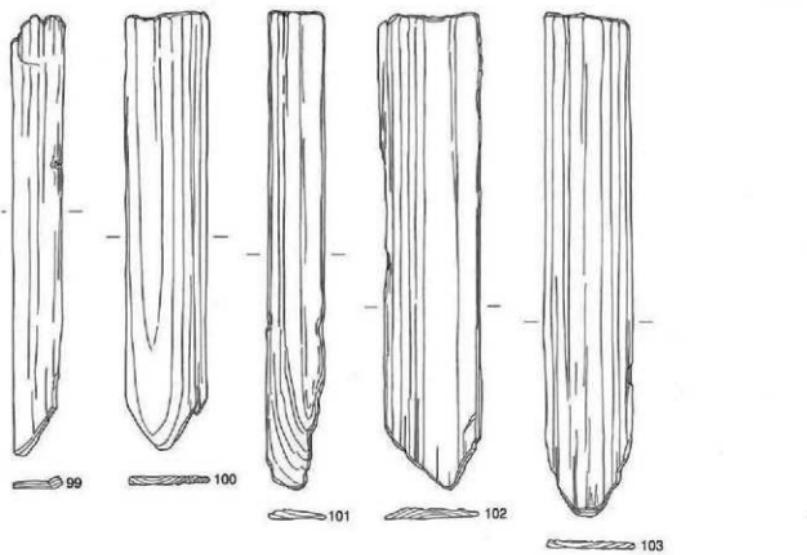
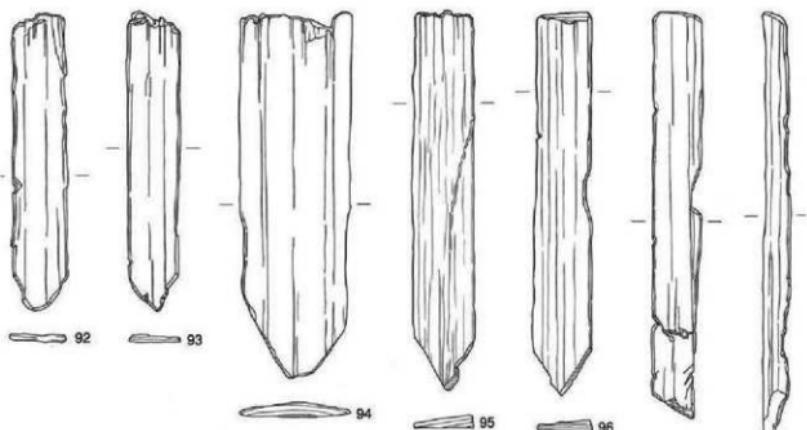


0 5 10mm

SK51

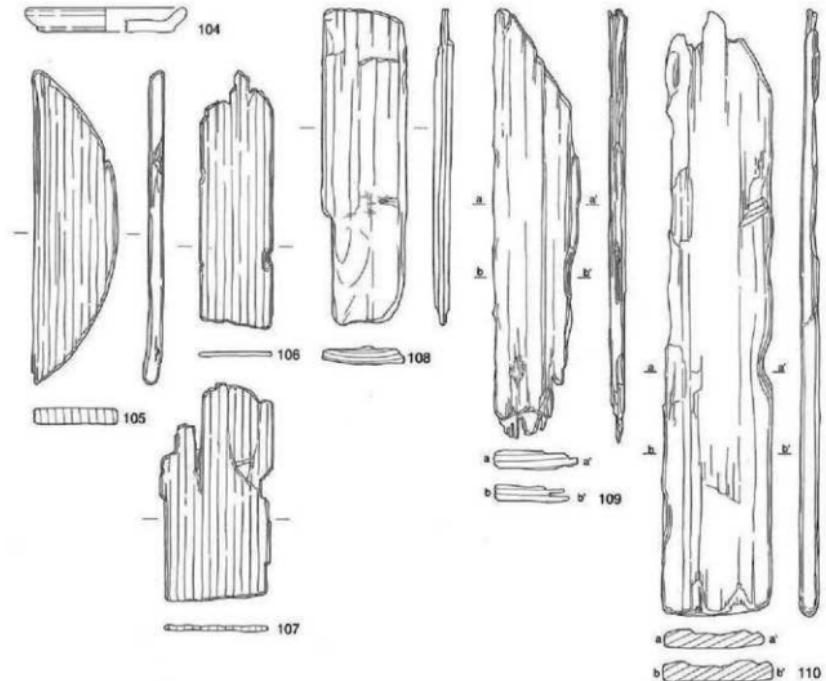


SK51

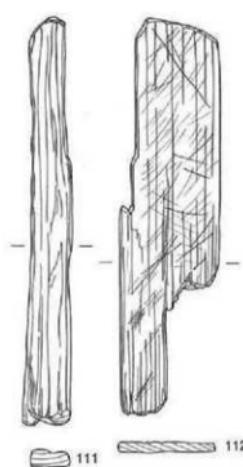


0 10 20mm

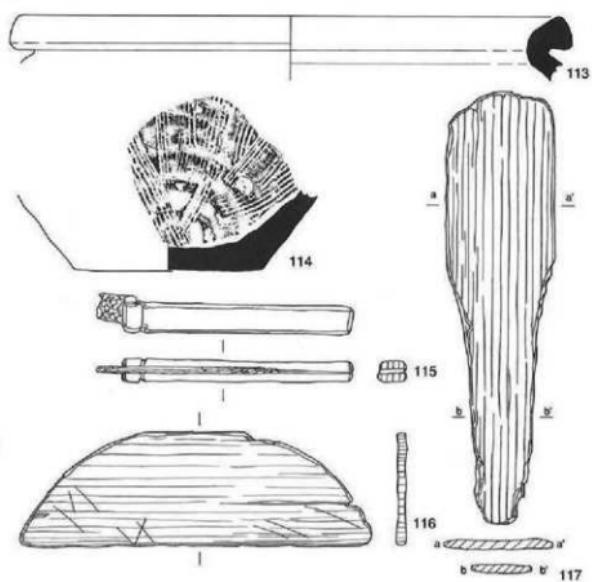
SE66



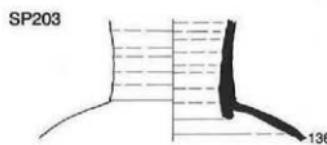
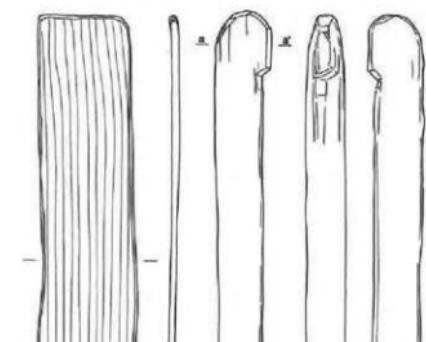
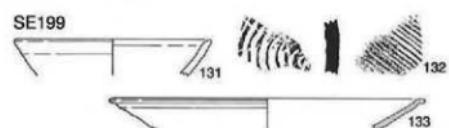
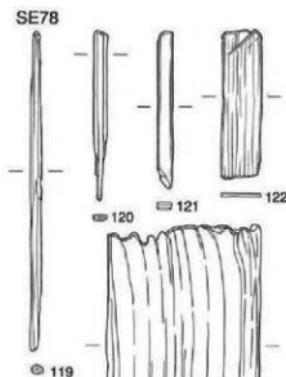
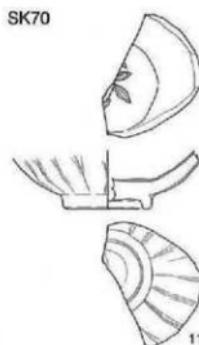
SK66



SE67

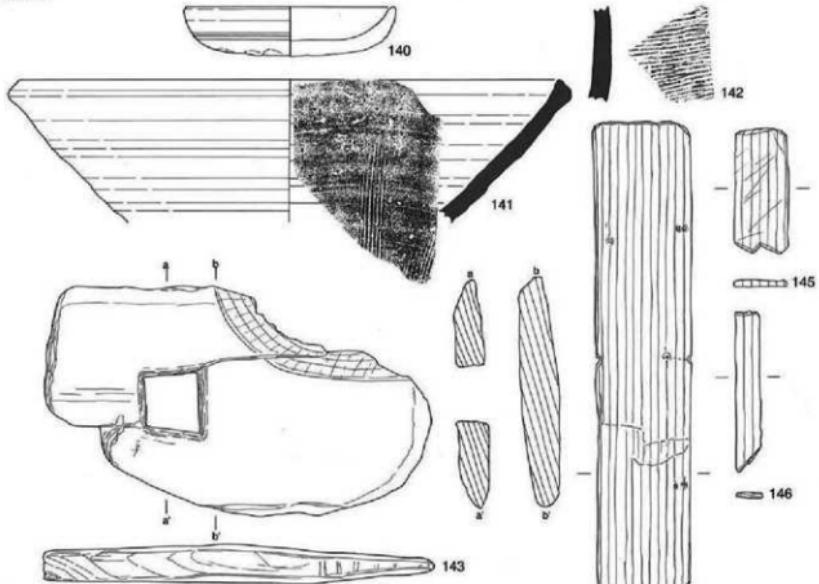


0 5 10mm

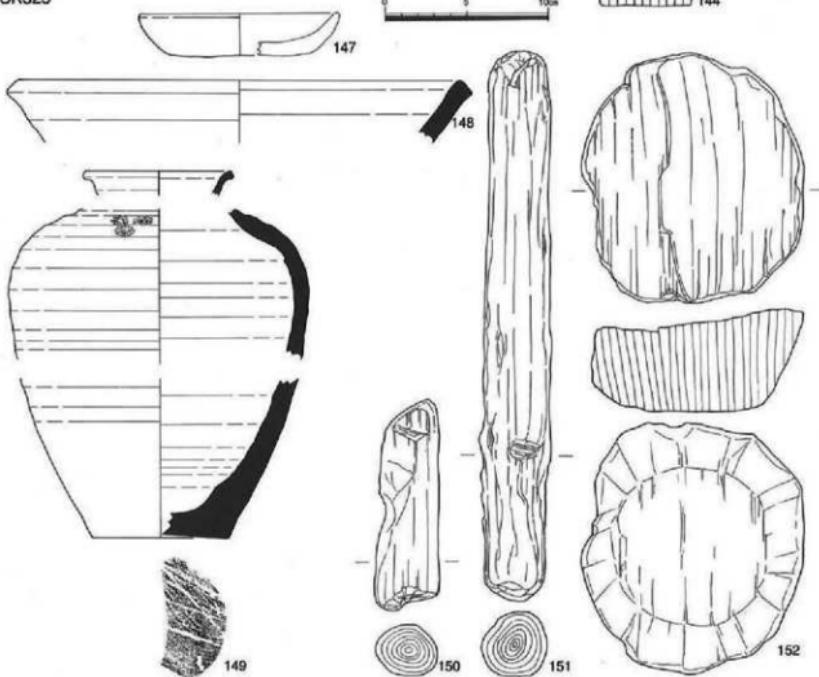


0 5 10cm

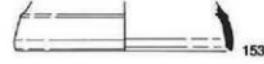
SK255



SK325



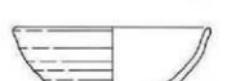
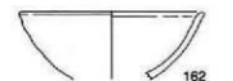
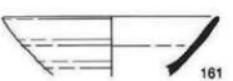
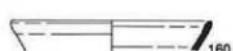
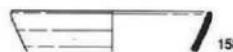
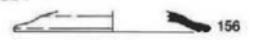
SK470



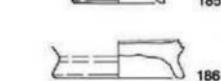
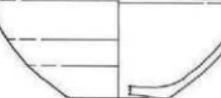
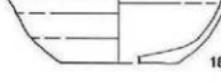
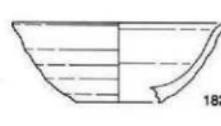
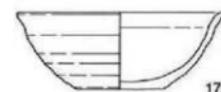
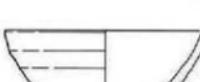
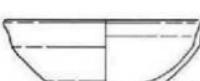
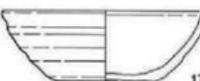
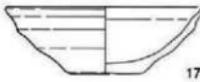
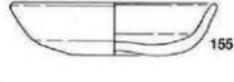
SK498



SK504

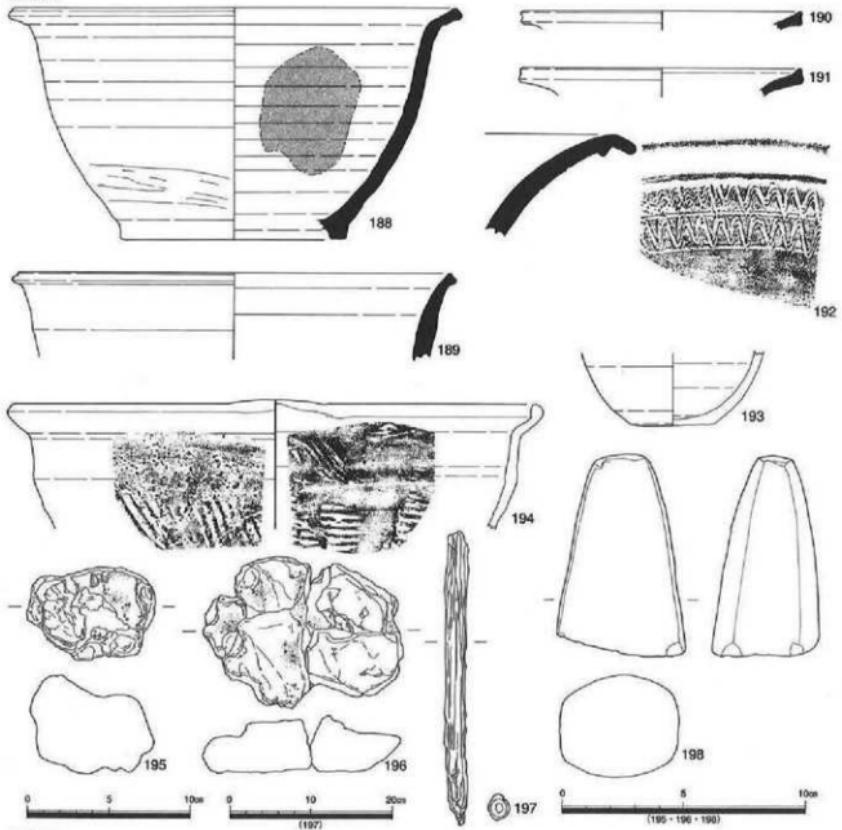


SK498

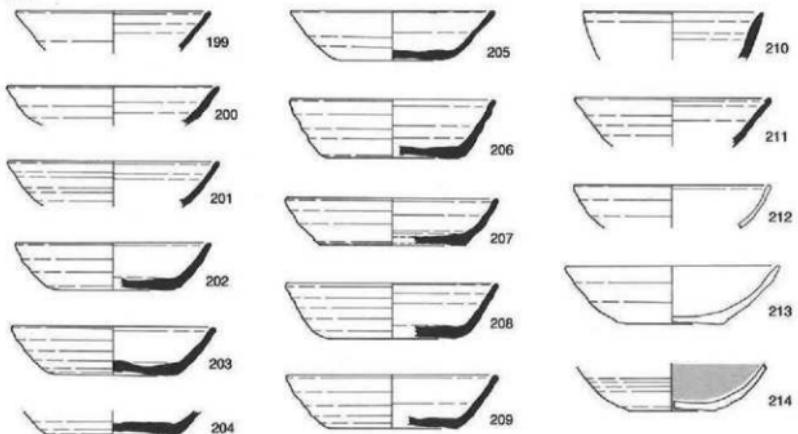


0 5 10m

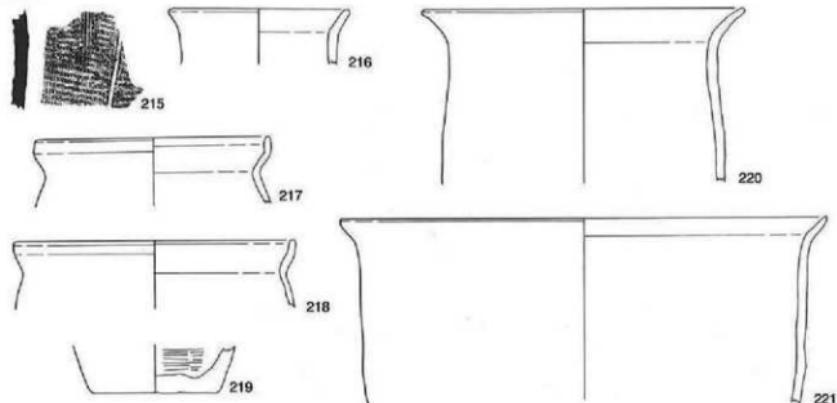
SK504



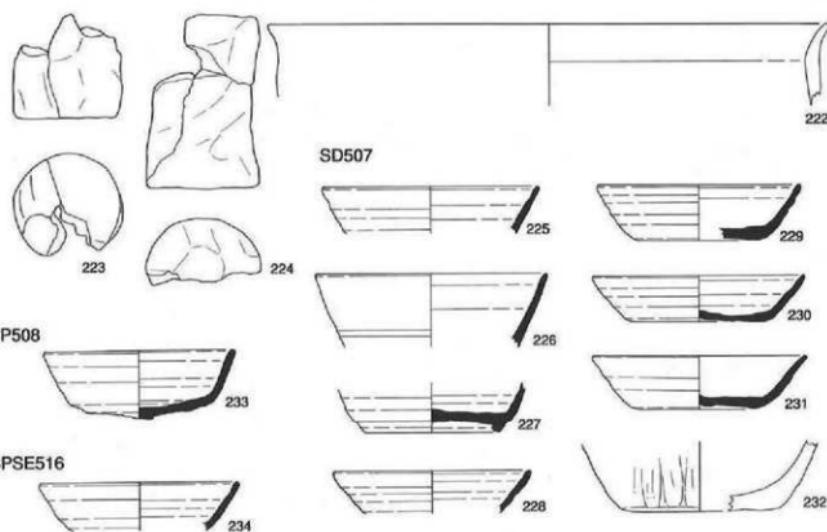
SK505



SK505



SD507



SP508



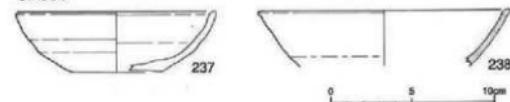
SPSE516



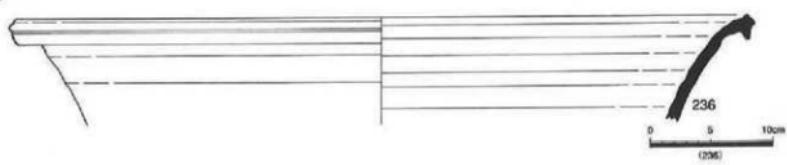
SP519

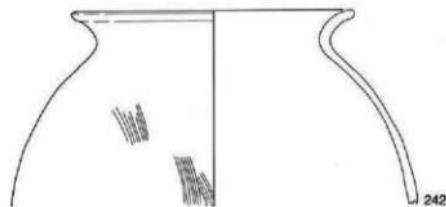
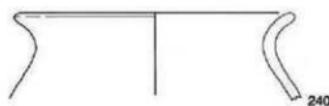
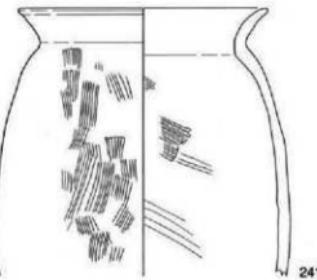
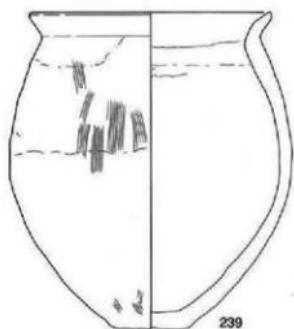


SK539

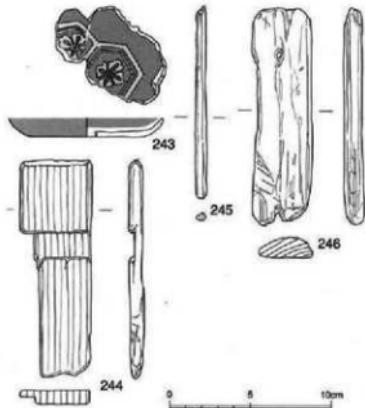


SK524

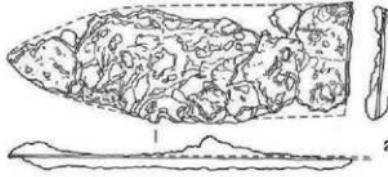
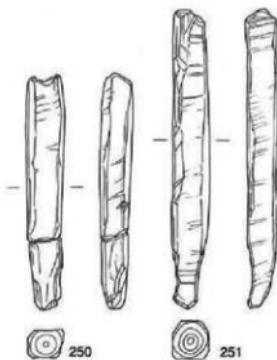


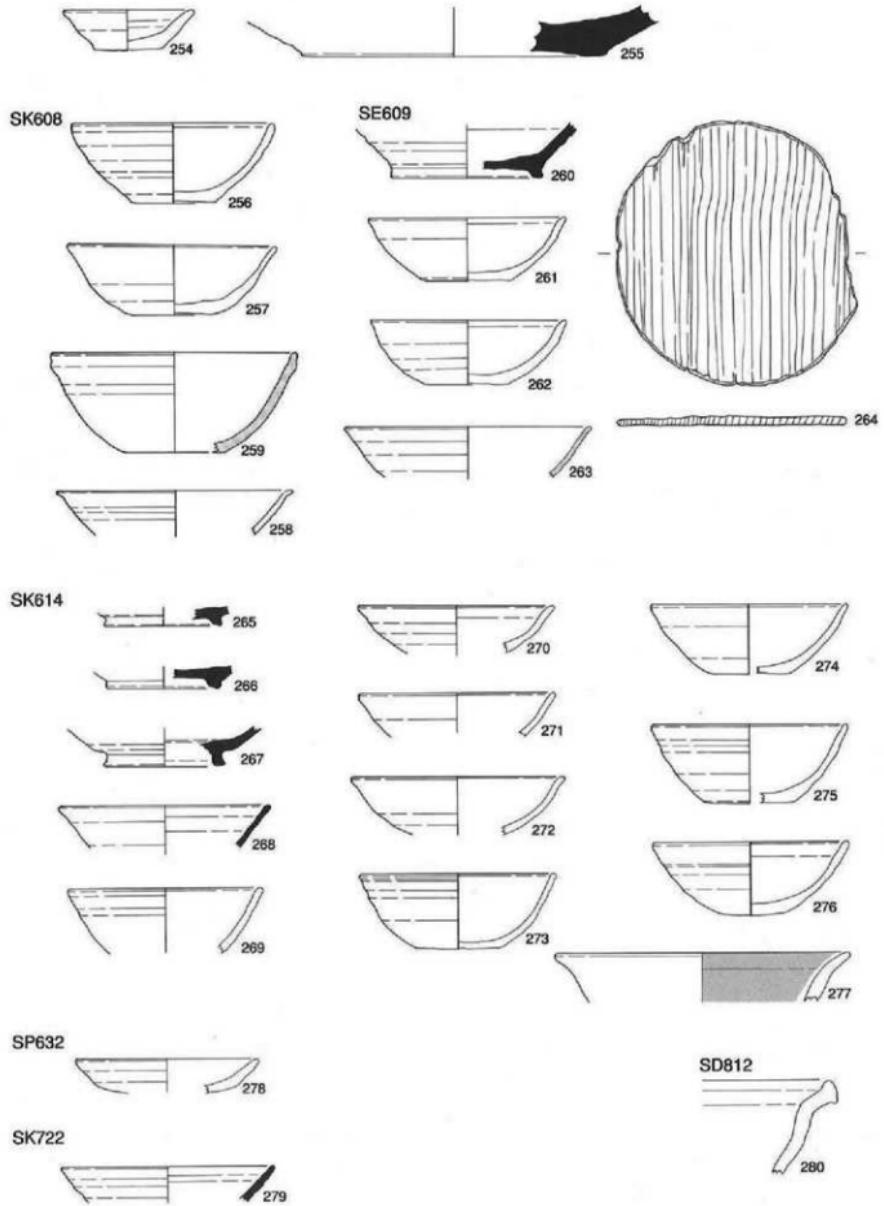


SE604



SE605





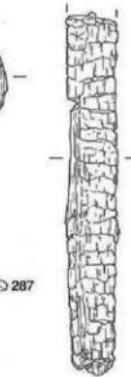
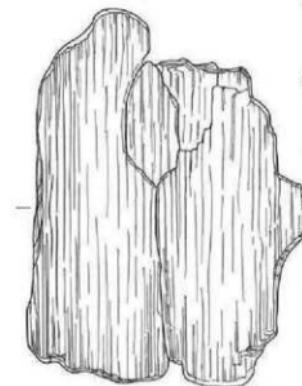
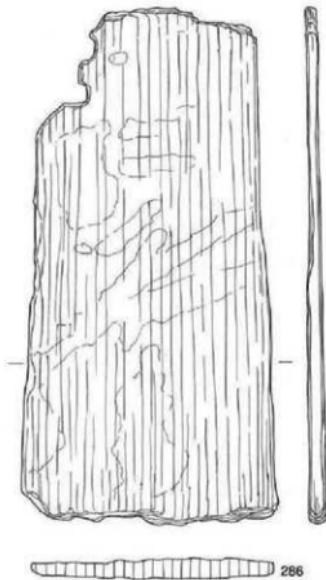
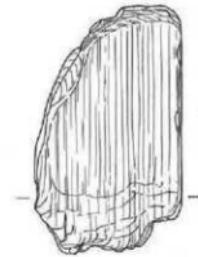
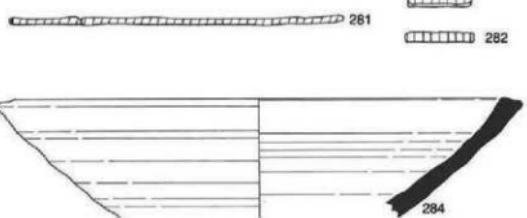
SE875



SK896



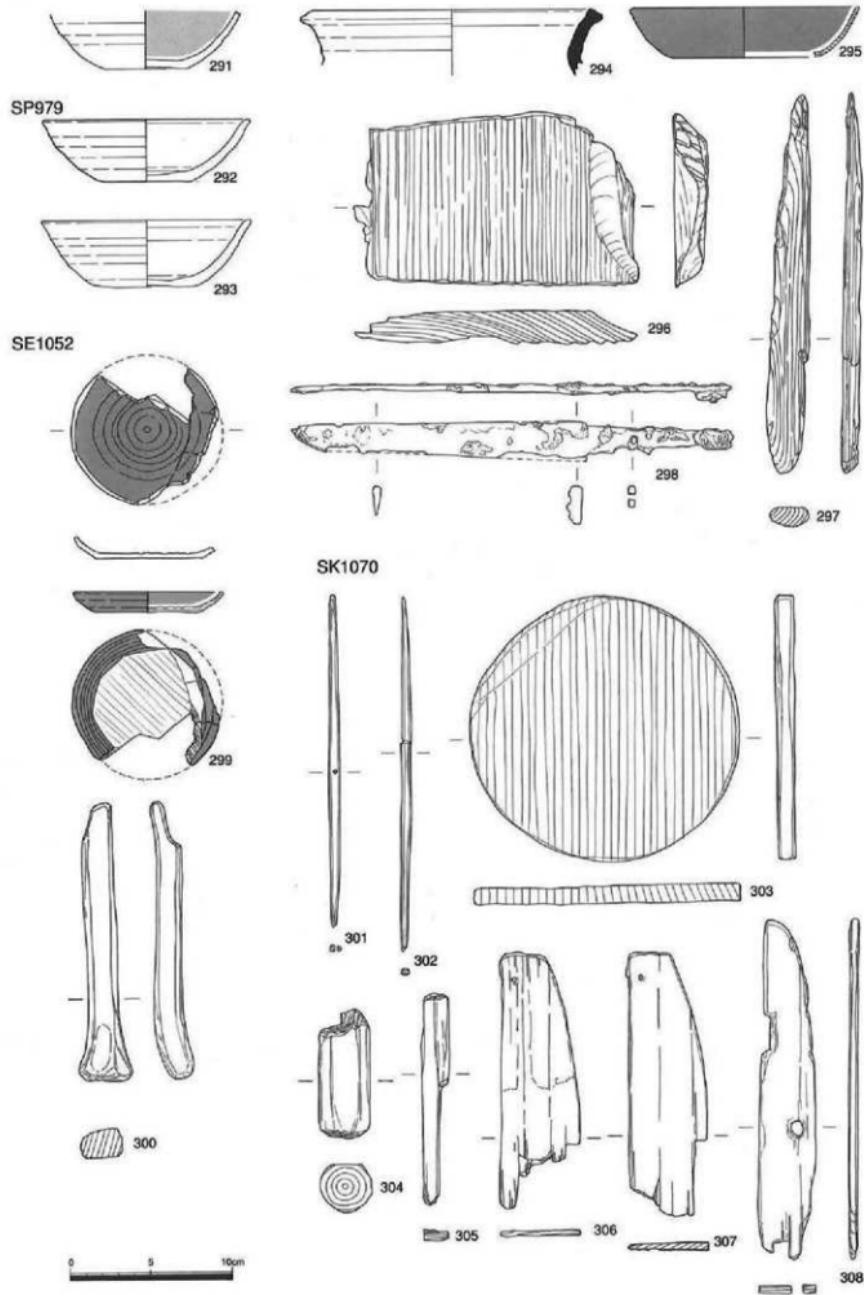
SK896

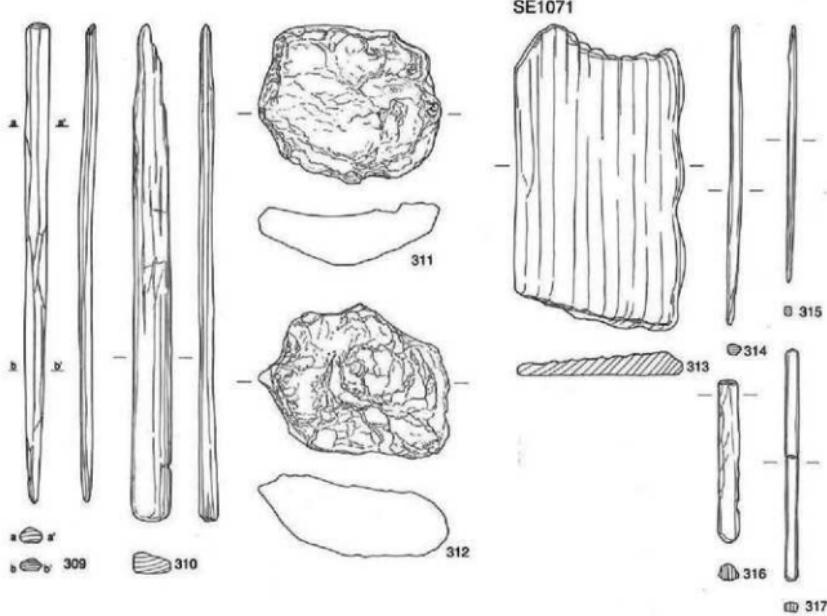


0 5 10cm

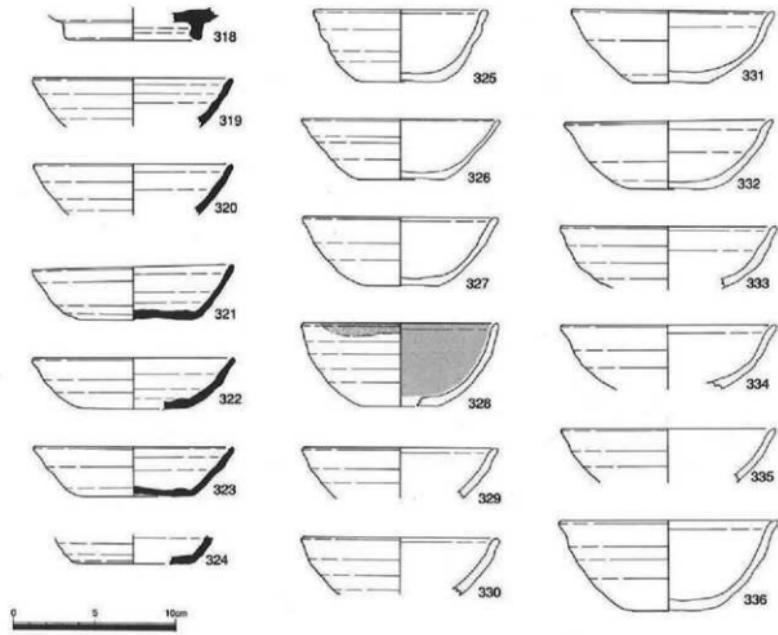


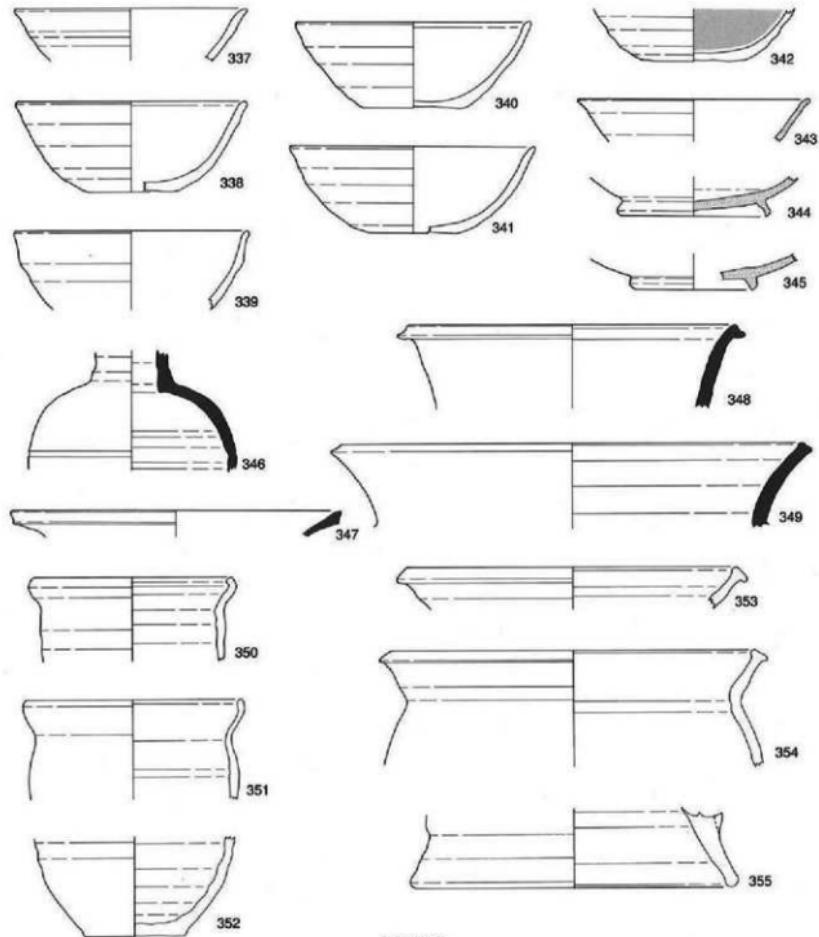
SP966・SP979・SE1028・SE1052・SK1070
SP966 SE1028



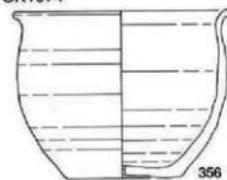


SI1073



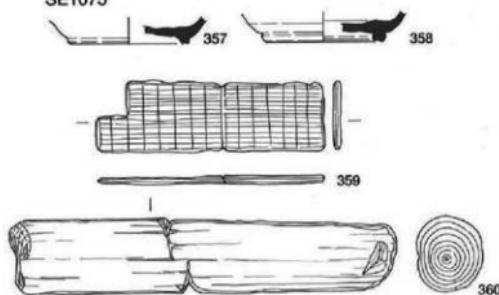


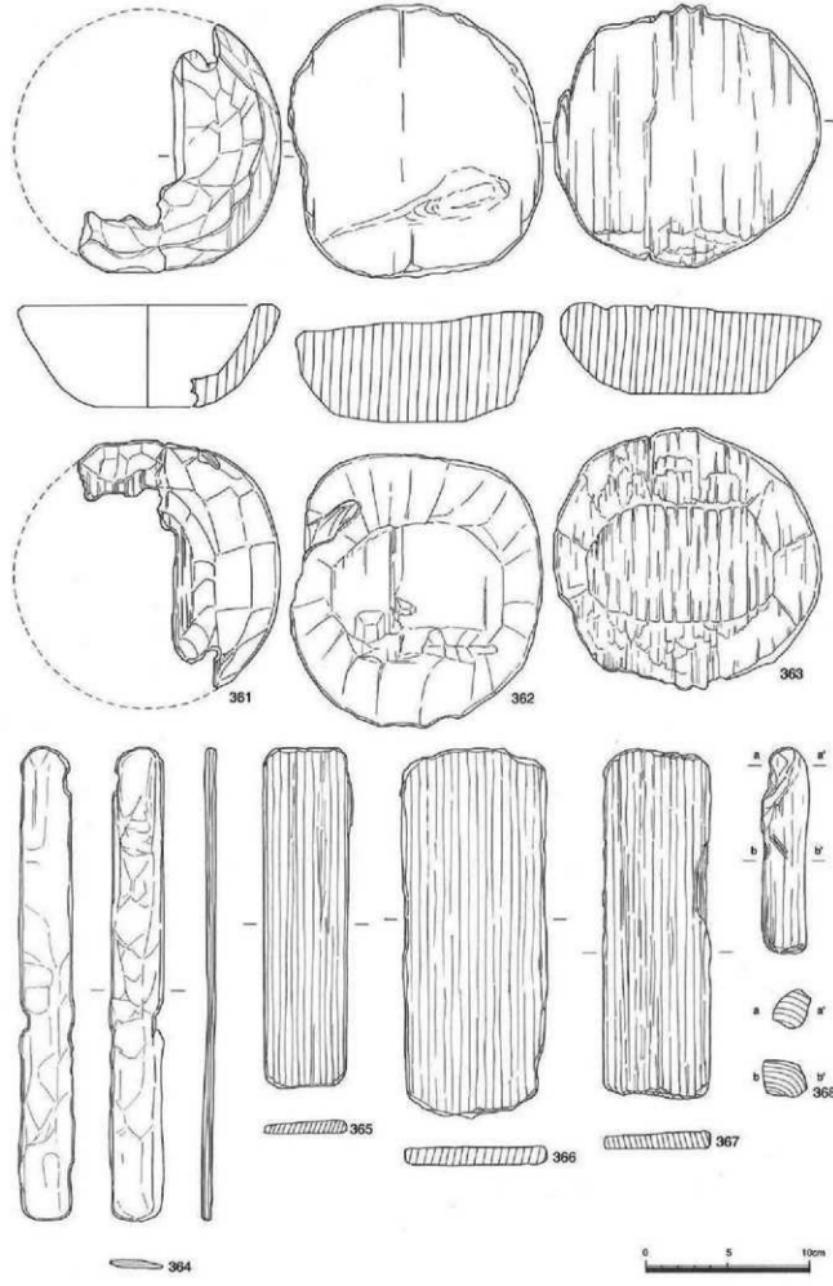
SK1074



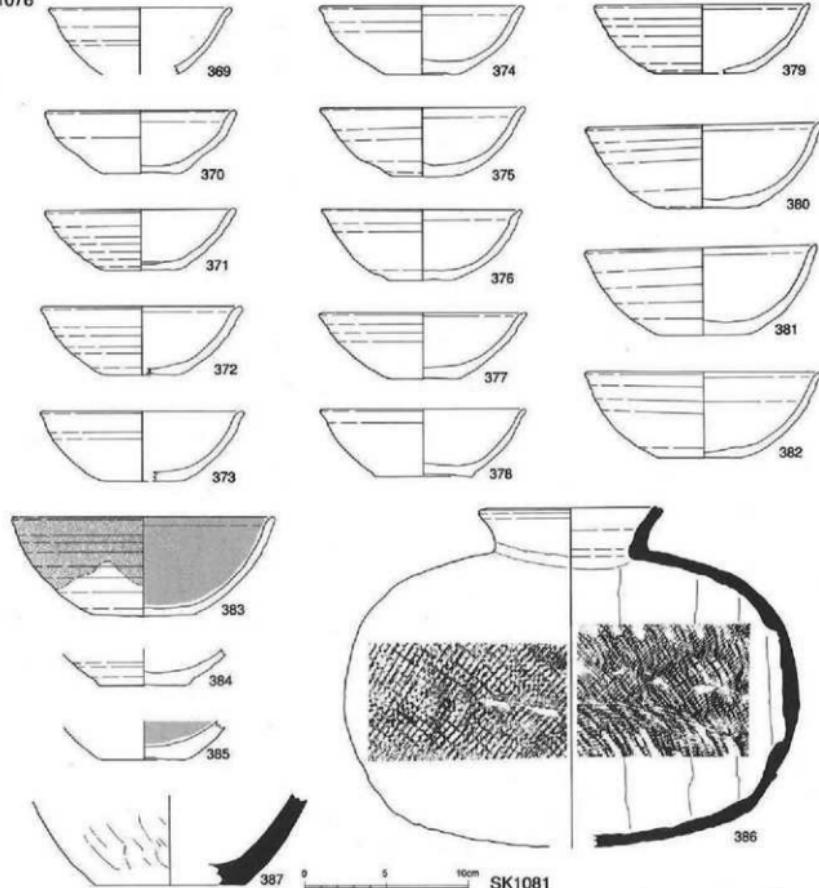
0 5 10cm

SE1075

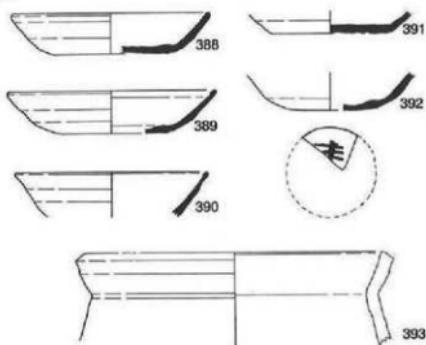




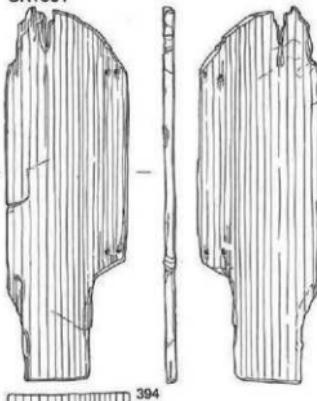
SE1076

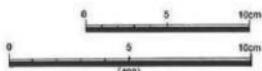
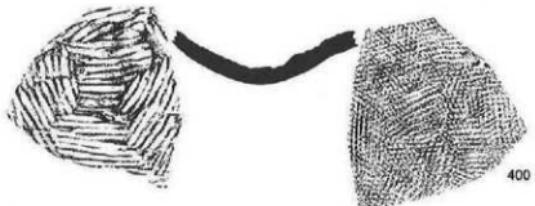
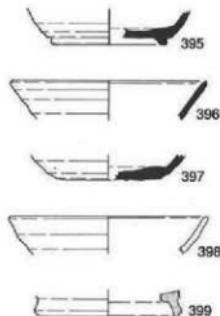


SE1077

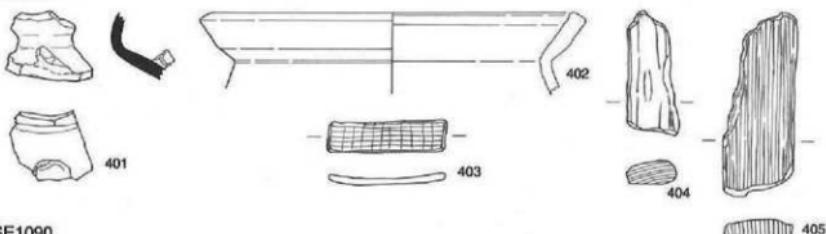


SK1081

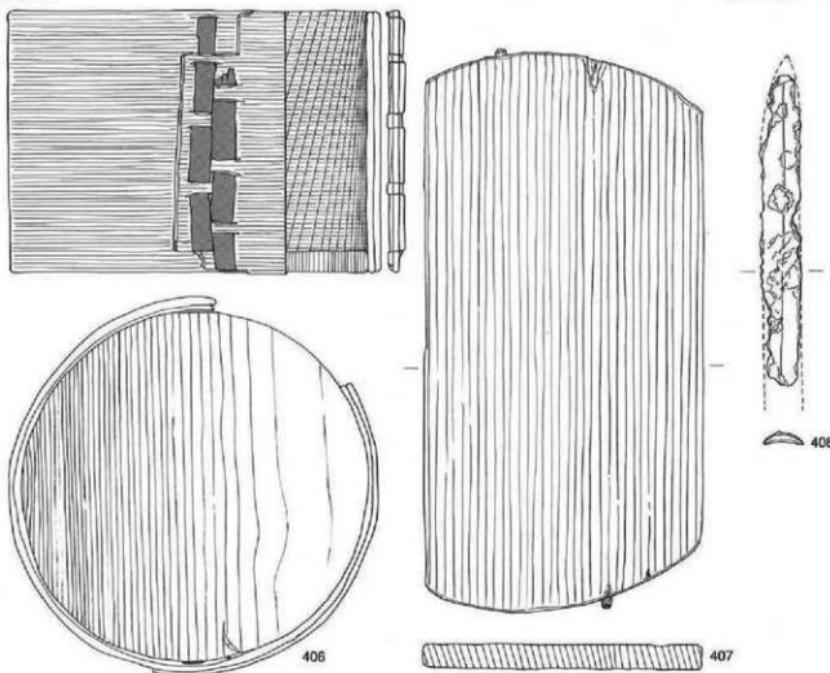




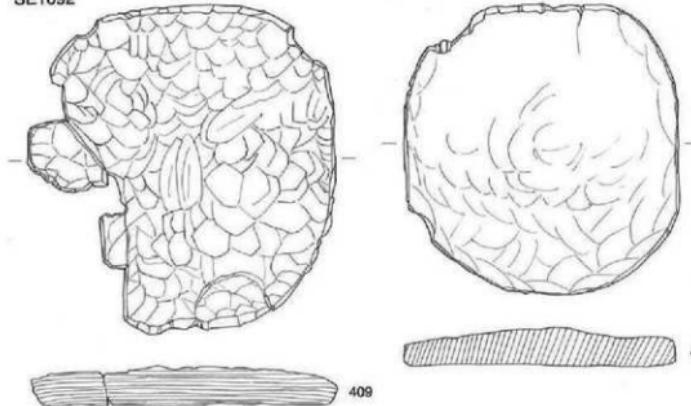
SE1089



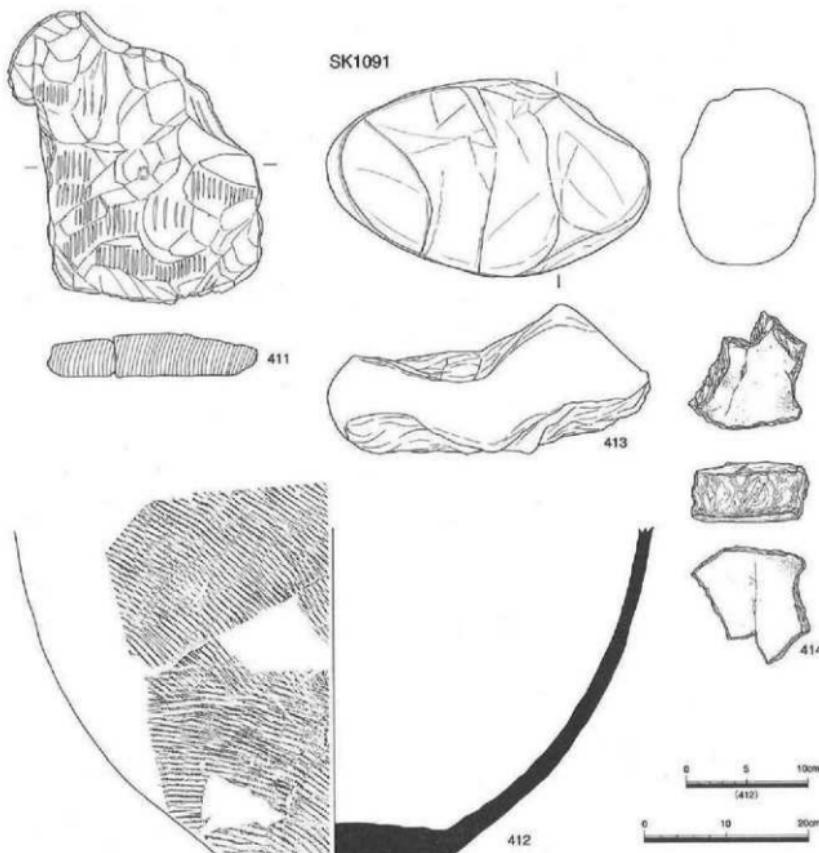
SE1090



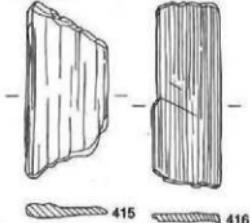
SE1092



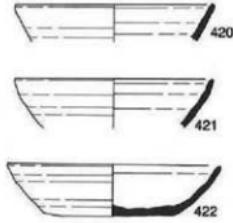
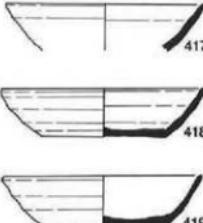
SK1091



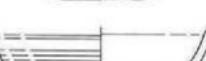
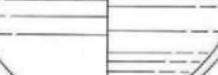
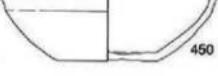
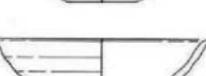
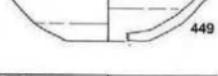
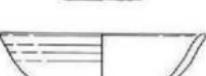
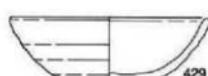
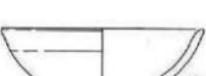
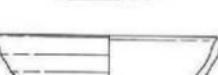
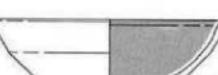
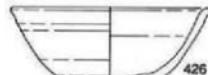
SK1096



SE1097A

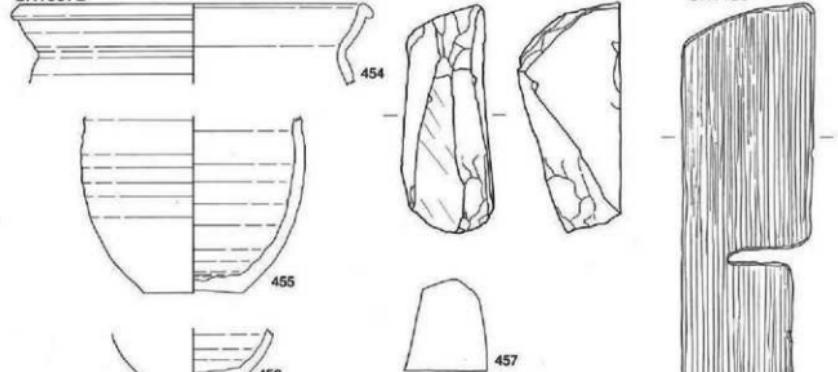


SK1097B

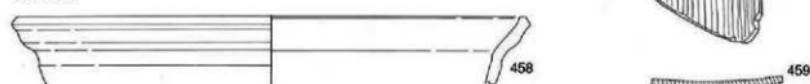


0 5 10cm

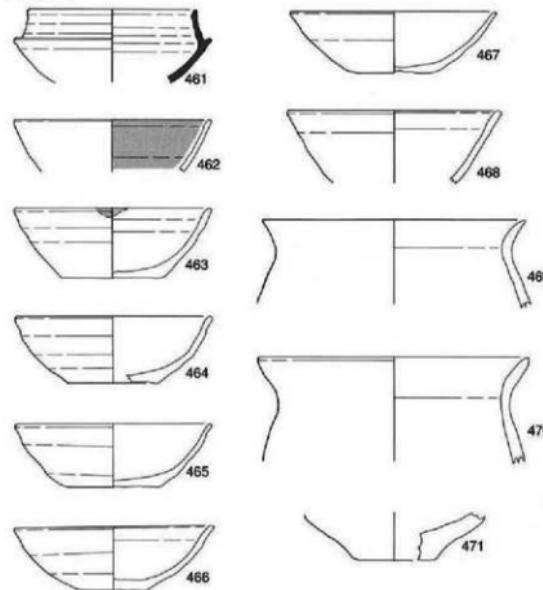
SK1097B



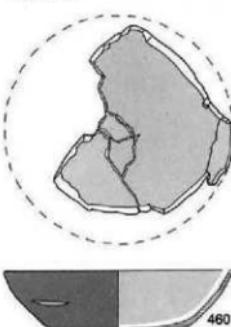
SK1120



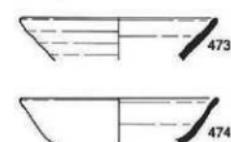
SD1321



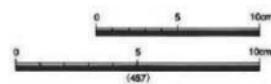
SE1149

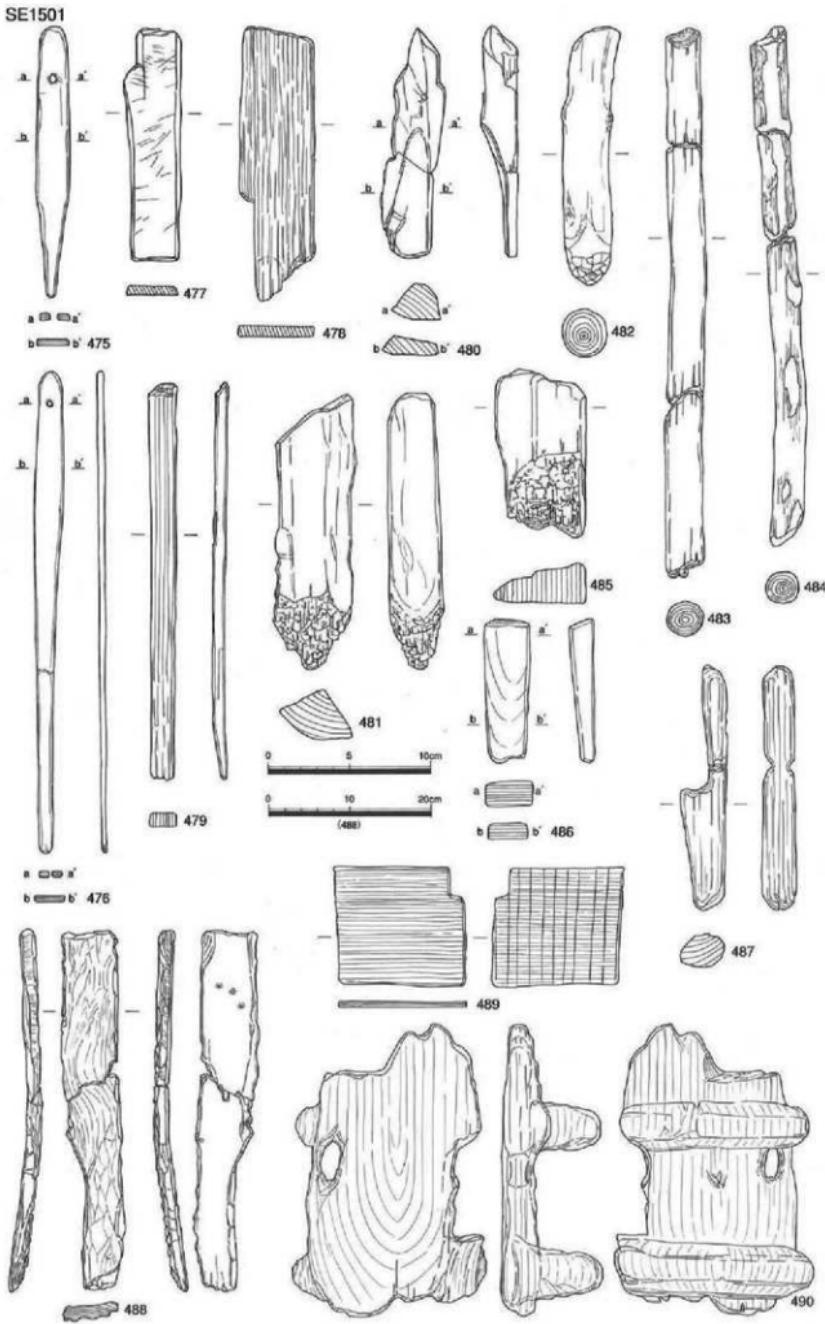


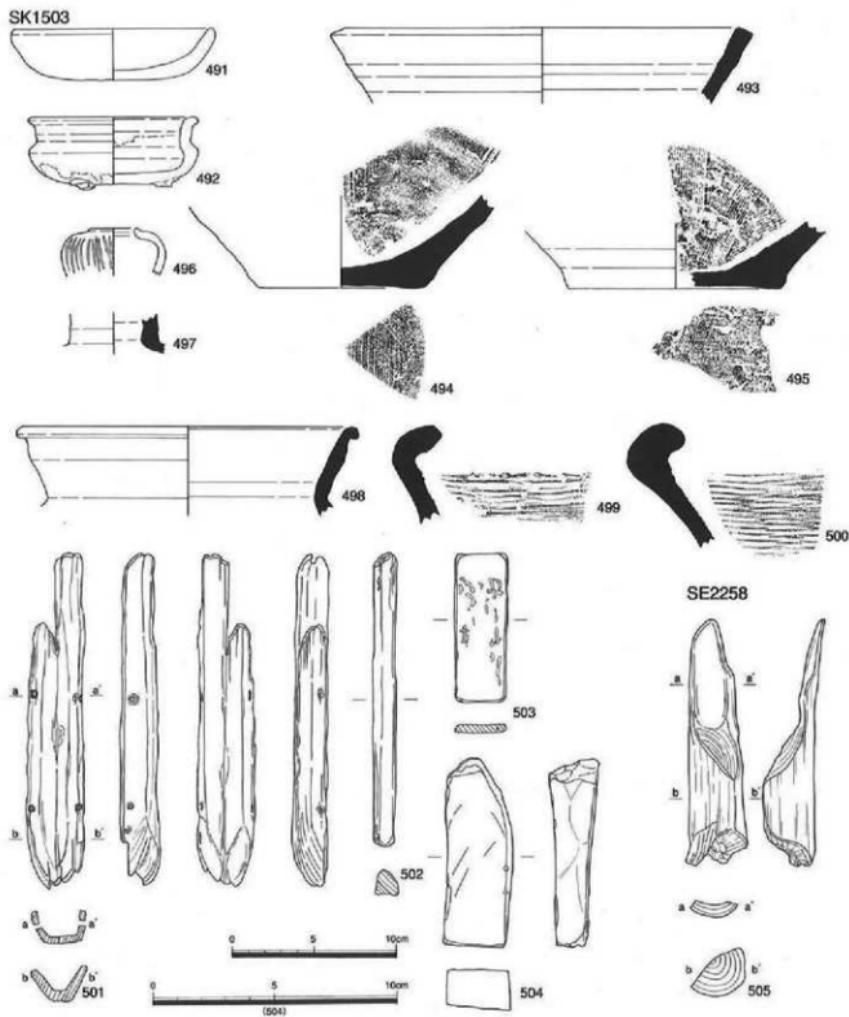
SK1322



SK1324





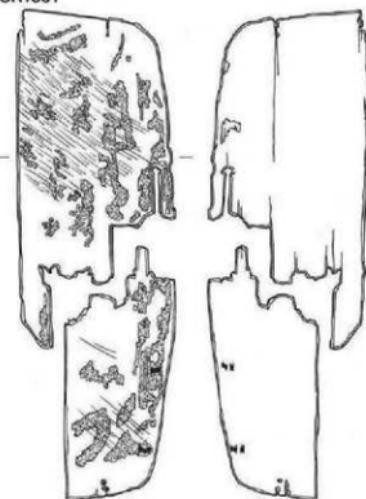


SK1557

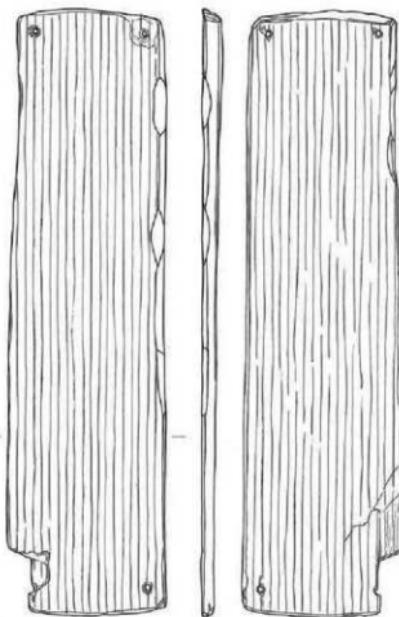


511

SK1561



512



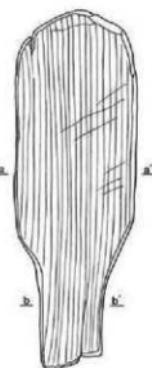
513



-

a ————— b' 515

— 514

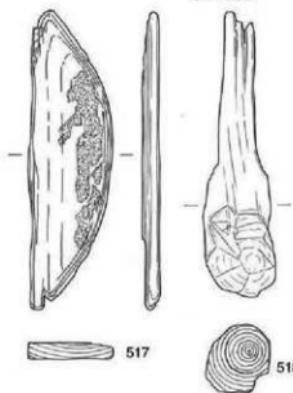


SE1564



516

SE1569



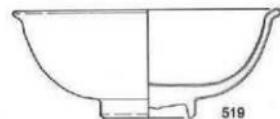
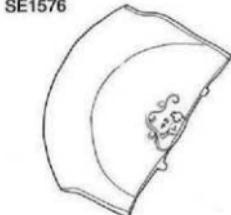
— 517



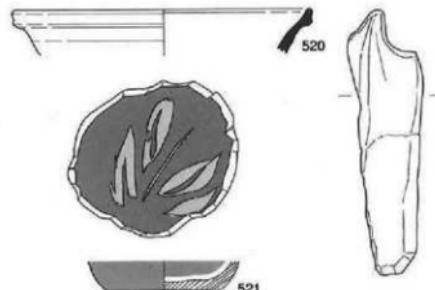
518

0 5 10cm 0 10 20cm
(518)

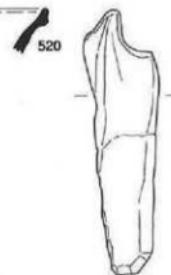
SE1576



519



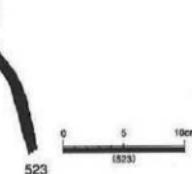
521



522

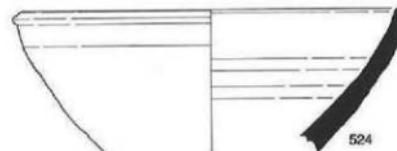
0 5 100cm
(528 - 529 - 530 - 531)

SK1595



523

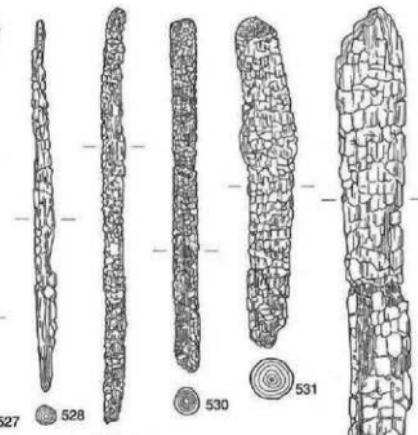
SE1603



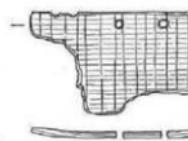
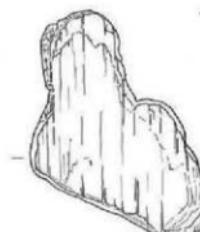
524



525



530



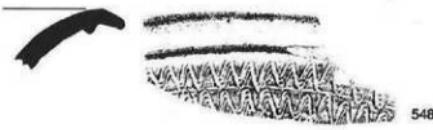
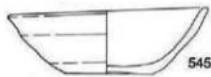
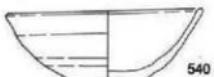
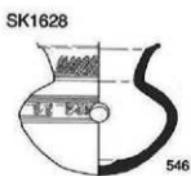
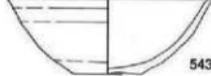
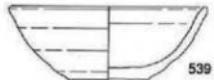
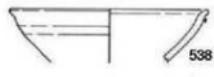
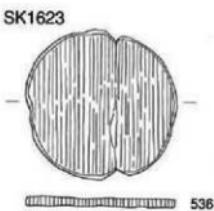
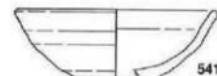
527

528

529



534

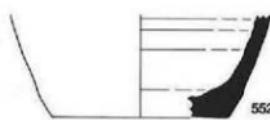
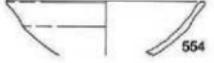
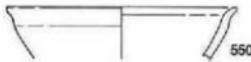


0 5 10cm

SK1638



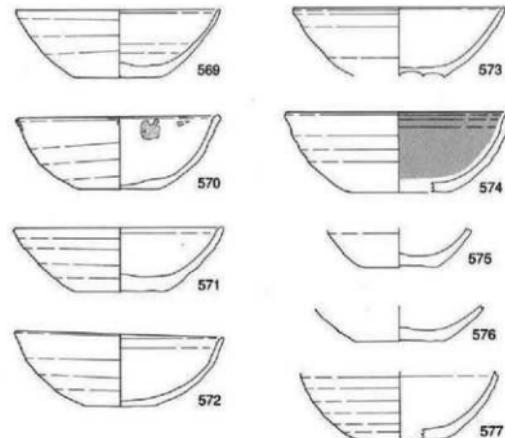
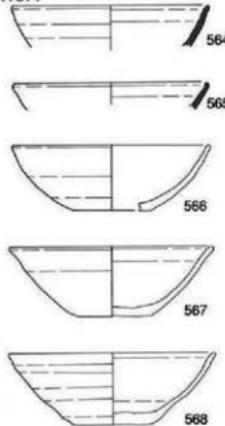
SE1639



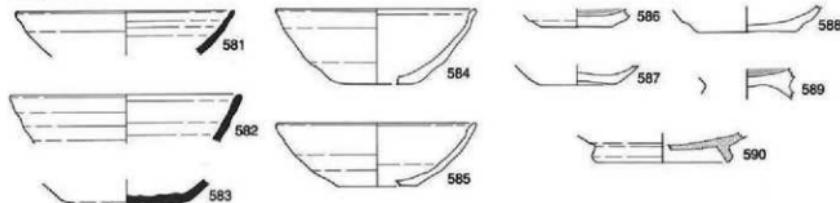
SK1647



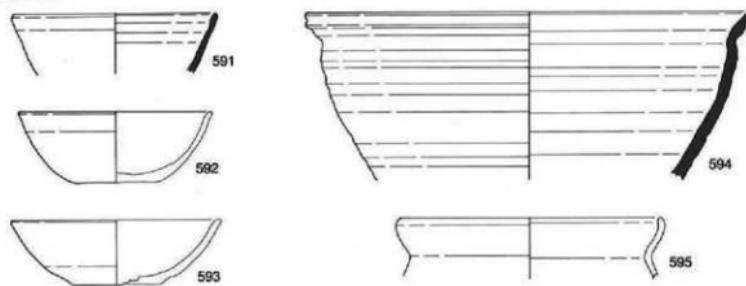
SK1677



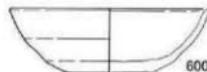
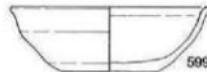
SK1678



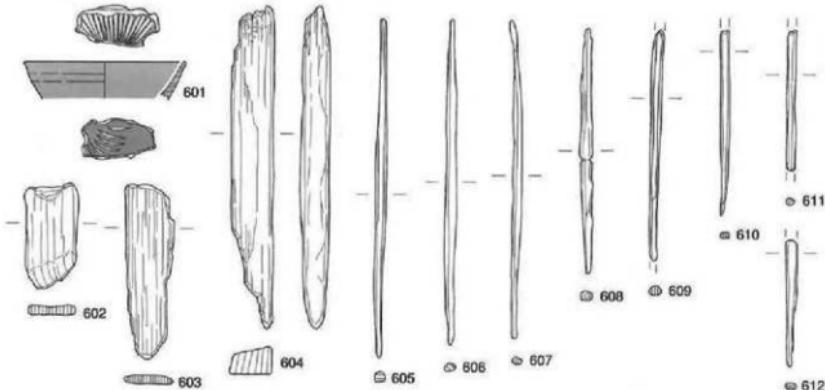
SK1679



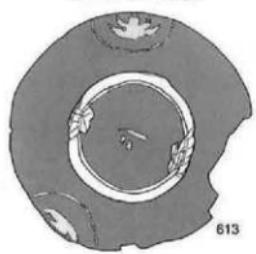
SK2255



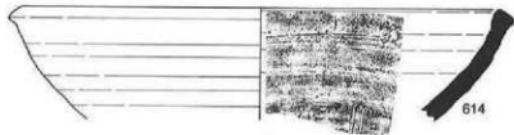
SK1709



SE1711



SK1729



SK1772

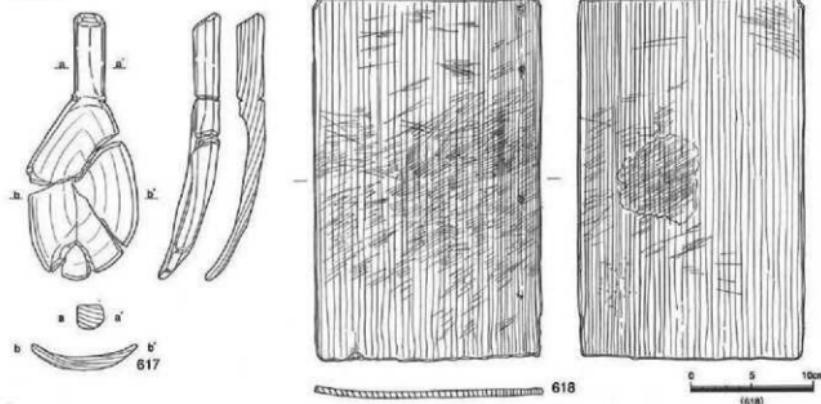


0 5 10cm
0 10 20cm
(615)

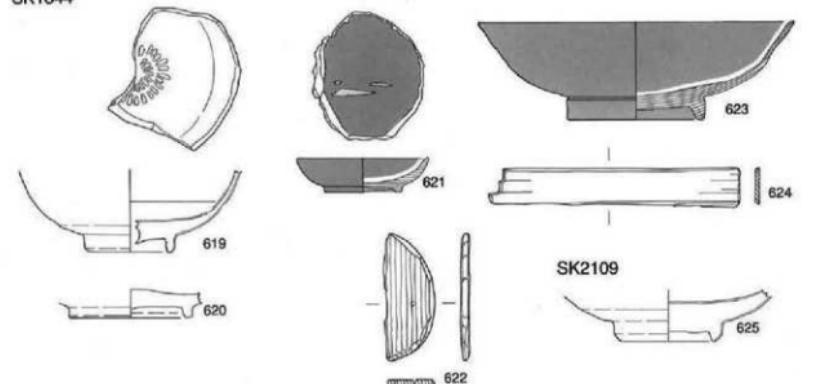
615

616

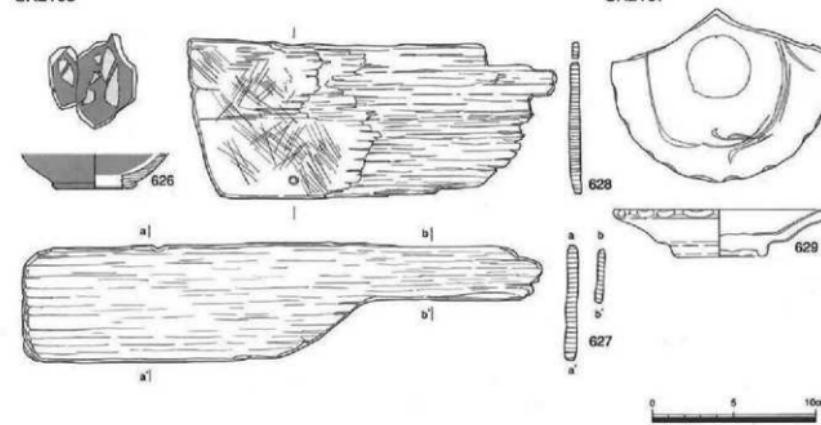
SE1801



SK1844



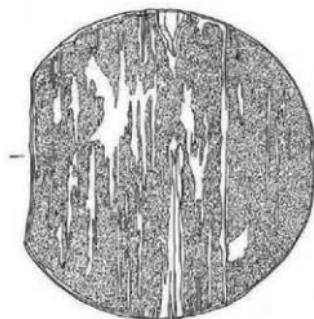
SK2163



SK2172



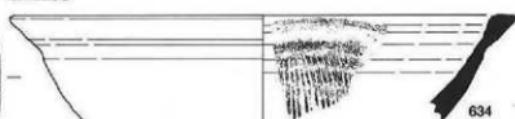
SK2237



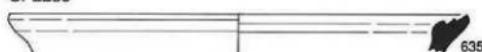
SK2222



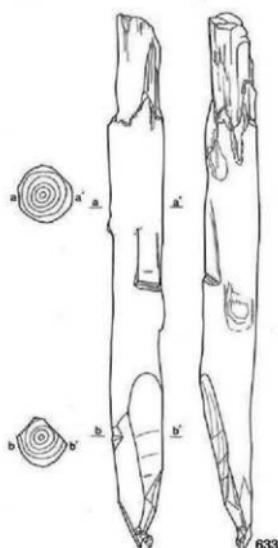
SK2238



SP2239



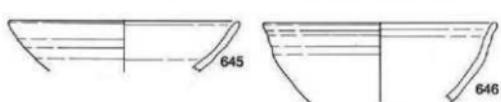
632



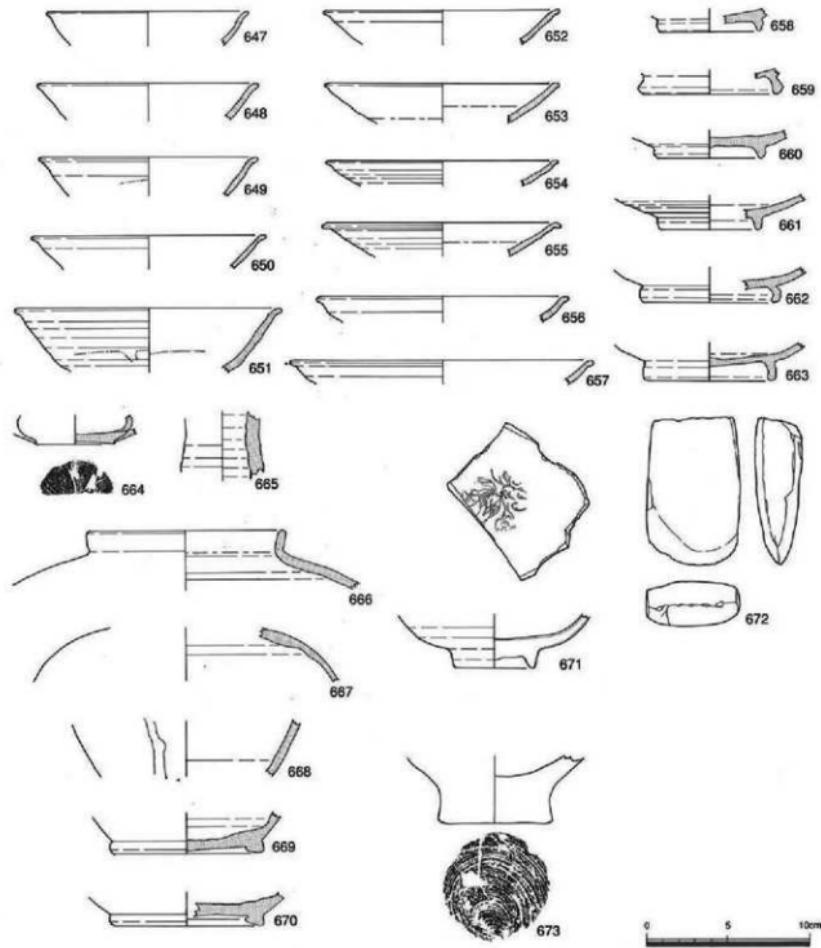
試掘10T



包含層



0 5 10cm





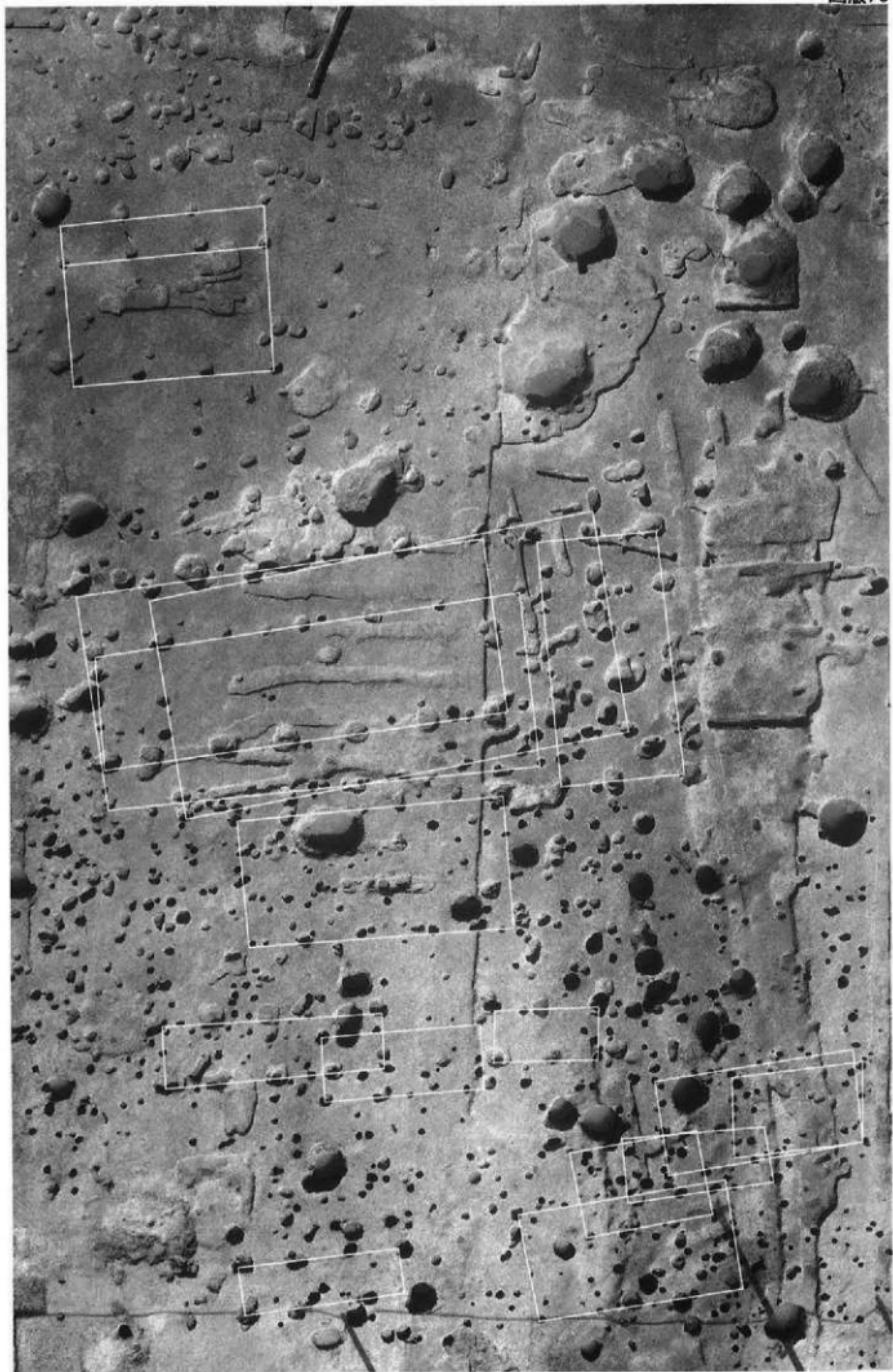
調査区全景



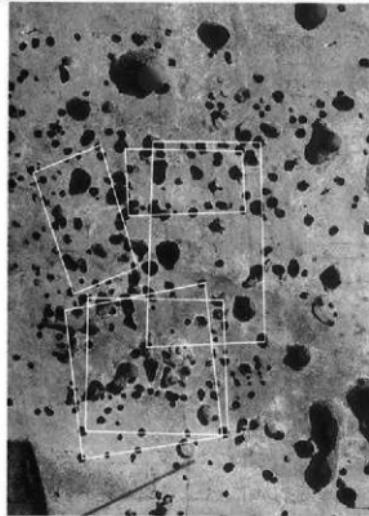
遺跡遠景1(北から)



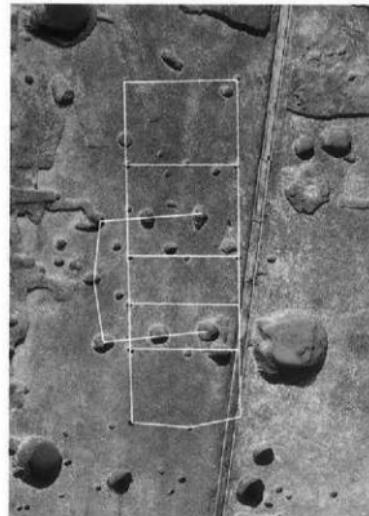
遺跡遠景2(東から)



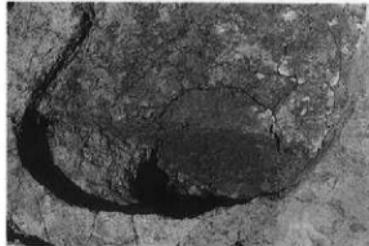
烟立柱建物群SB1~14・23



SB15・16・17・18・19



SB21・22



SB1 P2



SB1 P3



SB1 P3



SB1 P4検出



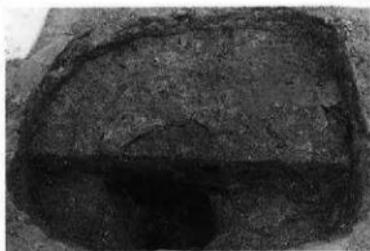
SB1 P6



SB1 周辺層位



SB5 P10



SB7 P7



SB6 P1



SE33 半截



SK51 半截



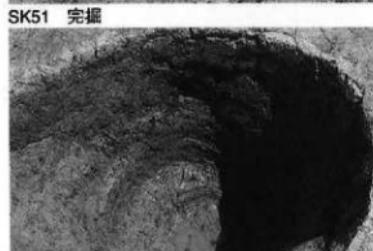
SK51 矢板出土狀況



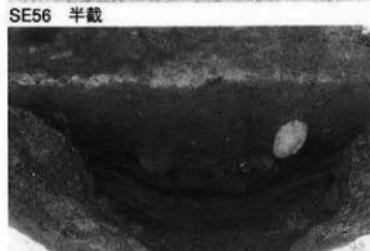
SK51 完掘



SE56 半截



SE56 完掘



SE67 半截



SK70 半截



SE78 半截



SK178 出土状況



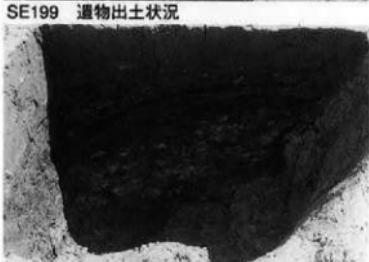
SE199 半截



SE199 遺物出土状況



SE199 完掘



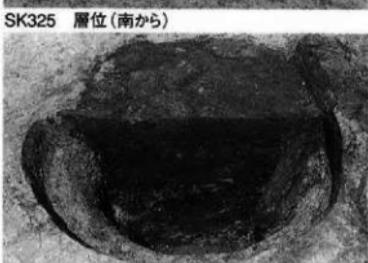
SK255 層位 (南から)



SK325 層位 (南から)



SK325 層位 (西から)



SK470 層位



SK504 検出 (南から)



SK504 上層遺物出土状況 (北から)



SK504 中層遺物出土状況 (北から)



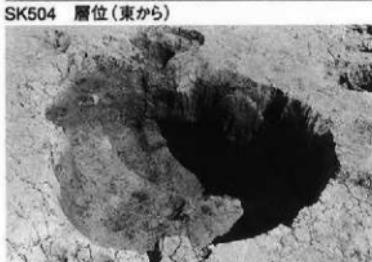
SK504 層位 (南から)



SK504 層位 (東から)



SK505 土層



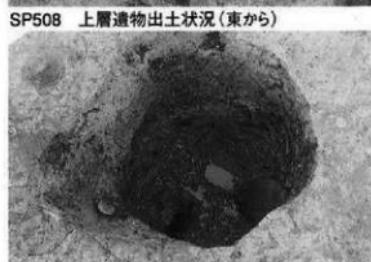
SK505 完掘 (西から)



SP508 上層遺物出土状況 (東から)



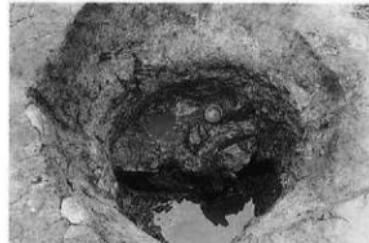
SE605 層位 (南から)



SE605 遺物出土状況 (南から)



SE606 層位(南から)



SE606 遺物出土状況(南から)



SK608 遺物出土状況(南から)



SK614 遺物出土状況(南から)



SK614 土層(南から)



SE1092 層位(南から)



SE1092 遺物出土状況(北から)



SE873・875 層位(西から)



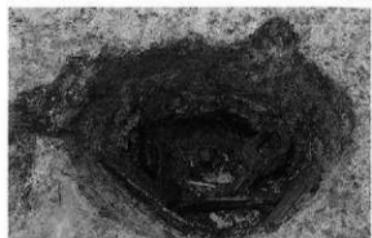
SE873 遺物出土状況(西から)



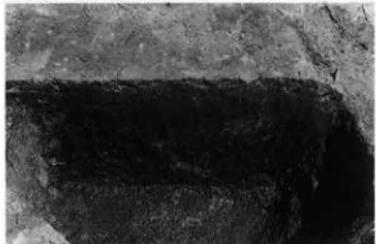
SE873 遺物出土状況(東から)



SK896 層位(東から)



SK896 遺物出土状況(東から)



SE1028 層位(西から)



SK1070 遺物出土状況(南から)



SK1070 曲物出土状況(南から)



SE1071 層位(南から)



SI1073 層位(南から)



SI1073 西から



SK1074 遺物出土状況(南から)



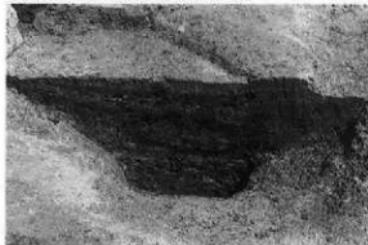
SE1075 層位(南から)



SE1075 遺物出土状況(南から)



SE1075 完掘(北から)



SE1076 層位(南から)



SE1076 上層遺物出土状況(南から)



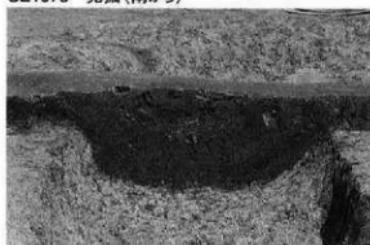
SE1076 横瓶出土状況(西から)



SE1076 完掘(南から)



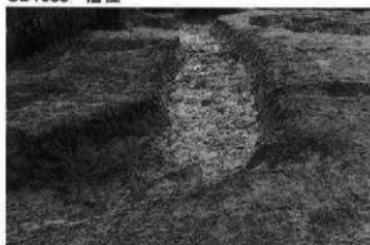
SE1077 完掘



SD1083 層位



SD1083 完掘(東から)



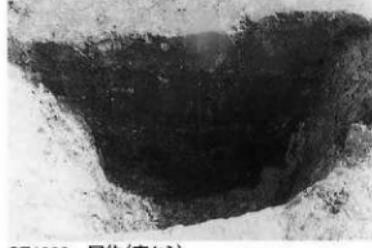
SD1083 完掘(西から)



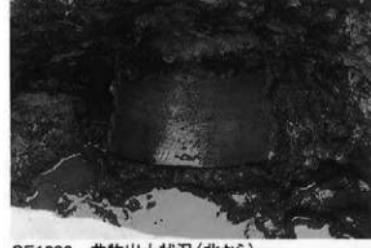
SE1089 層位(南から)



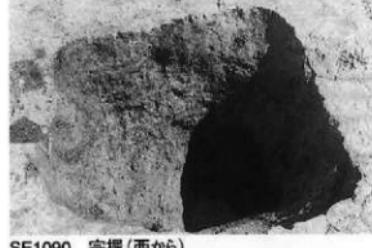
SE1089 完掘(西から)



SE1090 層位(南から)



SE1090 曲物出土状況(北から)



SE1090 完掘(西から)



SK1091 層位(南から)



SK1091 遺物出土状況(南から)



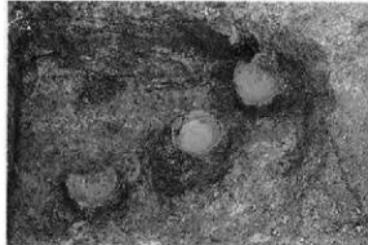
SK1091 遺物出土状況(南から)



SE1096 層位(南から)



SE1097A 層位(南から)



SE1097A 底部遺物出土状況（南から）



SK1097B 層位（南から）



SK1097B 遺物出土状況（南から）



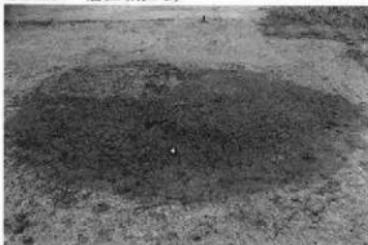
SD1321 層位（南から）



SE1501 層位（南から）



SE1501 下駄出土状況（南から）



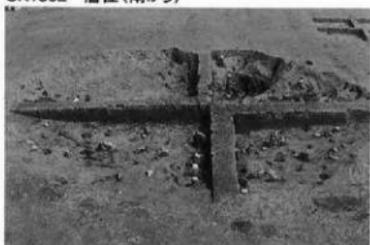
SK1502-1503 検出（南から）



SK1502 層位（南から）



SK1502 完掘



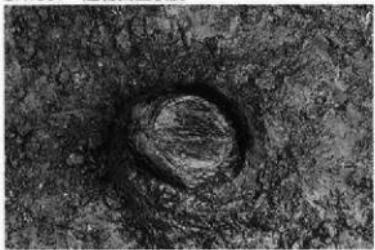
SK1503 南から



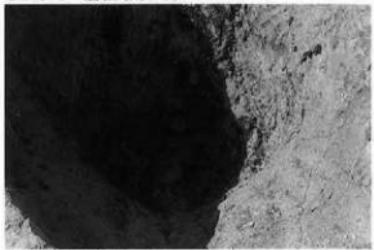
SK1561 遺物出土状況



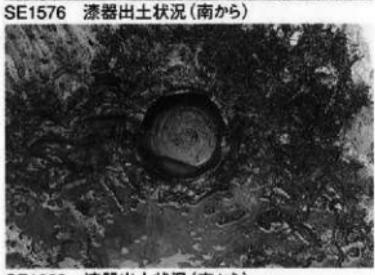
SE1576 層位(南から)



SE1576 漆器出土状況(南から)



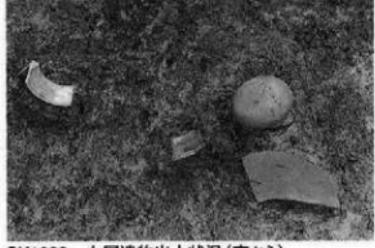
SE1603 東から



SE1603 漆器出土状況(東から)



SE1618 漆器出土状況(南から)



SK1628 上層遺物出土状況(南から)



SK1628 層位(南から)



SK1638 層位(南から)



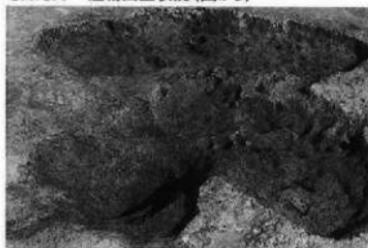
SK1647 完掘(南から)



SK1677 遺物出土状況(西から)



SK1678 層位(南から)



SK1678・1679・2255 完掘(南から)



SK1709 層位(南から)



SE1711 層位(南から)



SE1711 漆器出土状況(北から)



SK1729 層位(南から)



SK1772 層位(南から)



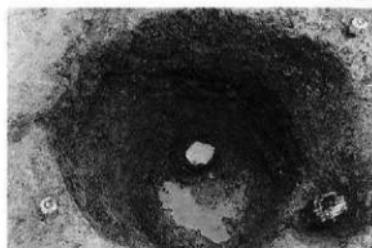
SK1844 層位(南から)



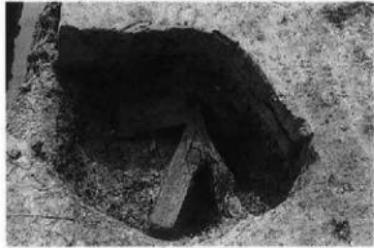
SK1844 漆器出土状況(北から)



SK1844 漆器出土状況（南西から）



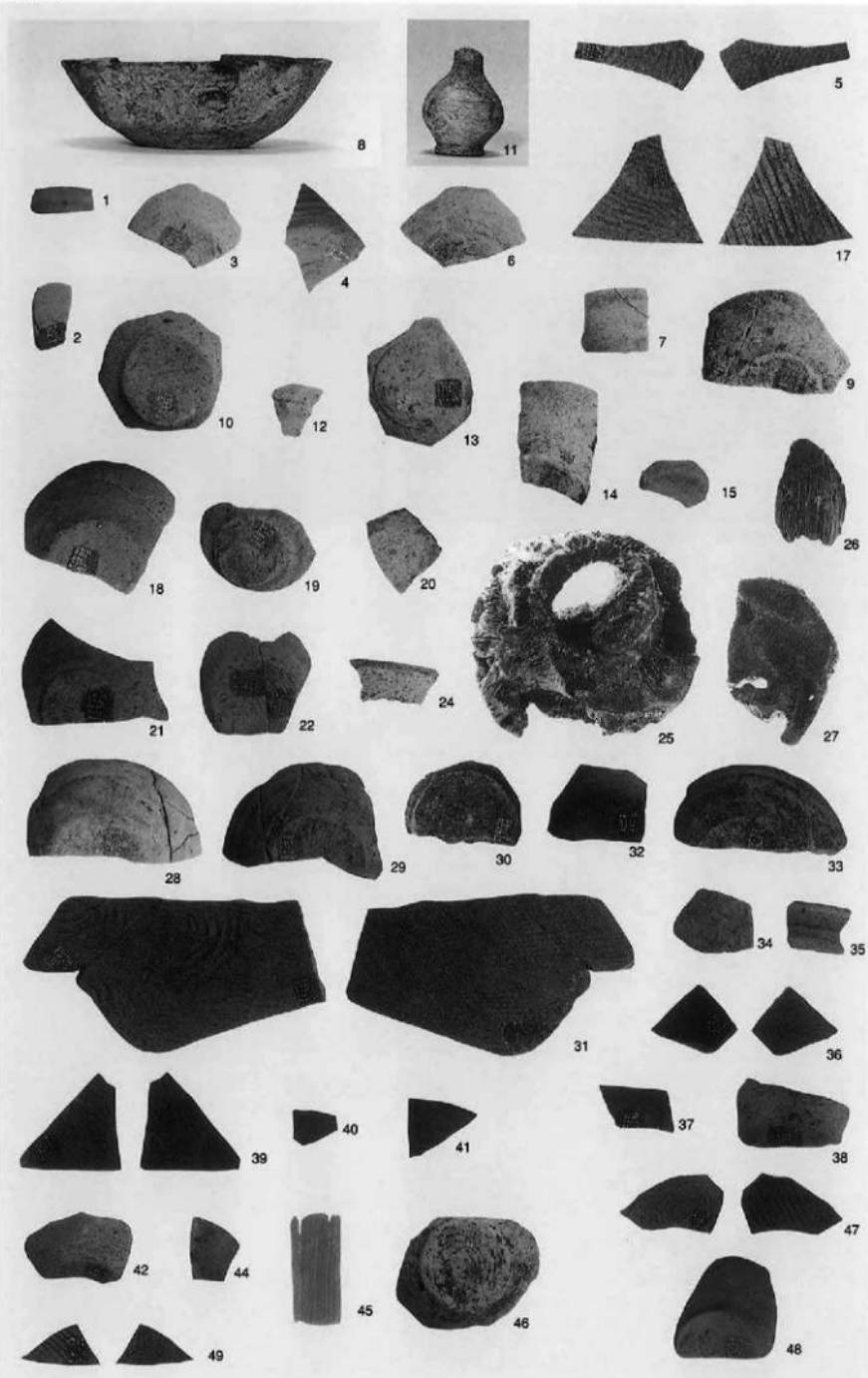
SK2109 完掘

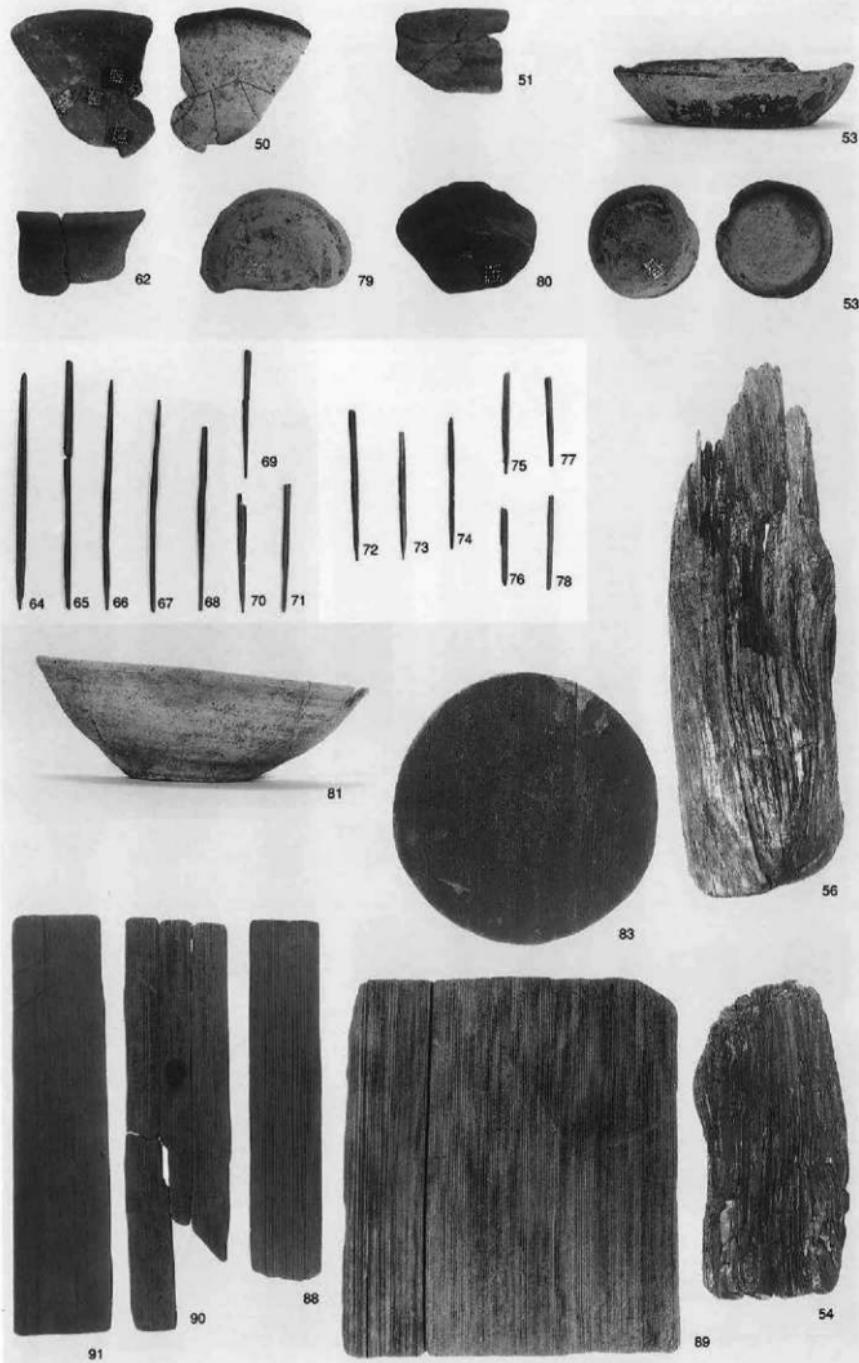


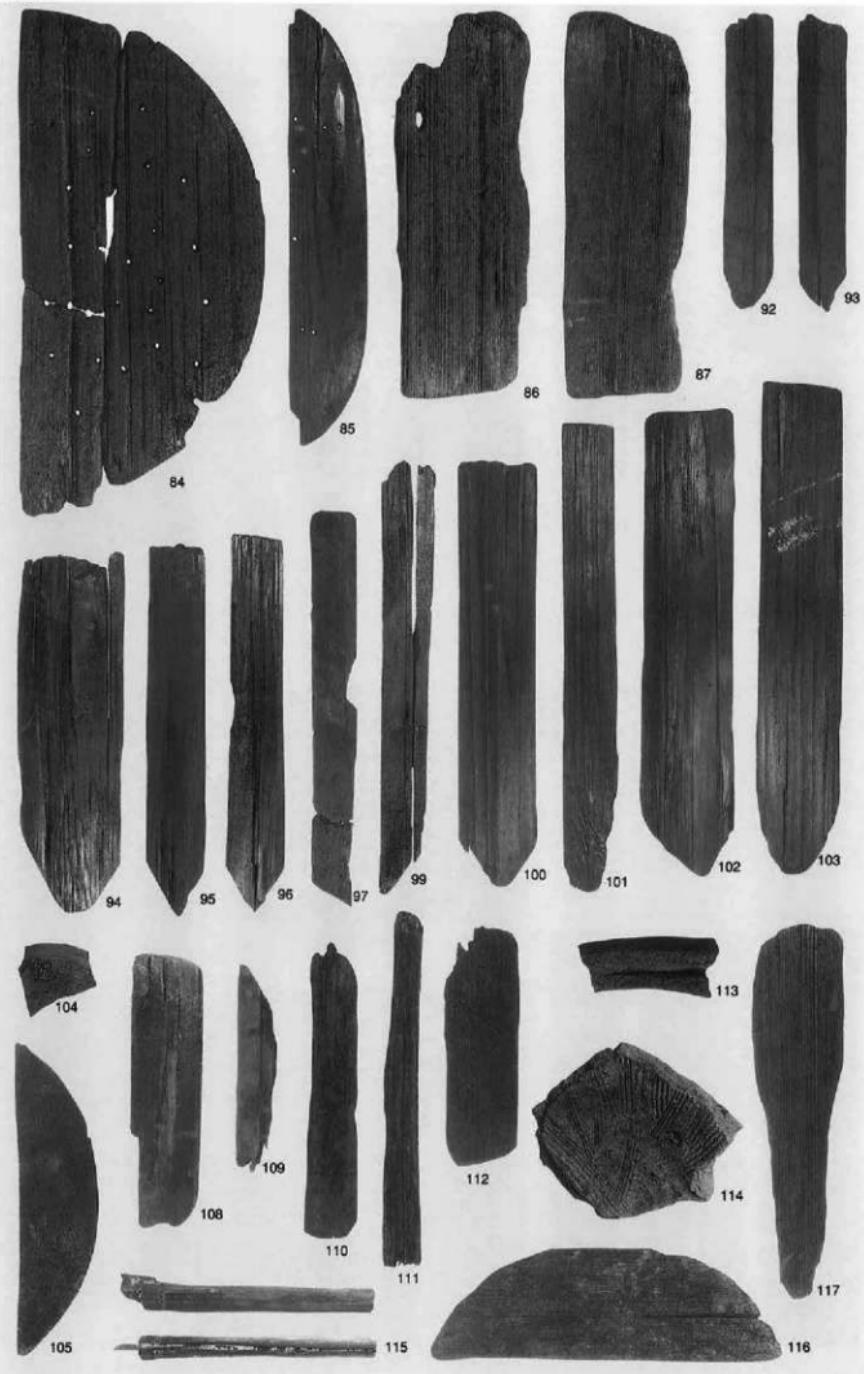
SK2163 木製品出土状況（西から）

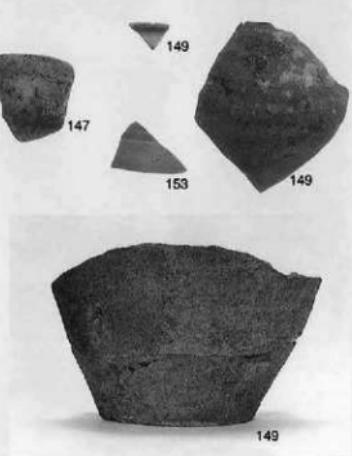
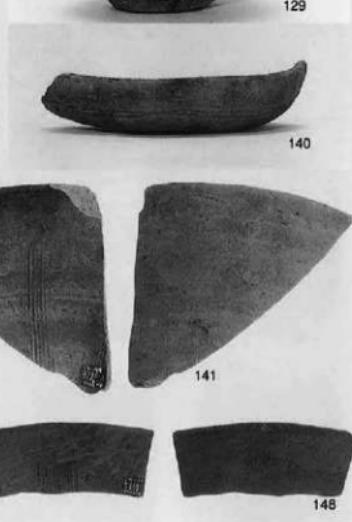
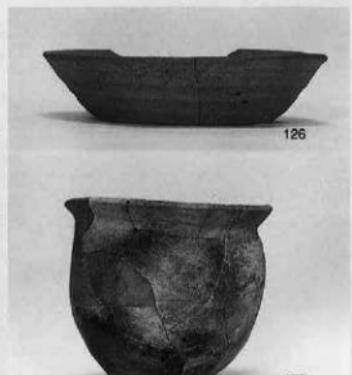
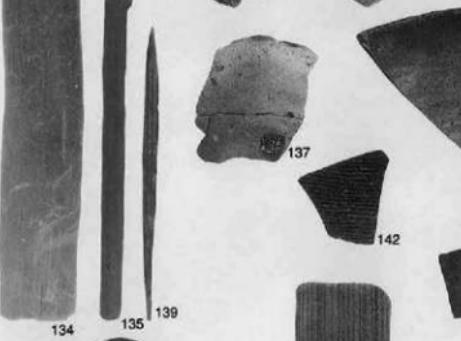
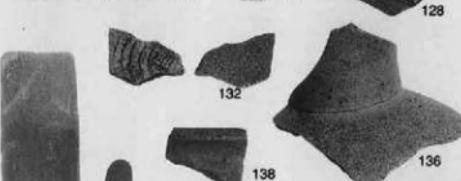
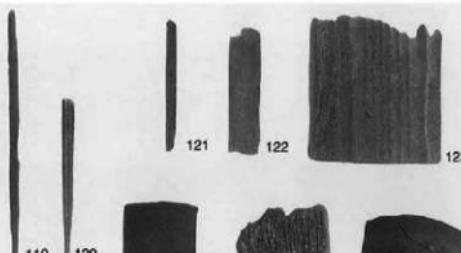


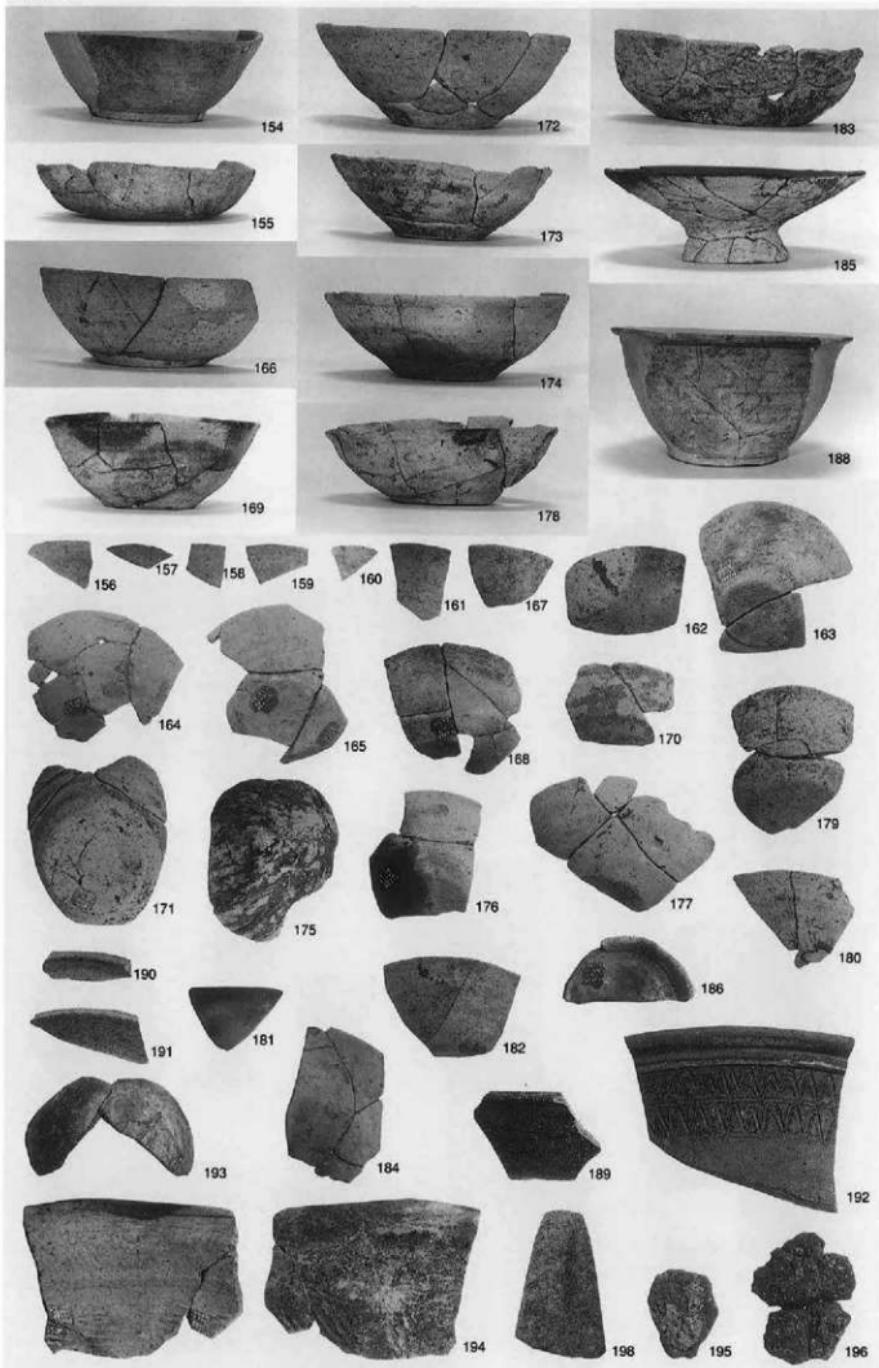
SK2167 輪花皿出土状況（南から）

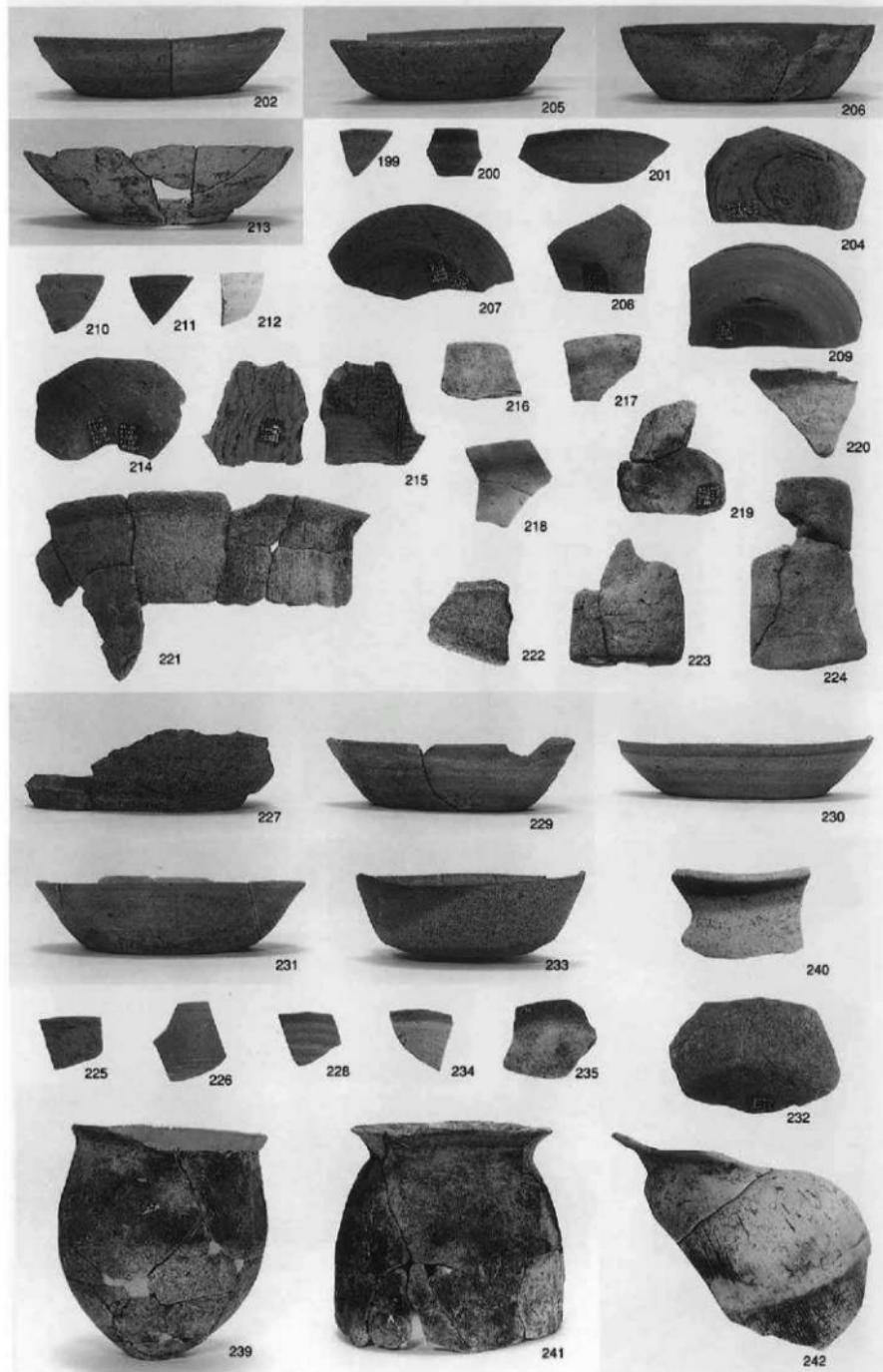




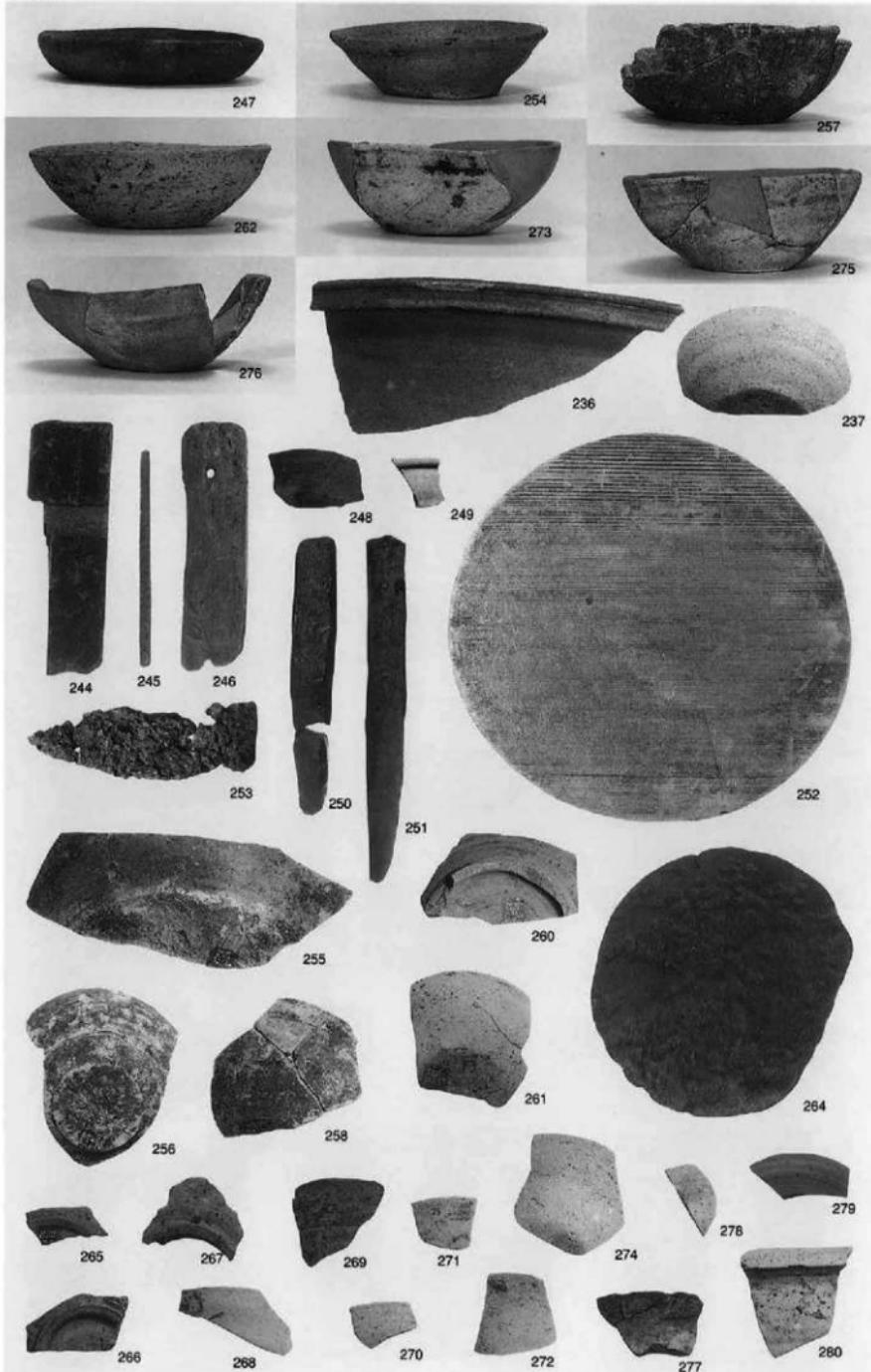


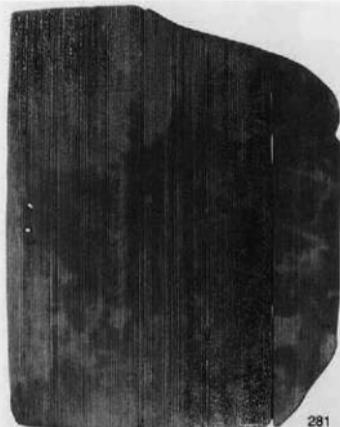






図版95

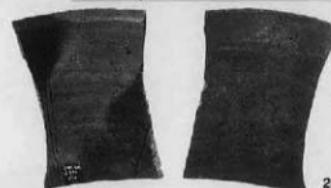




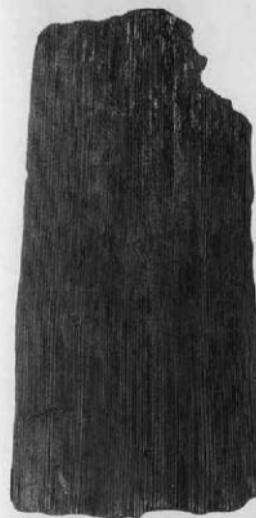
281



283



284



285



286



287



288



289



290



291



292



293



294



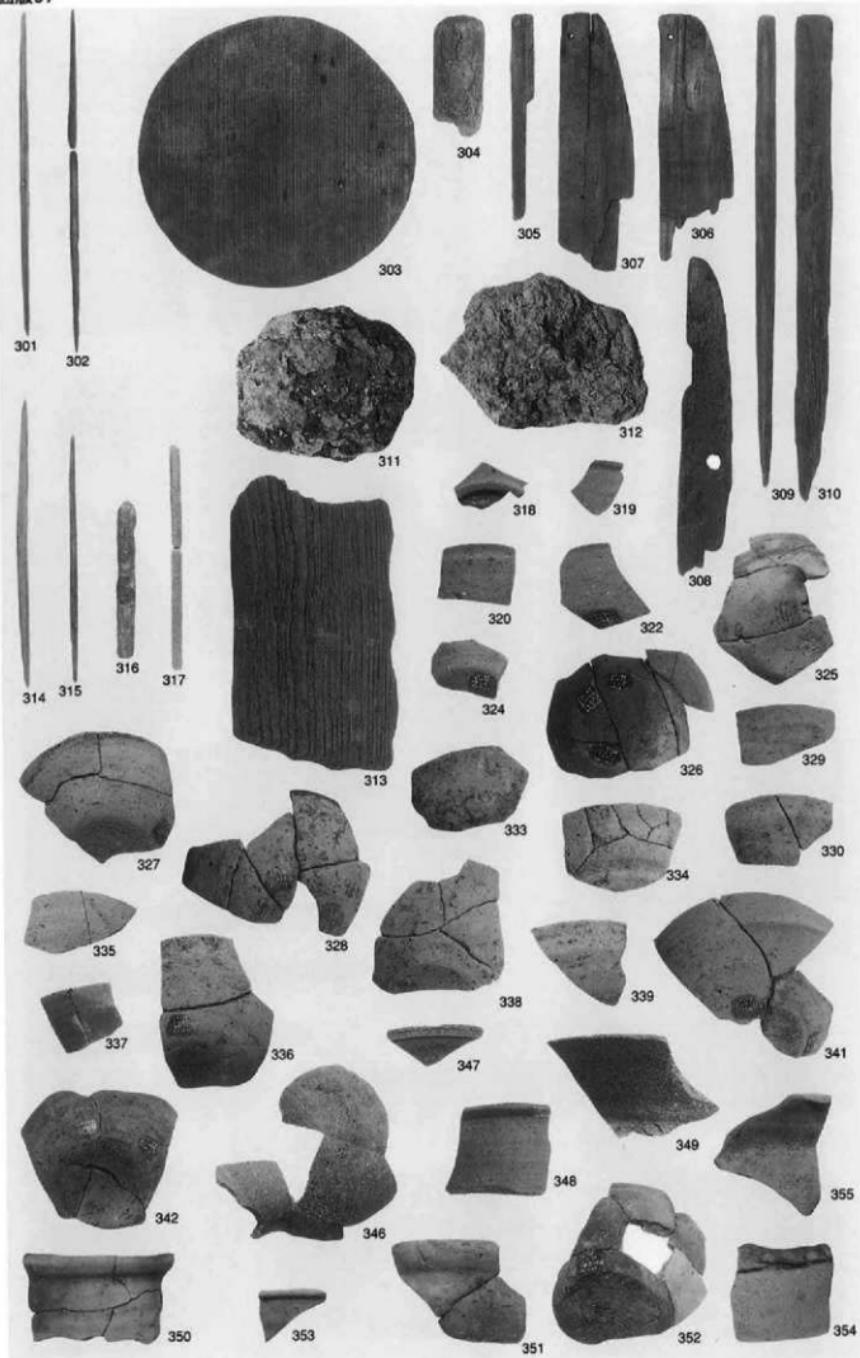
295

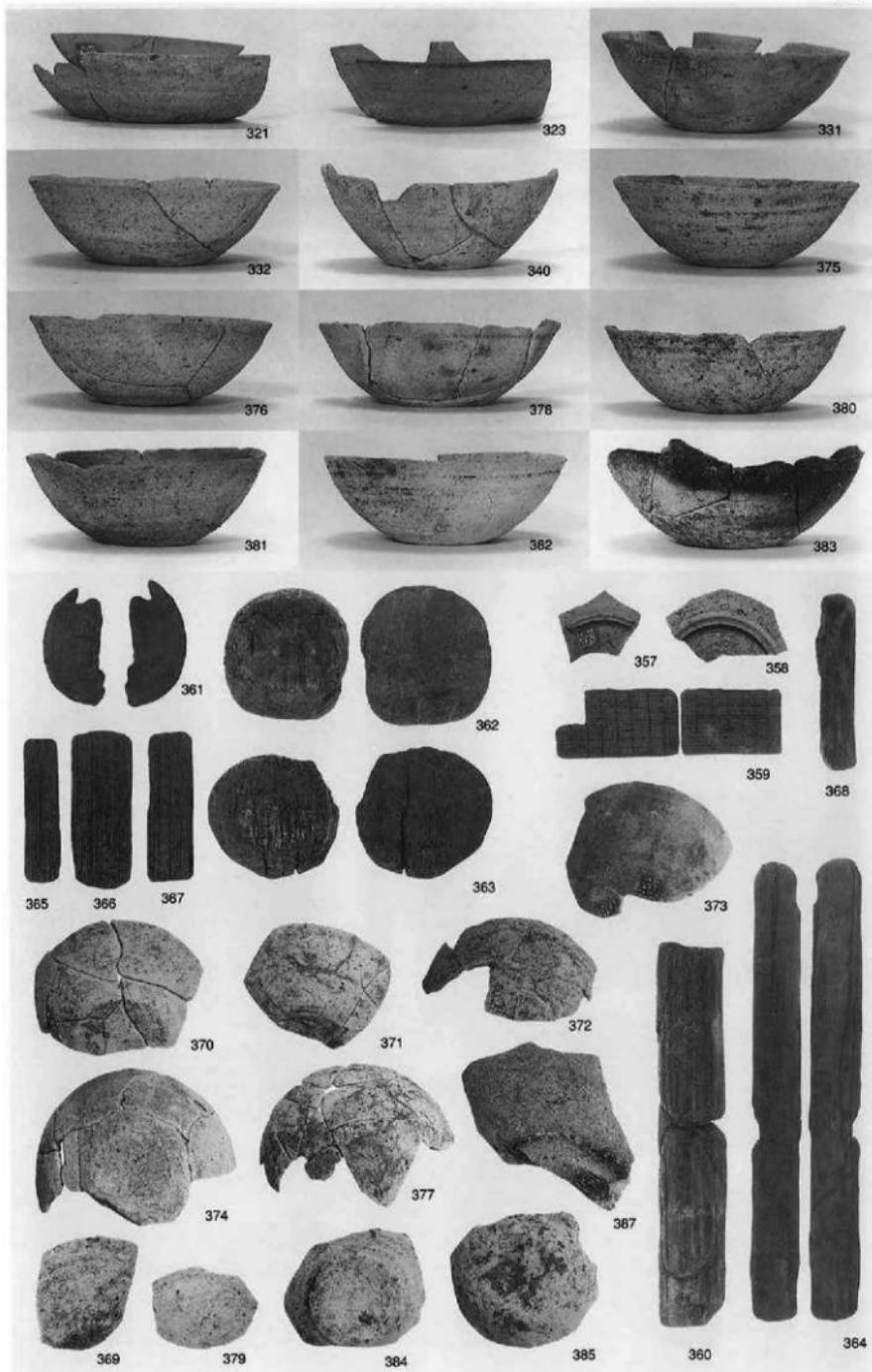


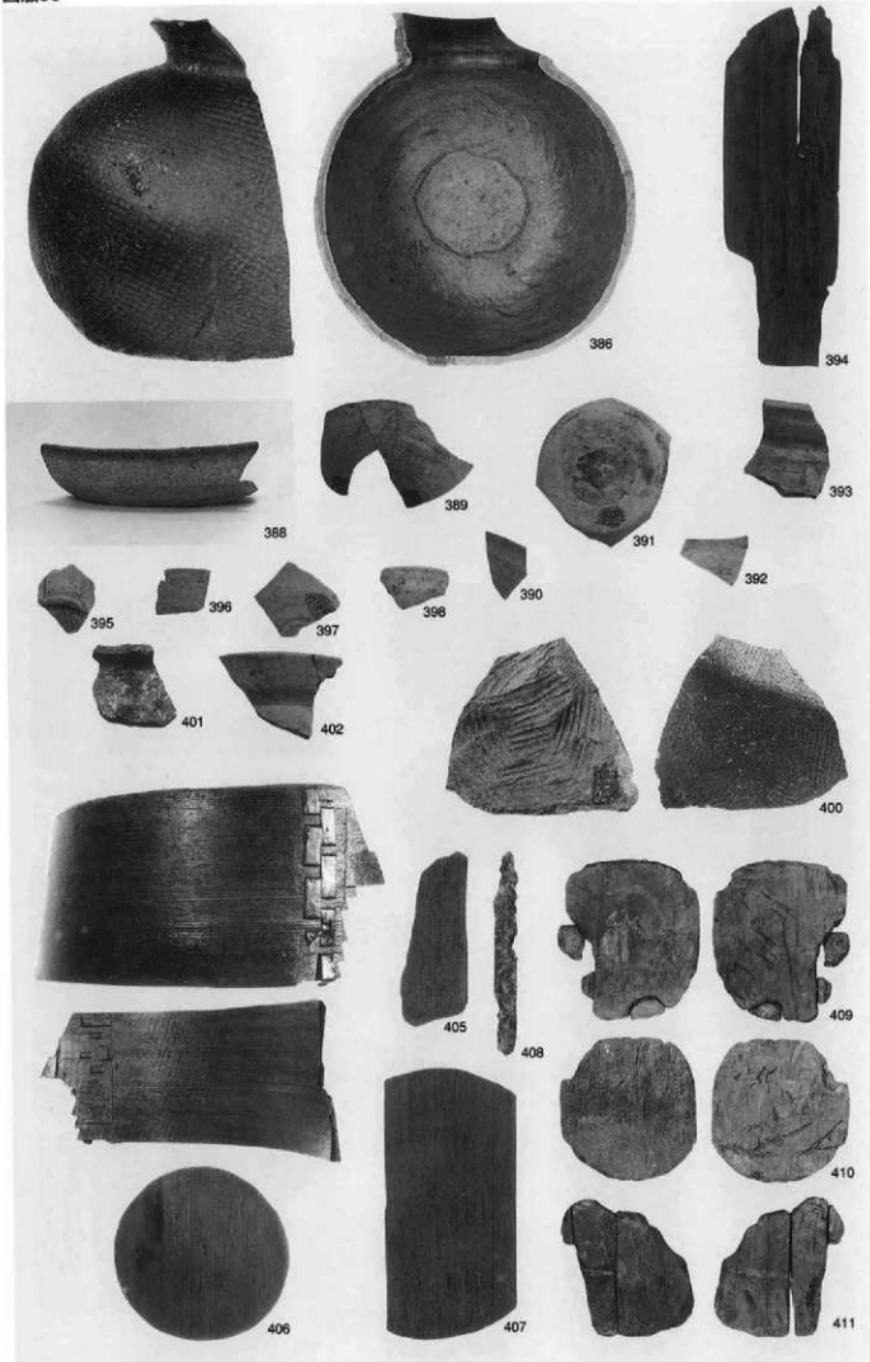
296

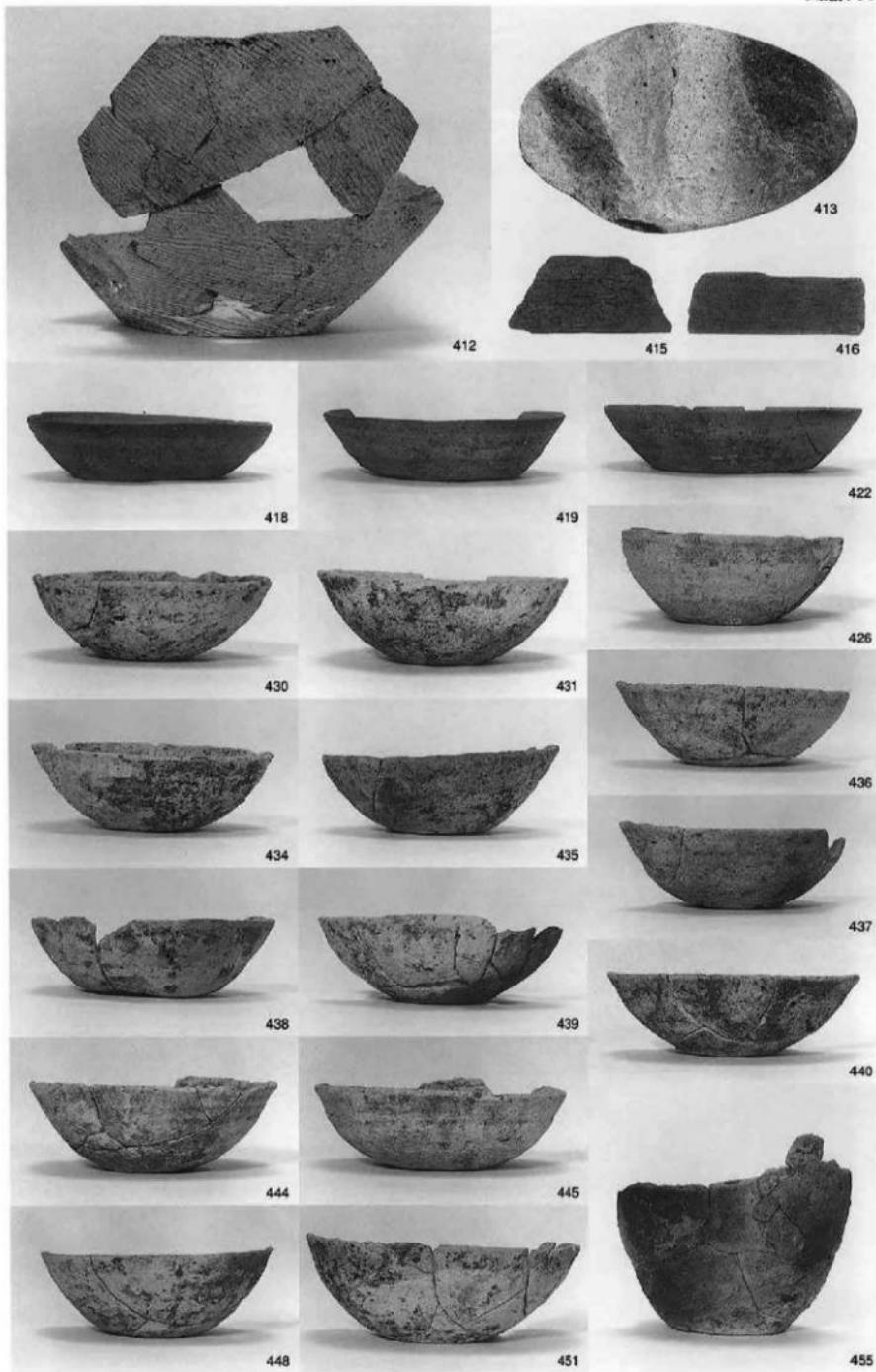


297

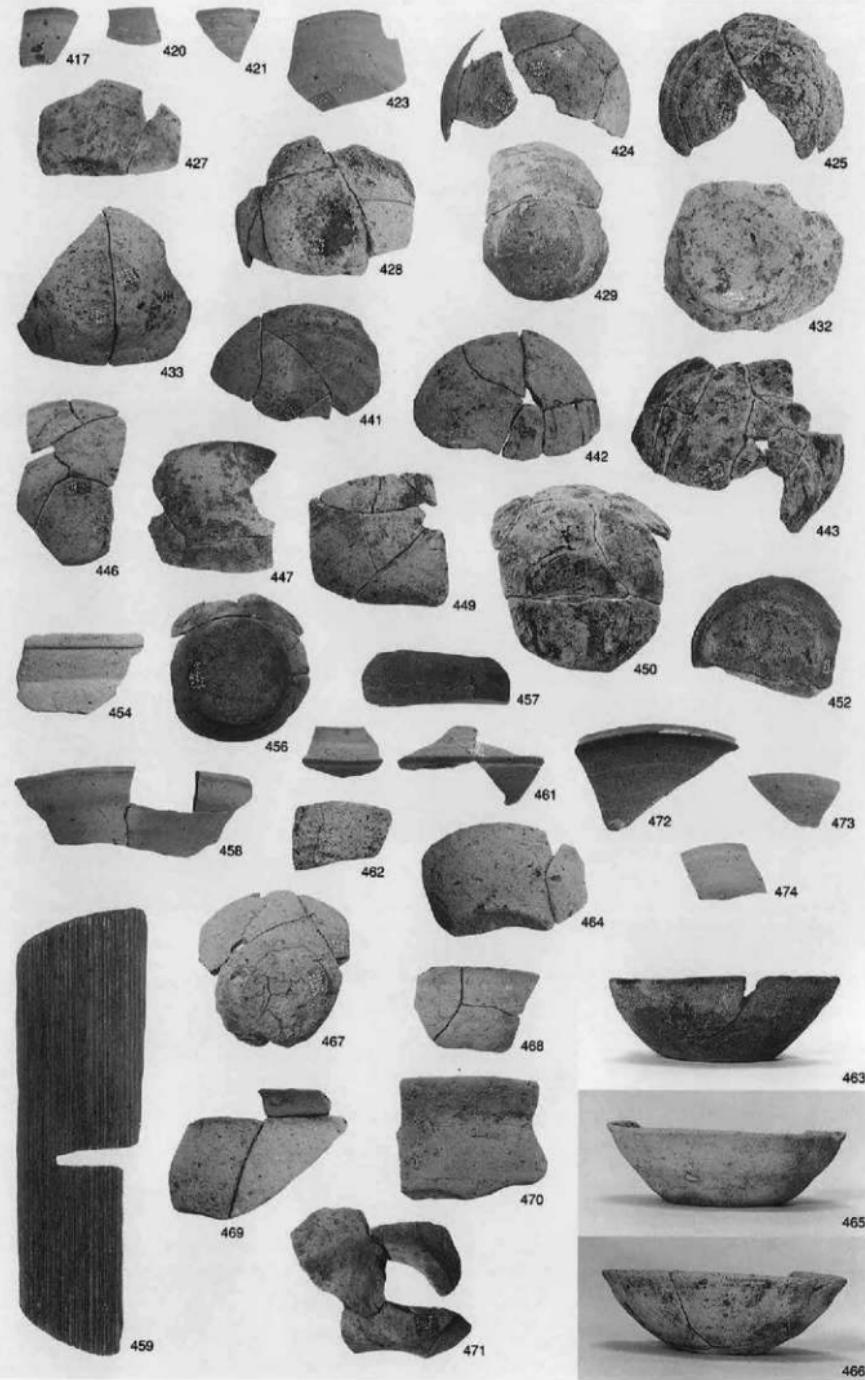


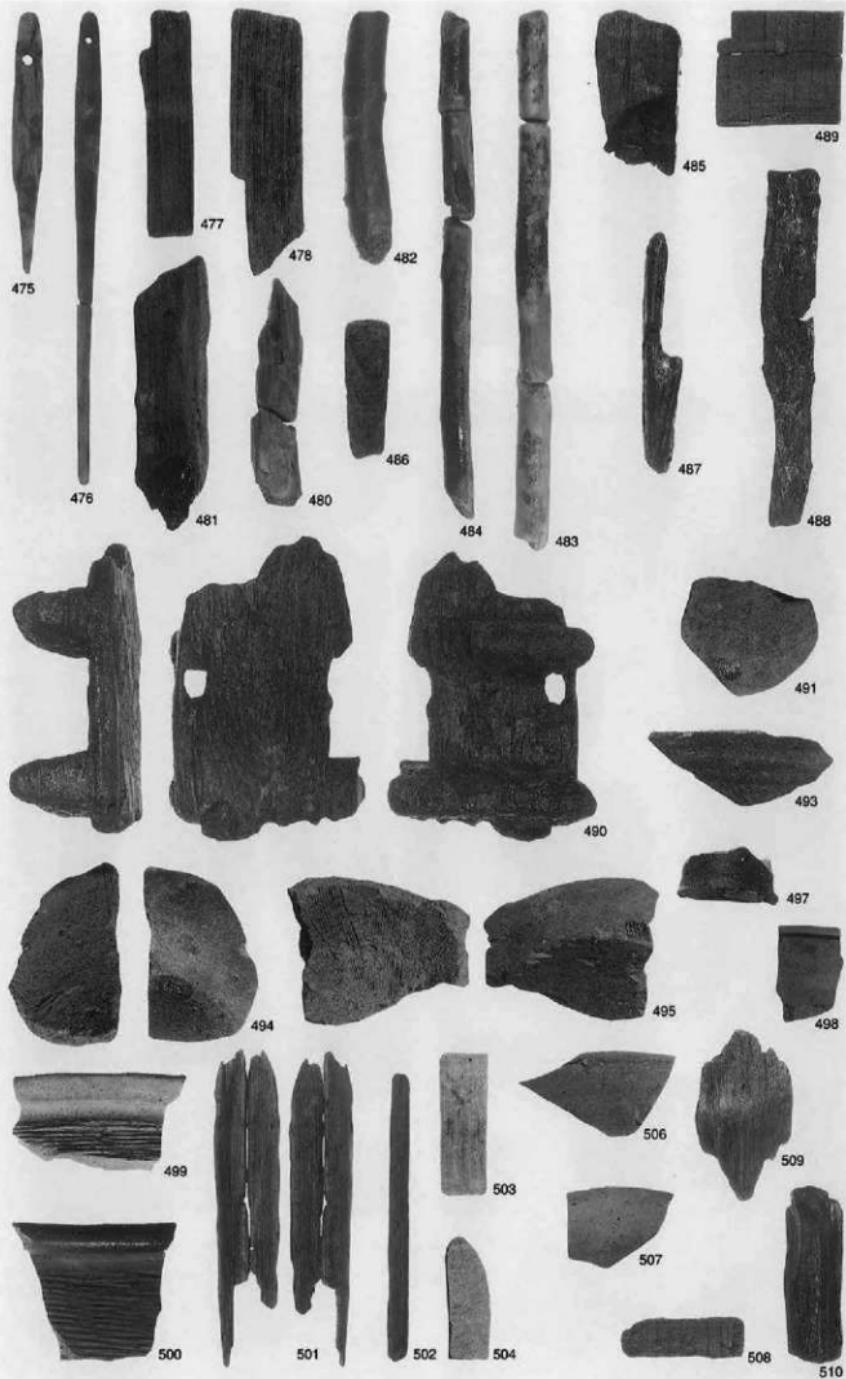




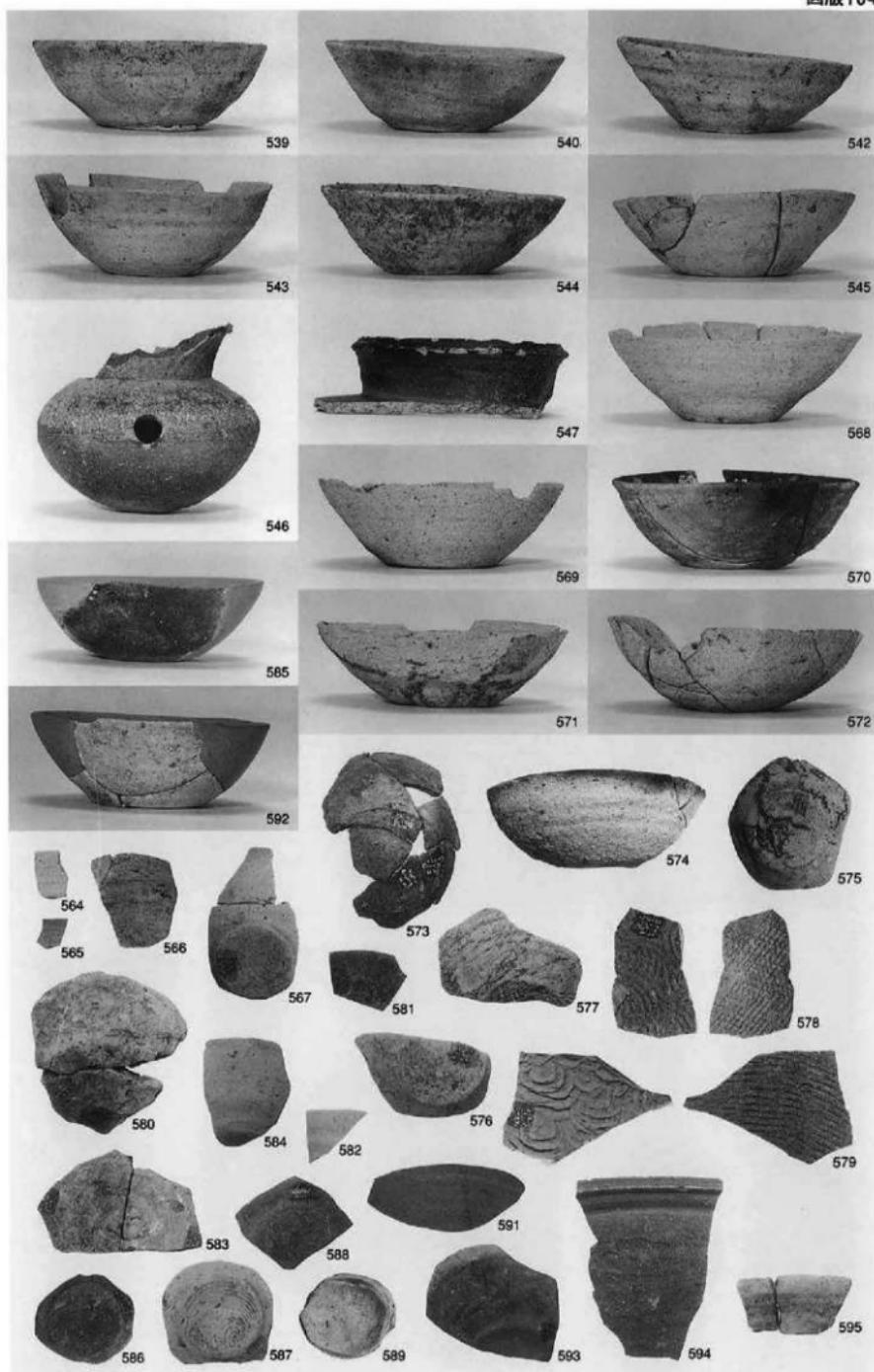


圖版101

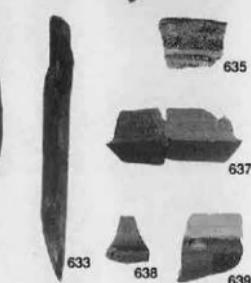
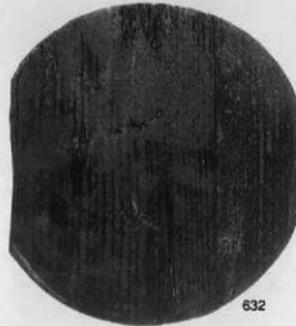
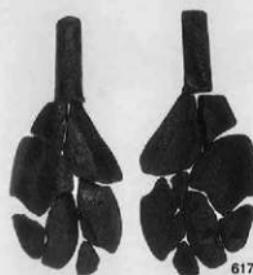
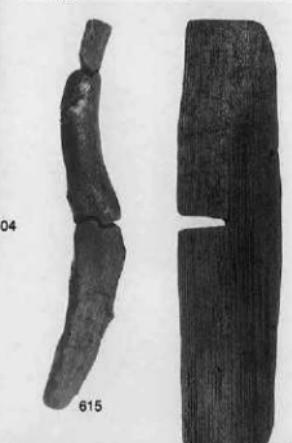
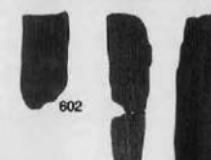
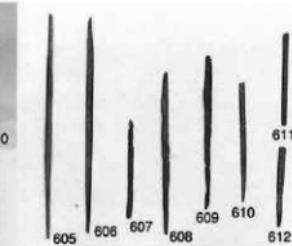








図版105





640



641



642



643



640



645



646



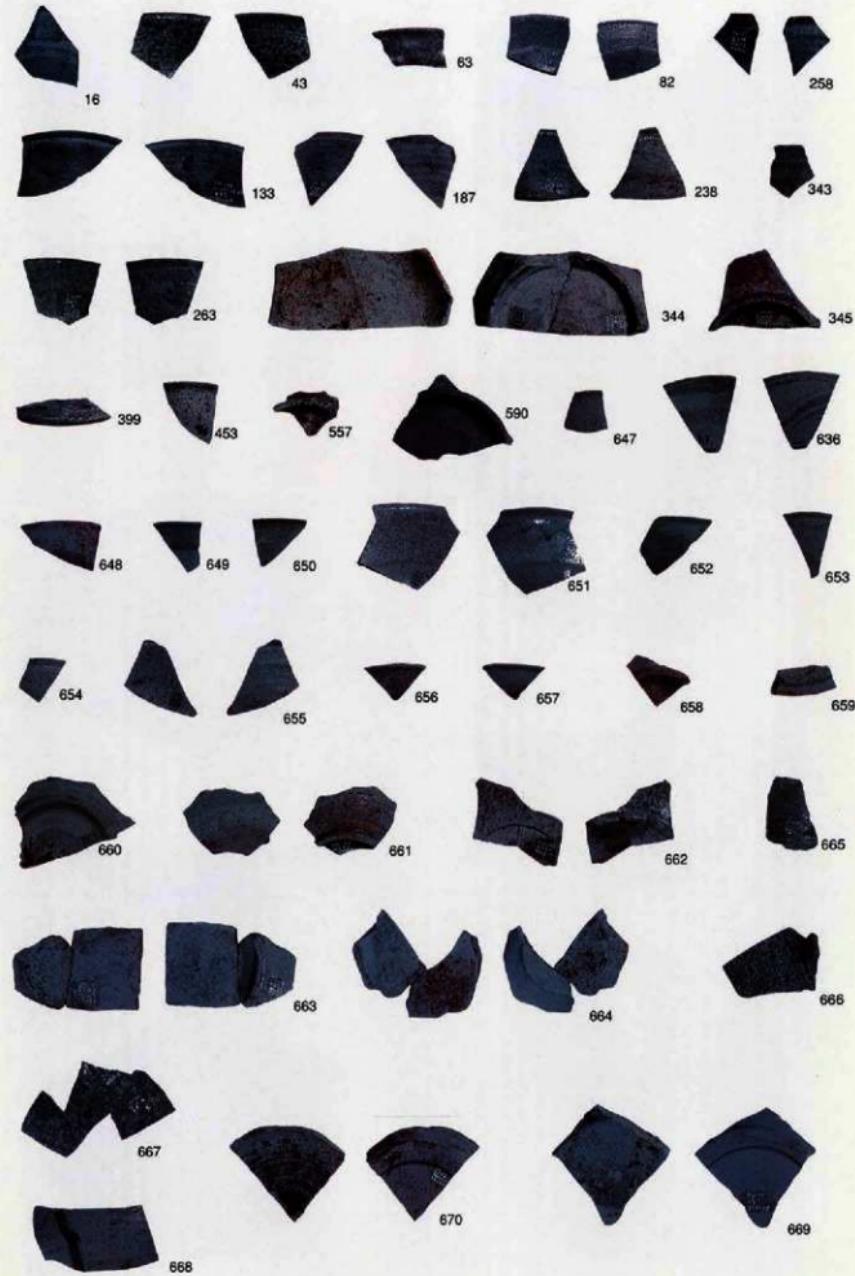
672



673



644





476

620

118



492



519

629



619



625



671



243



295



601



299



460



511



521



626





621



623



525



535

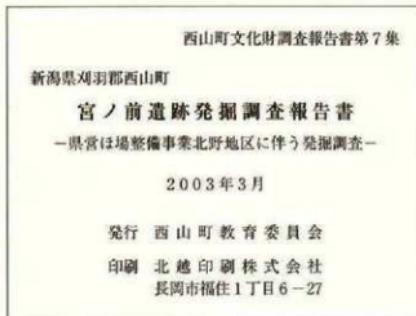


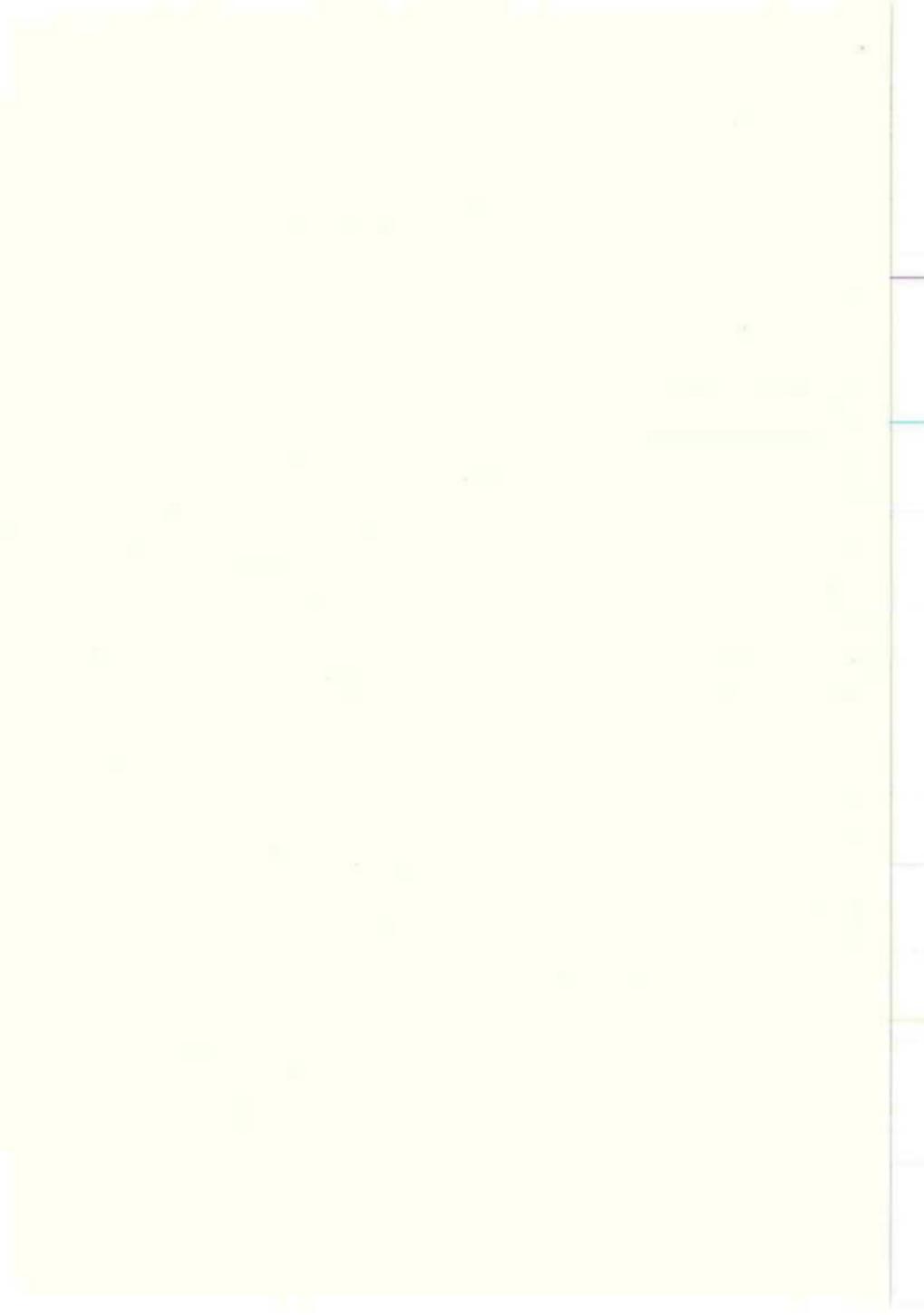
613



ふりがな	みやのまえいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	宮ノ前遺跡発掘調査報告書
副書名	西山町文化財調査報告書
シリーズ名	第7集
編集者名	中島義人
編集機関	西山町教育委員会
所在地	〒949-4193 新潟県刈羽郡西山町大字池浦117-2 TEL(0257)47-4006
発行年月日	2003年3月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	道路番号					
宮ノ前遺跡	新潟県刈羽郡西山町大字 北野字宮ノ前3014-1ほか	15505	172	37度 25分 56秒	138度 39分 5秒	19990419 ～ 19991008	3,850	県営は場 整備事業 北野地区 による
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
宮ノ前遺跡	散布地	古墳時代 平安時代 中世	獨立柱建物跡・ 井戸・土坑・溝	須恵器・土師器・灰釉陶器・ 珠洲焼き・瀬戸・青磁・漆器 木器・木製品			古墳時代は畠田遺跡と強い関 連・平安時代は独立柱建物・ 溝が計画的に配置され、灰釉 陶器が多数出土・中世は井戸 などから多数の木製品が出土	







宮ノ前遺跡遺構全体図 (S=1: 200)